

目 次

会長のページ 平成16年度診療報酬改定に向けて(その2)	秦 喜八郎	3
日州医談 保険者の再編・統合問題, 7割給付問題について	高橋 政見	4
駒込だより 社会保険・老人保健診療報酬改定要望事項		6
就任挨拶 宮崎大学医学部附属病院長に就任して	江藤 胤尚	7
随筆 患者さんが好きで好きでたまらない医者	谷口 二郎	8
人権の無い, 日本の神	富山 明宜	10
エコー・リレー(340)	宮永 省三, 北村 豪	13
叙 勲・祝 賀		14
叙 位・叙 勲		15
表 彰・祝 賀		16
グリーンページ 平成16年4月診療報酬改定要望(診療側)について	志多 武彦	23
宮崎大学医学部だより(附属図書館医学分館)	糸永 一憲	29
宮崎県感染症発生動向		30
各都市医師会だより		32
各種委員会(医学会誌編集委員会)		34
九医連第258回常任委員会		35
全国医療情報システム連絡協議会第20回定例会議		36
平成15年度全国医師会勤務医部会連絡協議会		38
県ドクターズテニス秋の大会		40
日医 FAX ニュースから		42
ヒヤリ・ハット!	江藤 胤尚	44
医事紛争情報		45
薬事情報センターだより(200) あらためて調剤とは		47
理事会日誌		48
県医の動き		52
追悼のことば		53
会員消息		54
ベストセラー, ドクターバンク		56
行事予定		57
医学会・講演会・日医生涯教育講座認定学会		59
私の本 燦燦(33年)の軌跡	貴島 テル子	64
診療メモ(婦人科における腹腔鏡手術)	和田 俊朗	65
おしえて! ドクター 健康耳寄り相談室		68
あ と が き		72
平成15年総目次		73
~~~~~		
お知らせ 郡市医師会への送付文書 .....		70
宮崎県医師会館の閉館について .....		71

# 医師の誓い

人の生命を尊重し、これを救い、更に健康増進に寄与するは、医師たる職業の貴い使命である。

人の生命を至上のものとし、如何なる強圧に遇うとも人道に反した目的のために医学の知識を乱用せず、絶えず医学の研鑽と医術の練成に励み、細心の注意と良心に従って医を行う。

社会の倫理にもとらず、不正の利を追わず、病を追ひ、病を究め、病める人を癒し、同僚相睦び相携えて、医学の名誉と伝統を保持することを誓う。

## 宮崎県医師会

(昭和50年8月26日制定)

〔表紙写真〕

### えびの雪景

寒波到来の予報で、冬タイヤに履き替えて「えびの高原」に向かう。

雪が舞い、ときおり吹雪く高原は白銀の世界。韓国岳や無骨なガードレールも雪雲に覆われ、薄化粧した冬枯れのススキ達が、早く撮って早く撮ってと、風情ある表情を見せていた。

南国宮崎の雪は暖かく感じた。

新富町 丸 田 英 夫

(第4回宮崎県医師会医家芸術展より)

## 会長のページ

## 平成16年度診療報酬改定に向けて(その2)

秦 喜 八 郎

中医協における次期診療報酬改定論議が本格化して来ました。日医は10月1日の総会に総論的要求を、10月22日に具体的要求を出しています。日医社会保険診療報酬検討委員会の要望事項(10/8)最重点項目12項目、重点項目45項目・93件、各科要望項目83項目・443件を踏まえてのものです。

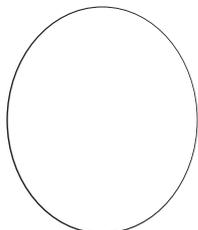
すでに坪井会長は、13年度の実績医療費をベースに14年、15年度のマイナスをカバーする為に、15年度の見込み額に比べて7.1%増(2兆1,000億円増)の診療報酬改定を要求するとしています。財務省は、賃金・物価の動向や医療保険財源の悪化から診療報酬の5%引き下げを主張しています(11/11)。足して2で割る従来の手法からいきますと、プラス1.05%の改定となりそうです。平成14年度の医療費が28.6兆円と前年度比0.8%減となっています。厚労省の制度改定などによる1%増の予測と1.8%違ってしますので痛み分けて、0.9%のプラス改定となるかも知れません。

診療報酬の引き上げ問題を持ち出すのは、国民の感情から見て得策でないという意見があります。医療の苦しい現場を知らない者の発言です。現に介護サービス単価2.3%引き下げの中で、ケアマネジャーの介護保険給付費は、赤字を理由に17.1%も引き上げられています。医療経営基盤の安定なくしては良質の地域医療の提供も実現しません。

14年度の医療費の動向(9/5・中医協)をみると、病院マイナス1.2%、診療所マイナス4.4%であり、16年度改定では、診療所に重点をおいた配分がなされるべきであると思います。種々の調査の間で診療科間のバラツキ、病院や有床診、無床診という経営体制間での格差が浮かび上がって来ます。診療報酬体系の抜本的見直し、青本を日医で書き換える位の努力が必要であると思います。今回の改定には間に合いませんが、その方向づけはしておきたいと考えています。

日医代議員会(10/12)でも、都道府県医師会長協議会(11/18)でも診療報酬問題に話題が集中しましたが、日医診療報酬問題検討委員会で論議済みの事ばかりでした。要望実現の為に財源が必要です。(H15.11.22)

## 日州医談



## 保険者の再編・統合問題，7割給付問題について

### 第41回全国医師国保組合連合会全体協議会の報告

理事 高橋政見

宮崎県医師国保組合では、本年4月、9割給付を8割給付にし、10月からは保険証のカード化をいたしております。当組合としましては大変革でありましたが、全国国民健康保険組合協会の全国会議で、昨年6月の時点では「9割給付の組合は是非8割に！」と言っていたのが、今年の4月からは「7割給付にしてほしい」となっております。

10月31日に広島市で全国医師国民健康保険組合連合会の全体会議があり、保険者の統合再編問題、7割給付の問題などについての協議がなされましたので、報告いたします。

#### 保険者の再編・統合問題について

保険者の規模を見てみますと、表1のようになります。2001年3月末のデータですが、医師国保組合はこの中の国保組合に含まれます。全国47医師国保組合の被保険者数は約33万人で、国保組合総被保険者数の約7.8%で、全体の約0.38%であります。

厚生労働省が考えているのは、市町村がやっている国民健康保険ができれば県単位に一つずつにしたいということです。それから、健康保険も、もう少し規模を大きくして、小さいところの保険は政管健保に移してしまうということ。国保組合はもうその制度をやめて、大きな健保の中に吸収するか、都道府県ごとの国保に吸収するか、どちらかにしたいということでしたが、理想的な保険であるということで、そのあり方について今後検討することになりました。ただし、小規模財政逼迫の組合については、再編統合してもらうようにしたらどうか、という

ことになっているようです。また小規模の基準は3,000人ということになっています。

宮崎県医師国保組合は表2のように、平成15年10月末で被保険者数2,206名であります。356名の老健該当者のうち現在75歳以上の方が253名いらっしゃいますので、75歳以上の方が将来新設の高齢者医療制度の方へ移行されると2,000名以下の小規模組合になります(75歳未満の方は、医師国保に残ることになります)。

また、今後は、国保組合を都道府県単位にするということで、業種別に置くのは、だんだん難しくなってくると思われ、同業者の保険は、例えばブロックごとに統一していくといった方向を考える必要があるとの意見もあります。

#### 7割給付問題について

全国国保組合協会の戸澤会長は、健保法改正で被用者保険の給付率が7割に統一されたことについて、「現在の経済情勢のなかでは妥当と考える」としたうえで、医師国保組合に対して「自家診療の制限など努力しているが、社会保障の先頭に立って模範的な運営をするということで、7割給付を実行し、普及させて欲しい。医師国保組合に対する国庫補助率32%を維持するためにも、自主的な努力が必要だ。医師国保組合を守るためにも7割を実現して欲しい」と求めております。

医師国保組合と市町村国保の財政力を比べると、国庫補助のあり方については、少し恵まれすぎではないか、赤字が出た場合に調整の助金をだすことは、中小企業対策という意味から必要だと思うが、給付について保険料ではなく

税金でその3割を賄っているというのは、保険として異常な形ではないかという意見もあるようです。

2003年10月1日現在の全国47の医師国保組合の給付率は、本人9割、家族8割が1組合、本人、家族とも8割が33組合、本人8割、家族入院8割、入院外7割が7組合、本人8割、家族7割が4組合、本人家族とも7割が2組合となっています。

本組合は漸く本年4月から8割給付にいたしました。保険料やその他の給付は変更せず、当分の間8割給付でと考えております。最近の国

家財政を考えれば、補助金の削減は覚悟しておかなければなりません。国民健康法第43条に規定されておりますように、一部負担金の割合を減ずることが出来るわけでありますから、自主運営できる国保組合として今後も努力すべきと考えております。

本年8月21日に開催された九州地区医師国保組合連合会の全体会議では保険者の統合・再編、7割給付問題、自家診療など今後の問題について、ブロックとして「将来問題検討委員会」を開催することになりました。

表1 保険者の規模

平成13年3月末現在

	保 険 者 数	被 保 険 者 数 (万人)	加 入 者 数 (万人)
政 管 健 保	1	1,945	3,676
組 合 健 保	1,756	1,503	3,138
船 保	1	8	23
共 済 組 合	78	449	1,001
市 町 村 国 保	3,242	4,337	4,337
国 保 組 合	166	425	425
計	5,244	8,667	12,600

表2 宮崎県医師国民健康保険組合の被保険者数

平成15年10月末現在

	被 保 険 者 数	一 般			老 人 保 健 該 当 者
		0 ~ 70 歳	70 歳 以 上		
			一 般	一定以上所得	
組 合 員	740	536	0	17	187
家 族	1,463	1,288	0	6	169
従 業 員	3	3	0	0	0
計	2,206	1,827	0	23	356

## 駒込だより

## 社会保険・老人保健診療報酬改定要望事項

日本医師会長 坪 井 栄 孝 殿

社会保険診療報酬検討委員会

委員長 秦 喜八郎

小委員長 難 波 俊 司

平成16年4月に予定されている診療報酬改定に対して、各方面から日本医師会に多くの要望事項が提出されているが、当委員会はこれらを勘案しながら、緊急に改定すべき事項について検討を重ねた結果、別添の事項を診療報酬改定案として提出する。

今回の要望事項は以下に述べるような基本的な考え方に基づいて決定したものである。

急速に進展する少子高齢社会における老人医療費の増大と長期化する経済不況は医療保険財政に極めて大きな影響を与えている。

去る6月26日、政府の経済財政諮問会議は「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2003」を取りまとめ、これを受けて政府はその内容を6月27日に閣議決定した。この中の「規制改革、構造改革特区」「社会保障制度改革」において、株式会社等による医療機関の経営の解禁や、いわゆる混合診療の拡大等々が書き込まれている。その上、7月15日、総合規制改革会議は「『規制改革推進のためのアクションプラン、12の重点検討事項』に関する答申」を小泉首相に提出したが、この中でも混合診療を包括的に認める制度の導入などを執拗に求めている。

このように政府は社会保障の理念に基づいた医療保険制度を破壊する方向に舵を切りつつある。

平成14年4月に実施された診療報酬改定において2.7%のマイナス改定が行われ、技術料本体に対しても1.3%の切り込みがなされた。殊に外科手術における逓減制は地域における不平等が発生する可能性を含み国民皆保険制度を根底から揺るがしかねない内容であり、加えて平

成15年6月に見直さざるを得なかった再診料逓減制についても患者に対し説明ができないものであった。

このような理不尽な改定を再び実施させてはならない。又、平成14年10月、平成15年4月実施の制度改正により国民の医療費自己負担は極めて増大し、強い受診抑制が働いており、医療機関の経営は一層困難となってきた。

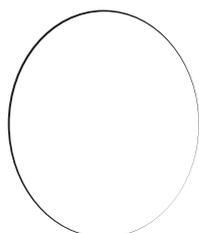
このような状況下にあっても、多様な医療を求める国民に対して、良質な医療を継続的に提供していくためには、医療提供体制の再構築とそれに対応する診療報酬体系を確立し、正当で合理的な技術評価に基づく診療報酬改定が必要となる。

以上の観点から本委員会の総意に基づき最重点要望項目として下記12項目を提起することとした。

1. 初診料・再診料の引き上げ
2. 大病院の紹介外来制の推進
3. 有床診療所の入院基本料の改定
4. 不合理な処置及び検査点数の見直し
5. 不合理通知の見直し
6. 診療所の位置づけの明確化、大病院への診療報酬の重点的配分の是正
7. 特定療養費制度拡大の歯止め
8. 診療報酬改定の十分な周知期間の設定及び告示・通知の早期化
9. 届出等が必要な診療報酬算定要件の緩和
10. 減算方式から加算方式への改定
11. 長期投与の制限緩和の一定の歯止め
12. 手術に係る施設基準廃止

## 就任挨拶

## 宮崎大学医学部附属病院長に就任して

え とう たね なお  
江 藤 胤 尚

宮崎医科大学は10月1日に統合して宮崎大学医学部として生まれ変わり、病院は医学部附属病院となりました。新大学の学長に選任された住吉前病院長の後を

継いで、私が病院長に就任致しました。就任したばかりで、日々の諸事に追われ、抱負に思いを致す余裕がまだありません。

包括医療制度、新研修医制度、大学独立法人化など、新たな制度が導入され、大きな変動期を迎えています。この変動に巻き込まれ、将来を見通すことの難しい時期に院長を引き受けたものだと感じています。そこで副院長の支援が重要になりますが、高崎教授に医療安全管理部と経営企画部を担当する副院長に就任していただき、池之上副院長には継続して卒後研修センターと地域医療連携推進部の担当をお願いしました。両副院長の強力な支援を期待したいと思います。

当院は前病院長の時代から病院機能の改善に取り組んできました。その一環として、日本医療機能評価機構の評価に挑戦し、本年2月に精神科を含む病院の認定基準を満たしているとの認定を受けることができました。このレベルの認定を受けた国立大学附属病院は当院を含めて現在でも5施設に過ぎません。さらに外部評価として、1週間にわたる患者アンケート調査を年2回実施しています。その結果を分析したところ、「外来患者の待ち時間の短縮」が最大の課題であることが判明しました。早速ワーキング・グループを立ち上げ、有効な対策法の検討が始

まっています。今後、ISO 9001の審査に挑戦することを視野に、外部評価に取り組みたいと考えています。

大学独立法人化が導入された後、財政がどうなるか、まだ未確定かつ不透明な部分が残されています。しかし、最大の収入源となる附属病院は極めて重要な存在となります。そして、病院の経営合理化が今以上に強く求められると思われま。現在、稼働率は93%と国立大学附属病院の中でついにトップとなり、在院日数もそれなりの数値を維持し、外来患者数も全国最下位を抜け出しています。包括医療制度の導入にもかかわらず、病院収入は増加傾向を維持し、経営効率からすると全国のトップレベルにあります。独立法人化後にもこのような状態を維持出来るかどうか問題です。

新研修医制度の導入がどのような形に落ち着くか、中期目標・中期計画をどのように実現していくか、外来の改築を含む病院再開発をどのように推進するか等々、問題点が山積しています。就中、母校で研修を受ける卒業生の数を増やすことや、その中から3年目に診療各科に入局する医師を多く獲得することが、地域医療の視点からは最も重要な課題と思います。この内部評価的側面を持った外部評価の結果が、宮崎県の医療の将来を左右するとの認識を深くしています。

以上、病院長として取り組むべき重要な課題を取り上げて、これらに前向きの姿勢で立ち向かうことを抱負としたいと思います。新しく発足した当院の発展のため、県医師会の先生方にも、ご支援、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 随 筆

## 患者さんが好きで好きでたまらない医者

宮崎市 たにぐちレディースクリニック たに谷 ぐち口 し二 ろう郎

先日 永六輔の「笑って死ねるか」というTV番組をやっていた。彼は一年のほとんどを、旅から旅へという生活をしていて、自宅にはほとんど居ない。そこで日本各地にいるんな知り合いの医者が出て、体の具合が悪い時には必ずその最寄の医者を訪れるという。「いい医者を見つける10か条」と言うものを自分で作り、そういう医者に見てもらおうという。それは次のような10か条である。

## 1. 話をよく聞いてくれる。

3分間診察というように、どうしても話をよく聞くという時間がない。又、患者側もあんまり長話をしてはいけけないのではないかと思ひ、遠慮する傾向がある。聞く時に「なるほど」「それで」「それは大変でしたネ」などの相槌も必要だ。

## 2. 分かりやすく説明してくれる。

医者はい専門用語を使ってしまう。相手が分かってきてるといふ思いこみがあるのである。又、他に適当な言葉が見つからないという時もある。そこで例え話風にすると理解されることも多い。

## 3. 薬に頼らず、生活上の注意をしてくれる。

痛い時は痛み止めを、熱がある時は解熱剤を、血圧が高い時は降圧剤を処方する様に対応する事が多い。たしかにそれで症状も治まるので患者は満足する。しかし、例えばストレスを少なくする方法とか、運動することによって一日のリズムを作るなんていうことの

指導はほとんどしてくれない。

## 4. 必要があれば専門医を紹介してくれる。

頭が痛いという患者には、頭痛止めの薬をまず処方するが、それでも仲々治まらない時は脳外科で診てもらふことも必要となる。産婦人科でも例えば不妊などでは不妊専門の病院があるので、何回かトライしても妊娠しない時は紹介する。

## 5. 家族の気持ちまで考えられる。

病気は本人の問題なのであるが、足の不自由な方が毎日通院するのは不可能に近いことである。だからそれを送り迎えする家族が必要である。そういうことまで配慮していかれるかということも大切である。

## 6. 地域の医療福祉を熟知している。

その住んでいる所のネットワークを知っていることは、何かあった時にすぐそこに連絡すれば、後はその人達で解決してくれるので心強い。

## 7. 医療の限界を知っている。

病気というものは必ずしも治せないものもある。そういう時に、例えばホスピスなどの施設を利用するののも一つの手である。あるいはQuality of life(生きる質)というような、単なる延命のことだけを考えないということも大切である。

## 8. 患者の悲しみ、つらさを理解している。

治療する時、悲しみやつらさを感じることも多いはずだ。そのケアを出来るかどうか

医者に最も求められるものだろう。

9. ほかの医者(セカンドオピニオン)を快く受け入れる。

医者として神ではない。自分の力の限界というのがある。あるいは科が違ふと考え方も違ふものである。患者も同じだ。何となくこの医者の言ってることは信用出来ないと思って質問してくることもあるだろう。そういう時はそういう希望を喜んで受けることである。

10. 本当のことをショックなく教えてくれる。

病気の告知の時の一言で、相手がパワーをもらったり傷ついたりすることがある。それをうまい表現で相手に伝えられる医者になること。例えば「この病気になると歩くことも出来なくなります」と言うのと「この病気になる

と歩けなくなりますが、他のことなら何でも出来ます」という言い方の差。

先日、私の先輩医師が突然亡くなった。彼は自称「自分は患者さんが好きで好きでたまらない医者」と言っただけでなかった。必要があれば1時間でも2時間でも、患者が納得するまで話した。私なんかとても出来ない芸当だといつも感心していた。

いずれにせよいい医者を見つけるのは簡単なようでむずかしい。この10か条以外にも相性が合う合わないというものもある。あるいは遠くて仲々通院出来ないということもあるだろう。医者と患者がいい関係をもつには、やはりお互いの思いやりが必要だ。

## 随 筆

## 人権の無い、日本の神

筆者の言う「神様の人権」とは神意を  
世人に伝える、現世的な権利を指す。

日向市 鮫島病院 ^{とみ}富 ^{やま}山 ^{あき}明 ^{のり}宜

台湾の人口は現在約2,200万人。そのうち高山族と呼ばれる原住民は約30数万人である。高山族の青年はさきの太平洋戦争中「高砂義勇隊」として南方に派遣され、日本のために勇敢に戦って多くの犠牲者を出した。犠牲者は今でも靖国神社に合祀されたままである。

戦後政府の優遇政策で原住民の生活水準も向上し、教育の普及につれて、高学歴の人達も多くなり、自然と自分達の民族の歴史を知り自覚するようになった。

最近の高山族の言い分に依れば、先祖は1895年から50年間に160数回も日本の武力討伐を受け、多数の祖先が殺害された。1941年太平洋戦争では高砂族の青年を徴集して南方に派遣した。これは二世代にわたる滅族の殺戮行為に異ならない。それ故祖先の霊を加害者と同じ場所に置くのは忍びない。

それで5名の高砂義勇隊の遺族が「先祖が靖国神社に合祀されて居るのが不満で、先祖の霊を故郷に移して祭祀したい」と昨年(2002年)の8月12日靖国神社に対し、合祀取り下げを願い出たが、5名の遺族に同行し、神社と交渉した立法委員高金素梅氏の努力も空しく、神社は願いを拒絶した(立法委員は日本の国会議員に当り、高山族は4名の保証枠が提供され原住民同士で選出される)。

拒絶の理由は、既に日本の神になって居るか

ら、合祀の取り下げは出来ないと言う事である。

遺族は日本の神として祀られて居るならば日本人の遺族が毎年年間30万円の補償金が支給されるのに、何故我等遺族には、1銭の補償もないのか?かかる差別待遇をしながら何故我等祖先の霊を故郷に帰す事を認めないのかと抗議した。しかしその声も届かぬため、失望した遺族は止むなく、タイヤル族の民族衣裳を着て神社本殿前で涙ながらにタイヤル語で移霊の歌(我等と共に故郷に帰ろう...の歌詞)を歌ってから帰国した。

この新聞報道を読んで、改めて日本の神には人権が全く無いと思い知らされた。日本の神は完全に現世の人間の意志に依って左右されることがはっきりした。

翻って、中国の神は神意を現世の人間に知らせる手段があると改めて中国文化の特異を認識した。中国人は「筮杯(コウハイ)」と言う小道具を用いての神意を知る方法が何時の時代から始まったか知る由も無い。ただ甲骨文字の発見により、今から3~4千年前の夏、商王朝時代に甲骨を使って占卜したことが判明して居る。現在行われている方法は、2つの「筮杯」を地面に投げてその裏(-)、表(+ )の出方の組み合わせで判断するのである。1) + , - は聖卦と呼び YES の意, 2) + , + は陰卦と呼び NO の意, 3) - , - は笑卦と呼び no game の意。聖卦の出る確率は

2分の1だけれど、願事によっては、仲々聖卦が出ないのは不思議である。この筮杯は、中国・台湾の寺廟の神前には必ず備えてあり、参詣者は自由に使える。例えばおみくじを引いても必ず投筮して正否を問う。聖卦が出なければ、聖卦が出るまでおみくじを何度も引き直す。万一手元に筮杯が無い時、持ち合わせのコイン2枚を使って、その裏表の組み合わせで代用も出来る。

台湾では廟の位置の選定から、諸々の行事等すべて投筮に依って決められて居る珍しい例を紹介したい。それは「義民廟」と呼ばれて、新竹市東方約15kmに位置する新埔鎮枋寮村にある。この廟は客家移民の信仰が厚く、お線香の絶えることが無く近年選挙票目当てに総統もよく参詣することで有名だ。この廟はその名が示すが如く、官軍を援けて匪賊討伐に参加した義勇兵戦没者を祀る。

この廟の沿革と日本植民地時代の受難の数々を簡単に紹介する。

乾隆51年(1786年)台湾南部で「^{リンソウブン}林爽文の乱」が起き、北部の新竹までおしよせて、県知事は自殺に追い込まれた。そこで新竹近郷で客家人だけで義勇兵が組織されて郷土防衛に立ち上り、やがて福建省から増援した官軍と共に戦い2年後に乱は治った。この戦役の犠牲者は200余名、南部から凱旋する道すがら遺骨を集めながら牛車で運んだ。新竹を過ぎて、高さ300mの桃園台地と新竹平野の境を流れる鳳山溪を渡ったばかりの現地地点に差しかけると牛車は突然停まり、幾ら牛を鞭打っても動こうとしないので人々は途方にくれた。そこでお線香と祝詞(ノリト)をあげ、筮杯を投げて神意を問うた。聖卦が連続3回も出たので、ここが神様の氣に言った場所と判断し、ここで合葬し、傍に廟を建てて、毎年慰霊祭(旧7月20日)を行うことにした(ここは原計画地の地点よりも約10km手前)。

1790年に廟が落成し義民廟と名づけた。時の

乾隆帝は義勇軍の忠勇を嘉みせられて「褒忠」宸筆の扁額を下賜し1790年勅使を派遣これを台湾にとどけた。この額は現在でも本殿にかかげられている。

1862年(同治元年)彰化地方で「^{フイ}戴潮春の乱」が起き、再び客家の義勇軍が参戦し100余名の戦死者が出た。これ等戦没者の遺骨は先の「主塚」の傍に合葬されて「附塚」と呼ばれ、霊は義民廟に合祀された。

本廟は1895年日清戦争後、日本領台の折、ゲリラがこの廟に立て込み日本軍に抵抗したので、戦火で完全に消失した。

1899年(明治32年)地方有志と信徒の浄財に因り再建された。この再建の主任委員傅万福(私の曾祖父の長兄)が一番の功労者と認められ、死後その功績に因り義民廟の正門から入って直ぐ右側に神牌が置かれ神として祀られている。

義民廟は、当時法律で祭祀公業の認定を受け、寺の財産と収入は全部免税で年を重ねる中に莫大な財になる。1907年(明治40年)台湾総督府は廟の財産に目をつけ、これを没収しようと企んだ。調査名目で高官を派遣、台北から汽車に乗り、列車後部2輦目の二等車に座席をとった。下車駅「紅毛田」(昭和10年より竹北に改名)の約2km前の高さ30mの鳳山溪鉄橋を通過中、不思議なことに2等車輛だけ河中に落下した。列車が紅毛田駅に到着して駅長が二等車輛が無いのに気づき大騒ぎになった。政府は忽ちこのニュースを封鎖して事件の真相は今でも藪の中。これで義民廟の危機は自然消滅した。私が幼い頃、祖父からこの件は「義民翁」の怒りに触れたからだろうと聞かされたことを今でもはっきり憶えている。

第2回の危機は昭和16年太平洋戦争勃発後、総督府が突然「全台湾の寺廟の財産を戦費調達のため没収する」と宣言し、台湾民衆を驚かした。台湾人は総督府の理不尽な政策を陰でプツプツ

不平を言うだけで、誰も表だって反対の声をあげる勇気を備えた者が無かった。その時、義民廟の管理人代表の傳任(私の祖父、4番目の弟、湖口庄長を20年も勤めあげた)が総督府の政策に反対し、陳情書を出して政策の取り消しを求めた。総督府は会議を重ねたが誰もYES 或いはNOを決めかね、この陳情を上級の拓務大臣に報告し、その指示を仰いだ(戦前拓務省は、台湾、朝鮮、樺太、南洋委任統治地を管轄、太平洋戦争後は、南洋の占領地・中国は外務省の反対を押し切って大東亜省を新設してその所管とした)。

この情報を得て大叔父は、昭和17年5月上旬単身上京し、新宿駅附近のホテルから電話で、東京医専2年在学中の私に学校を通して連絡して来た。ホテルで久しぶりに大叔父に直面してはじめて事の重大さを知った。大叔父は某代議士の紹介で拓務大臣に面会出来、いい感触を得て喜んで帰台した。帰台してから約2か月後、吉報のハガキを受け取って、私もホッとした。しかし、その頃の我々下々の者には、政府中枢の決定経緯を知る由も無く、そのうち全く忘れてしまった。偶然にも昭和19年春、この疑問が解けた。学校では医師にも哲学の教養が必要と東大文学部から教授を招いて毎週1回60分連続4回の短期文化講座を開いた。講師の林教授は開口一番、自分の祖先は朝鮮渡来人と宣言し、次に「台湾で2年前寺廟の財産を没収する台湾総督府の政策が却下されたことを知っている台湾人学生は居るか？」と問うた。私が1人だけ挙手したら、それなら今から事の真相を話そうときり出した。この件は拓務大臣から東京帝大に諮問要請があって、教授会で審議の結果全員一致で「寺廟の財産没収は国民は信仰の自由を有する憲法違反で直ちに却下すべしとの結論に達し、

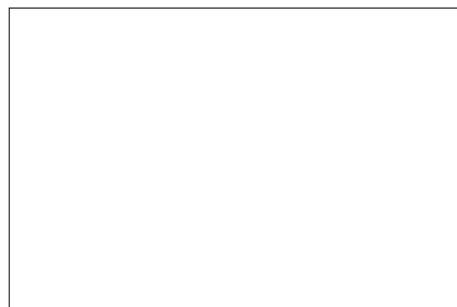
この旨拓務大臣に答申した。

この大叔父の陳情の結果、台湾の寺廟は財産没収の災難から逃れることが出来て、大叔父の名は忽ち全島に知れ渡った。彼の功績は戦後新竹県が編集した地方誌で特に功労のあった人士と事績の紹介で公文書として記録されて、永く後世にその名を留めることが出来た。

戦後間もなく廟は資産を提供し、中学、10年後には高校まで創設して、地方教育の公益事業に貢献した。今では義民高校は進学校として、地方ではわりと有名になったのは喜ばしいことだ。

晩年大叔父がよく「世間では神様が人間を助けるのが常識だが私は逆に神様を助けた」と誇らしげに親族の集まりで語っていた言葉が今でも鮮やかに思い出される。

人権を重んじる日本では、神に人権が無く、人権を重んじないと全世界から指弾される中国の神には人権がある。



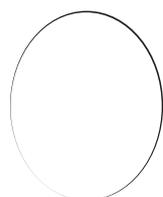
この写真は神意を占う「筊^{コウ}」と言うもので、中国人は敬意を込めて「聖筊」と呼称する地方もあります。写真は丁度+-の形でYESの意を表して居ます。筊が無い時は臨機応変にコイン2枚で代用することがあります。

## エコー・リレー

(340回)

(南から北へ北から南へ)

## テニスと私...暑さとの戦い

宮崎市 宮永内科クリニック ^{みや} ^{なが} ^{しょう} ^{ぞう}  
宮 永 省 三

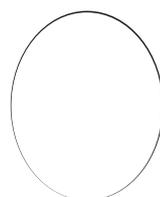
「暑いよ暑いなあ...」「今何度?」「35度だよ」「うーん暑いはずだ」「じゃ扇風機でもつけようか」。毎年の夏の日の我が家の会話である。

我が家にはクーラーがない、いやあるが使う事がないのである。どんなに暑い日でもクーラー

を使う事はない。また、車の中でもクーラーは使わず窓を開けて涼を取る。子供も「今日も暑いなー」と言いながら机に向かっている。妻も「暑いなー」と言いながら台所で夕食の準備をしている。しかし、誰一人クーラーをつけようとは言わない。我が家は皆夏の暑さに慣れてしまった、と言うより夏の暑さに耐えるためである。それらはすべて国体(テニス大会)で勝つためであった。国体の全国大会に出場するためには九州国体(ミニ国体)と言われる九州予選で上位に入賞しなければならない。その九州国体は8月に開催され、35~36度の暑さの中で毎日4試合を戦わなければならない。各8県とも4人の代表選手でチームを組みダブルス2, シングル3の計5ポイント制でトーナメントとリーグ戦を戦う。3ポイントを先取した方が勝者となる。勝率が同じ場合には各試合での取ったゲーム数で勝者が決まるため、負けるにしても簡単に負けるわけにはいかず、監督やコーチ、各県の応援団の声援を背中に受けながらどの選手も必死に戦わなければならない。そして上位入賞した県がはれて全国国体へ出場できるのである。この九州国体で勝利することが宮崎県の目標であり、我が家の目標でもある。これまで何度か九州国体で上位入賞し全国大会へ出場することができた。それもこれも我が家のみんなの協力のおかげである。

〔次回は 高崎町の佐々木幸二先生にお願いします〕

## 開業3年目, 43歳

都城市 きたむら皮膚科クリニック ^{きた} ^{むら} ^{たけし}  
北 村 豪

3年目にして私にも開業医の貫禄がついてきた。私はいつものように患者さんを優しく診察室に招き入れ、丁寧であるが貫禄たっぷりに尋ねた「どうなさいましたか?」。その快活な老婦人

はそれを無視して「この病院はいつ建ったの?若い先生だねえ、結婚してるの?いい人がいるから紹介してあげようか?」と捲り立てた。私は貫禄たっぷりに、ちょっとあせって「はあ、まあ一応、結婚していますので結構です」と辞退した。

次は中年サラリーマン、あちこちが痒くて前医の軟膏は効くが完治しないのが不満だと言う。ただの乾燥湿疹だったのでスキンケアの改善が決め手と考え 私は貫禄たっぷりに「皮膚の最外層には角質があり、それが皮膚を守っておりまして...」と説明を始めた。15秒も聞かないうちにサラリーマン氏曰く「前の皮膚科ではすぐに薬をくれましたが」。私は貫禄たっぷりに「その軟膏でしたら当院にもありますので同じものを処方しておきましょう」と微笑んだ。

その次は8歳の男児 診察室に入るや全くじっとしておれない、うろろう、そわそわ、目は死んでいる。こんな子供は多い。私は毎回、戦後民主主義教育の根本的欠陥と親の行うべきしつけの重要性について演説したいのだが、借金をかかえて患者が減ってもこまるので、貫禄たっぷりに優しく黙認する。

10年後も同じような診療をしているような気がして、ちょっと怖い。

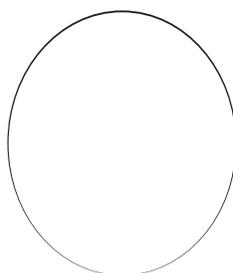
〔次回は 延岡市の堺 雅彦先生にお願いします〕

## 叙 勲・祝 賀

## 旭 日 双 光 章（保健衛生功労）

あね かわ さく み  
姉 川 朔 実 先生（都城市）

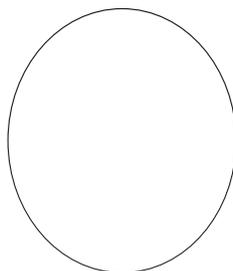
このたびの秋の叙勲において、保健衛生功労により、  
旭日双光章をお受けになりました。



## 瑞 宝 小 綬 章（保健衛生功労）

たに ぐち ゆたか  
谷 口 裕 先生（西都市）

このたびの秋の叙勲において、保健衛生功労により、  
瑞宝小綬章をお受けになりました。



受章されました先生方に対しまして、衷心から祝意を表します  
と共に、今後ますますのご活躍を祈念申し上げます。

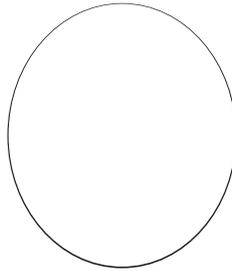
叙 位・叙 勲

従六位・勲五等瑞宝章（保健衛生功労）

故 野 ^の 邊 ^べ 堅太郎 ^{けんたろう} 先生（都城市）

野邊堅太郎先生(77歳)は、平成15年8月5日に御逝去されましたが、生前の保健衛生功労により、平成15年8月5日付をもって、従六位・勲五等瑞宝章に追叙されました。

生前の功績を称えご冥福をお祈りいたします。

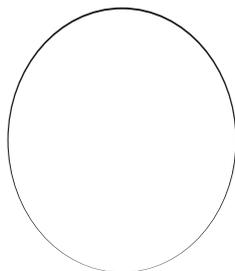


## 表彰・祝賀

労災診療指導委員の功労者として  
厚生労働大臣表彰  
学校保健及び学校安全の功労者として  
文部科学大臣表彰

さ い ゆうじろう  
佐 井 勇二郎 先生（延岡市）

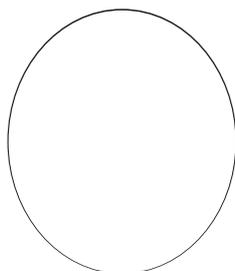
労災診療指導委員として永年の功績により、3月31日宮崎労働局において、厚生労働大臣表彰。また学校保健及び学校安全の普及と向上とその充実の功労により、11月6日青森市で開催された第53回全国学校保健研究大会において、文部科学大臣表彰をお受けになりました。



社会保険診療報酬支払基金関係功績者として  
厚生労働大臣表彰

ち さか はる お  
千 阪 治 夫 先生（宮崎市）

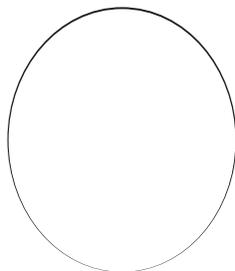
社会保険診療報酬支払基金関係功績により、10月29日厚生労働省において、厚生労働大臣表彰をお受けになりました。



精神保健福祉事業功労者として  
厚生労働大臣表彰

なつ よし しん べい  
夏 吉 新 平 先生（延岡市）

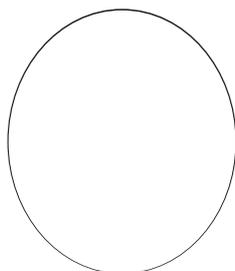
精神保健福祉事業功労により，10月31日神戸市で開催された第51回精神保健福祉全国大会において，厚生労働大臣表彰をお受けになりました。



母子保健家族計画の功労者として  
厚生労働大臣表彰

つか だ よし や  
塚 田 嘉 也 先生（都城市）

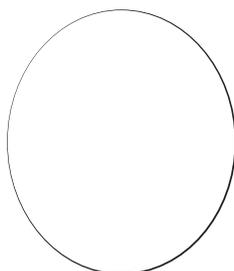
母子保健家族計画功労により，11月6日富山市で開催された母子保健家族計画全国大会において，厚生労働大臣表彰をお受けになりました。



### 社会福祉功労者として厚生労働大臣表彰

おち あい のり お  
落 合 紀 夫 先生（小林市）

社会福祉功労により、11月11日東京日比谷公会堂において、  
厚生労働大臣表彰をお受けになりました。

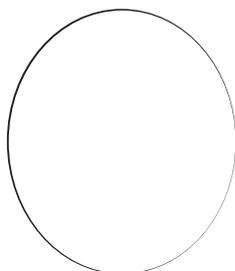


### 公衆衛生事業功労者として厚生労働大臣表彰

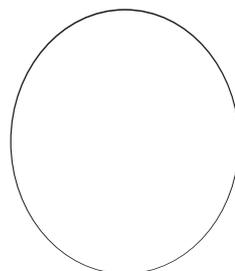
くら おか せい ぞう  
故 倉 岡 誠 三 先生（宮崎市）  
さ とう しげ くに  
佐 藤 重 國 先生（西都市）

公衆衛生事業功労により、11月20日岡山市で開催された第  
7回地域保健全国大会において、厚生労働大臣表彰をお受け  
になりました。

（倉岡誠三先生は10月17日ご逝去され、死亡日付を以って表彰）



倉岡 先生



佐藤 先生

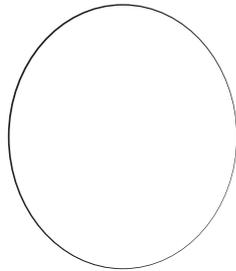
公衆衛生事業功労者として  
財団法人日本公衆衛生協会会長表彰

はま だ よし つぐ 先生（都城市）  
濱 田 義 次

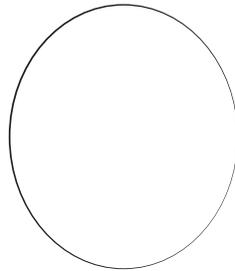
た なか ひろ お 先生（門川町）  
田 中 浩 夫

なか ばやし えい いち 先生（西都市）  
中 林 永 一

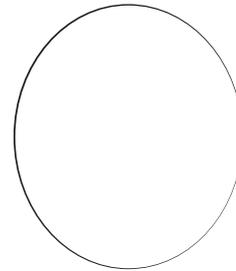
公衆衛生事業功労により、11月20日岡山市で開催された第7回地域保健全国大会において、日本公衆衛生協会会長表彰をお受けになりました。



濱田 先生



田中 先生

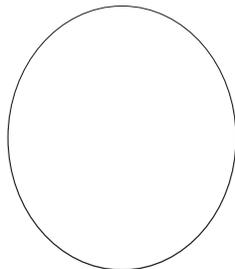


中林 先生

精神保健福祉事業功労者として  
県知事表彰

なが た とし やす 先生（都城市）  
永 田 利 安

精神保健福祉事業功労により、10月29日高千穂町で開催された第43回宮崎県精神保健福祉大会において、県知事表彰をお受けになりました。

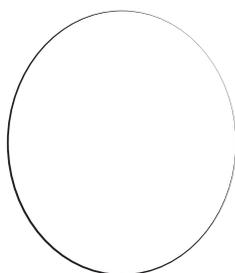


宮崎県公衆衛生功労者として  
県知事表彰

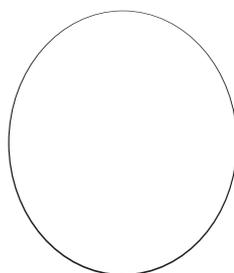
あお き ひろし  
青 木 宏 先生（宮崎市）

こ だま さね し  
児 玉 實 志 先生（都城市）

公衆衛生功労により、11月5日、県企業局「県電ホール」に  
おいて、県知事表彰をお受けになりました。



青木 先生

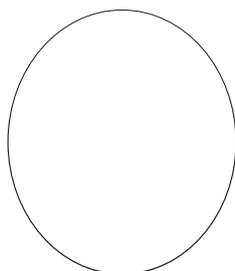


児玉 先生

宮崎県老人保健推進事業功労者  
として県知事表彰

まる た よし お  
故 丸 田 喜 太 先生（宮崎市）

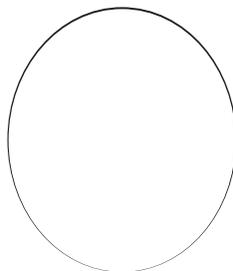
老人保健推進事業功労により、11月5日、県企業局「県電ホー  
ル」において、県知事表彰をお受けになりました。



青少年の健全育成に関する功労  
として県知事表彰

すぎもと ひそむ  
杉 本 潜 先生（延岡市）

青少年の健全育成に関する功労により，11月19日県知事室  
において，県知事表彰をお受けになりました。



## 宮崎日日新聞賞（科学賞）受賞

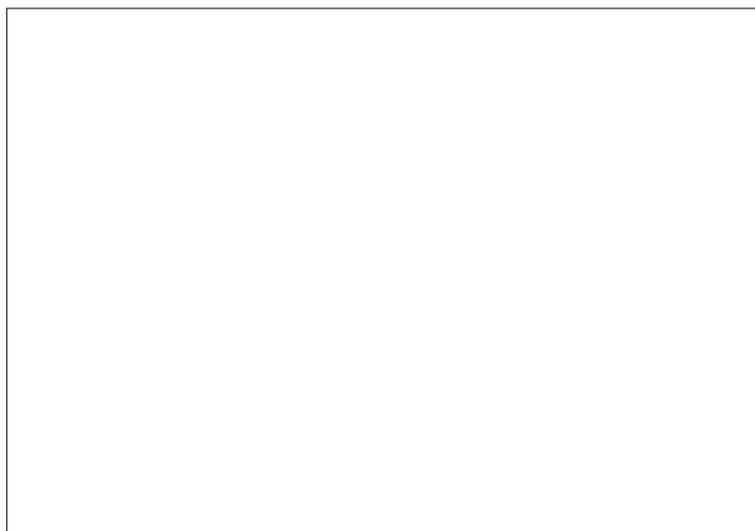
みつ やま よし お  
三 山 吉 夫 先生（清武町）

運動ニューロン疾患を伴う痴呆症（三山病）の疾患単位の確立とその周知を図られた功績により、10月24日宮日会館ホールにおいて、宮崎日日新聞賞（科学賞）をお受けになりました。

## 宮崎日日新聞賞（文化賞）受賞

たて やま ひろ みち  
立 山 浩 道 先生（宮崎市）

フルトン男声合唱団は結成36年を迎える男性45人のグループで、今年2月には米国姉妹都市での音楽祭を彩られた功績により、その団長として10月24日宮日会館ホールにおいて、宮崎日日新聞賞（文化賞）をお受けになりました。



前列右 三山 先生      後列右 立山 先生

各分野において表彰されました先生方に対しまして、衷心から祝意を表しますと共に、今後ますますのご活躍を祈念申し上げます。

また、お亡くなりになられました先生方に対し、生前の功績を称えご冥福をお祈りいたします。

## グリーンページ

## 平成16年4月診療報酬改定要望(診療側)について

副会長 志 多 武 彦

( )平成15年10月1日、診療側は中医協へ、次期診療報酬改定要望(第1次)を提出した。改定要望は例年11月中旬に行われているが本年は2か月も早く、検証作業を十分に行うべく早い整理を求めた日医等の姿勢は高く評価される。

同要望書は別掲の如くで、診療側委員8名の連名で、14年度の診療報酬改定による技術

料本体の引き下げにより「医療安全はもとより医療サービスの低下をきたしかねない」とし、「根拠が不明確なまま導入された、外科手術における症例数による施設基準、コストを無視した技術料の逡減制」を指摘し診療報酬体系の見直しと合理的な技術評価に基づく診療報酬改定を求めている(資料1)。

## 資料1

## 平成16年4月診療報酬改定要望について(第1次)

(10月1日/中医協・診療側委員(三師会))

急速に進展している少子・高齢社会、長期化する経済不況の中で国民の健康とQOLを保障するためには、国民皆保険制度の堅持が不可避の対応である。また、憲法に規定する国民の健康権を守るためには、良質かつ適切な医療を安定的に提供することが必要である。特に、医療提供側には患者の安全に立脚した医療を安定的に提供することが求められている。

これらの実現には、医業経営基盤の安定が不可欠であり、それを保証する診療報酬財源が確保されるべきである。

しかるに、長年にわたり技術評価は低く抑えられ、加えて、平成14年度の診療報酬改定においては、技術料本体の引き下げが実施された。このままでは、医療安全はもとより医療サービスの低下を来たしかねない状況にある。殊に、

根拠が不明確なまま導入された、外科手術における症例数による施設基準、コストを無視した技術料の逡減制など、公的医療保険制度の適切な運営がおびやかされている。

また、平成14年10月及び平成15年4月の制度改定による一部負担増は患者さんの受診控えを招来している。このことは、医療の安定的提供を阻害するばかりでなく、傷病の重症化を懸念させ、かえって将来医療費の増大をもたらす可能性すらある。

国民医療という視点から、良質な医療の継続的な提供を可能とするため、診療報酬体系の見直しと合理的な技術評価に基づく診療報酬改定が必要である。

国民が安心して良質な医療を受けられるために、特段の配慮を求めるものである。

医療の質：医療安全確保のコスト では従業員100人の場合，医療安全推進責任者1人と医療安全推進委員会10人で試算すると年間経費は1,278万円となる。更に一般職員についても労

働時間の増加により3,000万円のコストがかかり，これらを医療費に換算すると医療従事者1人あたり42.8万円/年間で1兆272億円(42.8万円×240万人)になるとした(資料2-1)。

## 資料2-1

## 医療の質：医療安全確保のコスト〔従業員100人のケース(試算)〕

## 1. 推進体制のコスト

職 種	医療安全推進責任者	医療安全推進委員会
人 数	1 人	10人(委員のみ)
専任 or 兼任	専 任	兼 任
コストの種類	・給与費，法定福利費等 ・研修費	・残業手当(委員のみ) ・研修費
コスト計算	・給与費，法定福利費等 800万円×1人=800万円 ・研修費(年2回) 10万円×2回=20万円 計 820万円	・残業手当 2,400円×2時間×10人×1回× 12か月=57.6万円 ・研修費(年2回・全職員) 2万円×100人×2回=400万円 計 457.6万円
小 計	1,277.6万円	

## 2. 時間増加のコスト

一般職員
(職員数の5%増加)5人
医師看護師等の常勤職員
・給与費，法定福利費等
・給与費，法定福利費等 600万円×5人 =3,000万円 計 3,000万円
3,000万円

## 3. コスト合計

コスト合計	医療費換算
+ 4,277.6万円 / 100人(42.8万円 / 1人)	42.8万円×240万人 = 1兆272億円

## 4. 医療機械・器具，医療材料，ディスポ製品等の購入コストの評価

## 5. 感染性廃棄物等の処理コストの評価

そのほか改定要望では，平成14年度予算編成時の医療費予測値と14年度医療費実績の乖離は医療費全体で-1.7%であることを指摘し

た。うち医科は-3.1%，診療所は-4.4%，入院外は-4.9%等であった(資料2-2)。

資料 2 - 2 -----

平成14年度予算編成における予測是正

		13年度医療費 (実績)	14年度予算編成時 の見込医療費 (対前年度比+1%)	14年度医療費 (実績)	見込と実績の 乖離 ( - )	乖離率 ( ÷ )
医 科		244,984	247,434	239,808	7,626	3.1
歯 科		26,043	26,303	25,945	358	1.4
調 剤		32,521	32,846	35,676	2,830	8.6
訪問介護ステーション		338	341	355	14	4.0
計		303,888	306,927	301,785	5,142	1.7
病 院・	病 院	169,434	171,128	166,864	4,264	2.5
診療所別	診 療 所	75,550	76,306	72,944	3,362	4.4
入 院・	入 院	123,642	124,878	123,248	1,630	1.3
入院外別	入 院 外	121,342	122,555	116,560	5,995	4.9

( ) 10月22日、診療側は第1次に続き第2次要望として中医協へ「国民により良い医療を提供するための診療報酬適正評価に関する要望事項」(資料3)を提出し、医科・歯科・調剤の委員からそれぞれ説明が行われた。

要望書は「基本的考え方」と「具体的検討事項」に分かれ、後者では1-(1)医師の基本技術に対する適正評価として、薬剤管理コストの設定(処方箋等)や、初診料・再診料の評価を求めるとともに、1-(4)外保連から要求のあつ

た手術に係る施設基準廃止とその他の施設基準の是正を求めた。また2-(5)病院の外来専用診療所(門前診療所)の問題の議論を求め、4-(4)小児医療の評価や乳幼児医療重視の診療報酬と義務教育期間の給付率の検討などを求めた。

紙面の都合上、医科の基本的考え方のみ掲載し、具体的検討事項の詳細は資料4とほぼ同一内容なので省略する。

資料 3 -----

国民により良い医療を提供するための診療報酬適正評価に関する要望事項

(中医協総会・診療側委員提出 10月22日)

【医 科】

基本的考え方

1. 全ての国民が安心して医療が受けられる体制を確保すること
2. 医療の質が確保できること
3. 患者の安全に立脚した診療報酬であること
4. 医学・医療の進歩に見合った制度である

こと

5. 「もの」と「技術」の分離及び技術評価をより重視すること
6. 医療機関の安定的経営を保証するものであること

具体的検討事項(略)

( ) 11月5日、診療側は中医協へ次期診療報酬改定の具体的要望事項の説明資料を提出

した。青柳委員はこれを基に補足説明した(資料4-1, 4-2)。

#### 資料4-1

#### 青柳委員の補足説明(要旨)

初・再診料の評価⇒点数を上げてほしい。  
 外来管理加算の見直し⇒処置、検査等を行った場合など同加算を算定できない条件下で、処置、検査等の点数が同加算より低い場合がある。  
 手術の施設基準⇒これは根拠が欠落したまま導入されたもの。本来は「術者」の基準とすべき。  
 地域連携小児夜間・休日診療料⇒ほとんど実施されておらず、臨床現場に沿った緩和策が必要。  
 医療機能評価機構等の評価見直し(緩和ケア診療加算等)⇒評価機構は診療所の評価をしていないため、診療所では算定できない。  
 減算方式の廃止と加算方式への移行⇒医療安全管理等には「人」と「もの」のコストが相当かかる。

有診の適切な評価⇒地域・診療科によって病院と同様の機能を果している有診がある。  
 門前診療所の問題⇒病院が外来診療を分離することにより配置基準の緩和を図っているという問題があることを理解してほしい。  
 診療所外来機能の積極的評価⇒前回改定で特に診療所、中小病院が大きなマイナス影響を受けたことを踏まえて評価を。  
 薬剤管理コストの設定⇒2%という薬価改定の調整幅の中で同コストを工面するのは無理。  
 廃棄物処理に対する診療報酬上の評価⇒推定で総額700億円を超える委託費が現在支払われている。是非診療報酬上の評価を。  
 酸素等の価格の適正化⇒地域によって価格を上回る購入価を要求してくる企業がある(北海道等)。

#### 資料4-2

#### 国民により良い医療を提供するための診療報酬適正評価に関する要望事項

〔具体的検討事項の主なものの説明〕(11月5日/診療側提出)

#### 【医 科】

1. 適正な技術料評価の診療報酬体系の確立
  - (1) 医師の基本技術に対する適正評価
    - 初診料・再診料の評価
    - 診療科の特性に応じた外来管理加算の見直し
    - 手術・検査等における人件費部分に着目した評価
    - 検体検査判断料の評価 等
  - (2) 各診療科固有の専門技術に対する適正評価

- 処置およびリハビリテーション等の月内逓減制・算定制限
- 検査点数、画像診断等の不合理見直し
- (3) 現行の技術評価算定方式の不合理是正
  - 包括化における「もの」の部分を見直し
  - 「もの」と「技術」の分離(眼内レンズ挿入術、特殊縫合器等の使用制限)
  - 技術部分の引き上げおよび評価されていない「もの」の評価等
  - レーザー、ディスポ・メス、磁気媒体 等

- (4) 手術にかかる施設基準廃止とその他の施設基準の是正  
手術の施設基準  
・区分1～3と区分1～3以外(心臓手術, 人工関節手術等)  
・症例数・経験年数  
その他の施設基準  
・実施が困難な要件の緩和(地域連携小児夜間・休日診療料等)  
・医療機能評価機構・ISO 9001の評価見直し(緩和ケア診療加算 外来化学療法加算等)  
・施設協同利用率(光トポグラフィー 筋電図検査等)  
・難病疾患における保険診療(難病外来指導管理料)と公費(特定疾患治療研究事業)対象疾患の相違
- (5) 減算方式の廃止と加算方式への移行  
院内感染防止対策未実施減算  
医療安全管理体制未整備減算  
褥瘡対策未実施減算 等  
届出状況を調査しほとんどの医療機関で減算していないのであれば減算方式を廃止すべき。その場合コスト調査を実施し実態を把握すべき。
- (6) その他必要事項
2. 医療機関機能の明確化および有機的連携の強化に対する診療報酬上の対応
- (1) 特定機能病院・地域医療支援病院および国立病院の再検討  
(入院の機能を主に評価, 公的医療機関における政策医療の推進)
- (2) 療養病床の再検討  
医療保険と介護保険の療養病床の明確化  
老人性痴呆疾患療養病床入院料の新設の制限
- (3) 診療情報提供料の拡大と評価の確立  
大病院の紹介外来制の推進
- 紹介患者加算の見直しと逆紹介の評価  
各種相談の評価
- (4) 病院と診療所の特性に応じた診療報酬体系の確立  
・有床診療所の位置付けの明確化及び適切な評価
- (5) 病院の外来専用診療所(門前診療所)の問題  
病院は外来を行わず, 病院に併設した別の保険医療機関である診療所において外来診療を行う。これにより, 病院の医師数や看護師等の員数を入院患者のみで算出するため, 外来を実施している病院より少なく済ませることができる問題
- (6) その他必要事項
3. 地域の医療の推進と積極的評価
- (1) 在宅患者に対する総合的医学管理の適正評価
- (2) 訪問診療, 訪問看護の適正評価と訪問看護の積極的評価
- (3) 在宅患者の終末期医療に対する医学管理の適正評価
- (4) かかりつけ医機能の積極的評価(特に診療所外来機能の積極的評価)  
慢性疾患の外来評価  
日常的な急性期疾患に対する評価
- (5) 往診と訪問診療に対する評価の見直しとそれに伴う回数制限の撤廃  
在宅医療の推進の阻害(1日複数回訪問の評価)
- (6) その他の必要事項
4. 医療経営基盤の安定確保等
- (1) 医療機関の設備投資・維持管理費用に対する評価
- (2) 外来看護料・外来施設料の評価
- (3) 入院部門における医療経営基盤の安定確保  
・療養病床等に入院している患者の他医療機関への受診

- 85%減算の割合を見直す
- ・入院基本料の評価是正
  - 見直し要望(2002/5/22中医協)
  - ・老人長期入院患者の適正評価
- (4) 小児医療の評価および乳幼児医療を重視する診療報酬上の配慮と義務教育期間の給付率の検討
- 小児入院医療管理料の見直し
  - 周産期医療の評価
  - 在院日数算定から除外
- (5) コ・メディカル人件費の診療報酬への適正な組み入れ
- (6) 薬剤管理コストの設定
- (7) その他の必要事項
5. その他
- (1) 心のケアの評価
- 精神障害者に対する援助, 指導, 調整等の評価(精神保健福祉士等)
  - 健康および各種疾患に関する相談に対する評価
- (2) 救急医療の評価の充実と時間外小児診療報酬の見直し
- (3) 生活習慣病指導管理料の評価見直し
- (4) 処方料と処方せん料および後発医薬品使用促進のための点数格差是正
- (5) 長期投薬に伴う管理の評価
- 長期投与が社会的に普遍化するとすれば, これに伴う投与者の責任の重大化ということを考え, 長期投与の判断と管理に関わる技術の評価すべき
- (6) 急性期, 回復期, 維持期リハビリテーションの評価およびリハビリテーション処方料の評価
- 集中的に実施する必要がある症例と維持期の症例を同一扱いにしている現行逡減
- 制の見直し
- 脳卒中のリハビリと骨・関節等のリハビリを分ける
  - 急性期等の早期リハビリテーション対象疾患を追加(例えば神経難病や重症熱傷, 開頭術後等)
  - 医師が急性期, 回復期, 維持期に対応したリハビリの必要性を判断し, 患者に説明し, リハビリの処方せんを発行
- (7) 感染症や危険物等ハイリスクの廃棄物処理に対する診療報酬上の評価
- 感染性廃棄物
  - X線フィルム処理廃液
  - ディスポ用品 等
- (8) 医療材料価格の適正化
- 酸素および窒素等の価格は地域差(都道府県差)がある
  - 地域においては酸素業者が少なく価格競争が起きない, 医療機関は赤字となっている
- (9) 特定療養費制度拡大等の是正
- (10) 週休2日制に対応した診療報酬上の評価
- (11) 外来は原則出来高とし, 病態に応じた診療報酬体系の自由な選択
- (12) 人件費相当分の診療報酬の体系化(確保)
- (13) 適正な診療報酬についての財源確保
- (14) 公私医療機関の経営基盤の違いを配慮
- (15) 診療報酬と調剤報酬との整合性
- (16) 診療報酬算定のルール化
- (17) 診療報酬点数表の整理並びに請求事務の簡素化
- (18) 指導大綱および療養担当規則等の見直し
- (19) 届出等が必要な算定要件の見直し
- (20) 改定時における点数表の早期告示と周知期間の確保
- (21) その他必要事項

## 宮崎大学医学部だより

### 附属図書館医学分館

いとなが かずのり  
糸永 一憲 医学分館長

#### 1. はじめに

平成15年10月1日付けで宮崎大学と宮崎医科大学が統合し、新たに宮崎大学が創設されました。附属図書館には館長、分館

長が置かれ組織上学術研究協力部の中にあつて学術研究協力部長、情報図書課長という部制が敷かれました。

附属図書館は木花キャンパス(旧宮崎大学)を「本館」、清武キャンパス(旧宮崎医科大学)を「医学分館」としました。ここに統合後の図書館の利用案内や最近の動向を紹介します。

#### 2. 電子ジャーナルの導入について

電子ジャーナル、オンラインジャーナル、electronic journal等の名称で呼ばれていますが、皆さんはすでにお使いになっていますでしょうか?雑誌の本文(FullText)がインターネット上で提供されているものです。電子ジャーナルには次のような特徴があります。電子ジャーナルは24時間利用可能である。図書館へ行かなくても、近くのパソコンから読むことができる。テキストをダウンロードして印刷できる。バックナンバーも利用できる。製本が不要で書架が要らない等です。

現在医学分館で契約している電子ジャーナルは、エルゼビア社全タイトル(平成16年からはライフサイエンス関係タイトル)、シュプリンガー社、ブラックウェル社、ネイチャー、その他のタイトルがあります。利用は医学分館ホームページより可能ですが本学の教職員・学生が対象となっています。詳しくは医学分館の医学利用サービス係(下記)へお問い合わせ下さい。

#### 3. 遡及入力 of 推進について

遡及入力とは目録業務が機械化されたことに伴い、蔵書目録を(目録カードにかえて)データベース化することです。本館は平成12年度

から始めています。分館についてはほぼデータは入力済みで所蔵している図書館資料は検索可能となっています。

利用方法は医学分館ホームページよりOPAC(蔵書検索システム)で検索できます。

#### 4. ネットワークを活用した電子機器の整備について

本館には平成13年度にノートパソコンを22台導入し、他に10台のデスクトップ型のパソコンが設置されています。OSはWindowsでワープロソフト等もインストールされています。医学分館には約18台の端末パソコンがあり、学生、大学院生の各種レポート作成等の支援機器として有効利用されています。

今後、総合研究棟(新築)にも図書館端末機器の設置を検討します。

#### 5. 地域社会への図書館の開放について

他大学の学生、教職員、地域住民、研究者の方の学習、調査、研究を支援するために広く一般に開放しています。

本館においては平成9年から、医学分館においては平成15年から一般市民の方を含めて貸出サービスを開始しています。医学分館は医科系の専門書がほとんどで医師、研究者の利用が多く見られます。

#### 6. 開館時間

開館時間は次表の通りです。

	月曜日-金曜日	土曜日	休業期 月曜日-金曜日
本館	9:00~20:00	10:00~16:00	9:00~17:00
分館	9:00~20:00	9:00~17:00	9:00~17:00

#### 7. 利用についてのお問い合わせ

附属図書館の利用については、ホームページ又は医学分館医学利用サービス係へお問い合わせください。皆様のご意見もお聞かせいただくと幸いです。

宮崎大学附属図書館医学分館

<http://www.lib.miyazaki-u.ac.jp/med/MMCL-hp.html>

医学分館医学利用サービス係

E-mail: [ailigakuser@lib.miyazaki-u.ac.jp](mailto:ailigakuser@lib.miyazaki-u.ac.jp)

TEL:0985-85-9201・FAX:0985-84-1756

(糸永 一憲)

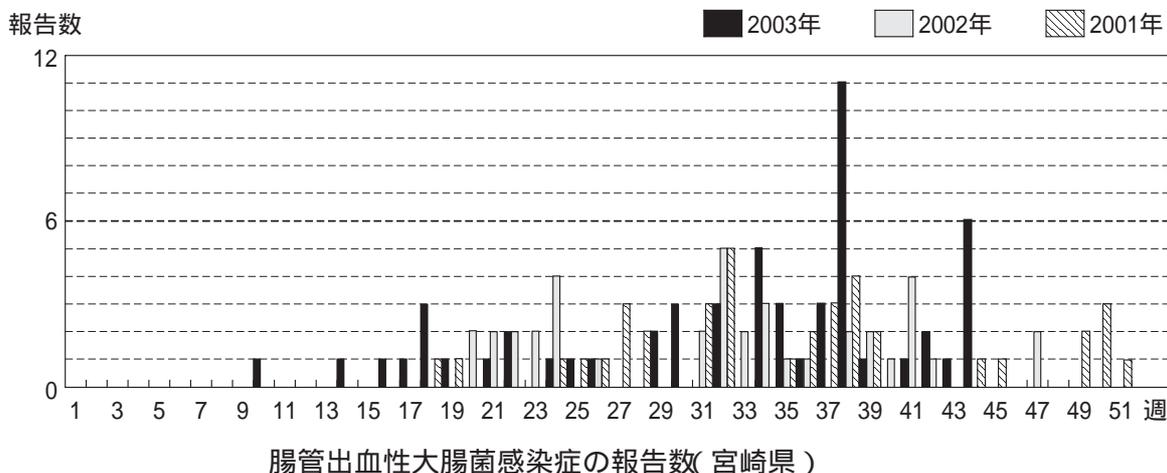
## 宮崎県感染症発生動向 ～10月～

2003年9月29日～11月2日(第40週～44週)

### ●全数報告の感染症

1～2類は報告なし。3類の腸管出血性大腸菌感染症は10例(宮崎市6例,都城2例,日南1例,高鍋1例)報告され,全て有症状者であった。報告のあった10例は散発事例で,型別でみると,0-26(3例),0-111(1例),0-157(2例),O₁₅₇H₇(3例),型別不明(1例)で,毒素型別でみると,VT1(5例),VT2(2例),VT1,2(3例)であった。なお,腸管出血性大腸菌感染症疑いの患者の検体については,患者が軽快するまで検体(特に便,接種した培地,血清)の保管をお願いしたい。感染が広範囲となった場合に,衛生環境研究所で再検査することが可能であり,また便からの菌の分離が困難であっても,血清抗体価により型を推定することが可能である。4類では,ツツガムシ病1例(日向),日本紅斑熱1例(宮崎市)の報告があった。

* O₁₅₇H₇: 衛生環境研究所で,抗血清により検査を実施した結果,型別不能であったもの



### ●4類定点報告の感染症

今月,定点当たり患者報告数の多かった感染症は,感染性胃腸炎(25.5人),A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(6.8人),ヘルパンギーナ(6.8人),流行性角結膜炎(7.8人)であった。また過去3年間の同時期(10月)と比較すると,水痘と伝染性紅斑の報告が多くなっている。

水痘の定点当たり累積報告数は6.1人で、累積患者報告数は226人であった。年齢別では、1歳66人(全体の29%)で最も多く、1～3歳で全体の66%を占めた。地域別の定点当たり報告数をみると、延岡(17.0人)、日南(15.0人)保健所管内で多い。11月以降も、患者報告数は増加傾向にあるので注意したい。

伝染性紅斑の患者報告数は、6月以降例年より多い状態で推移しており、10月は例年の2.1倍となった。定点当たり累積報告数は2.1人で、累積患者報告数は78人であった。年齢別では、5歳16人(全体の19%)で最も多く、14歳以下の全ての年齢層から報告があった。地域別の定点当たり報告数をみると、高鍋(6.0人)、都城(4.0人)、中央(4.0人)保健所管内で多い。

	前月比	例年比	10月		9月	
			報告数	定点当たり(人)	報告数	定点当たり(人)
インフルエンザ			0	0.0	1	0.0
咽頭結膜熱			34	0.9	87	2.4
A群溶連菌咽頭炎	+		253	6.8	125	3.4
感染性胃腸炎	+		942	25.5	646	17.5
水痘	+		226	6.1	161	4.4
手足口病			53	1.4	93	2.5
伝染性紅斑	+		78	2.1	49	1.3
突発性発疹			241	6.5	229	6.2
百日咳			1	0.0	2	0.1
風疹			0	0.0	1	0.0
ヘルパンギーナ			250	6.8	556	15.0
麻疹			0	0.0	2	0.1
流行性耳下腺炎			109	2.9	86	2.3
急性出血性結膜炎			0	0.0	1	0.3
流行性角結膜炎			31	7.8	36	9.0
急性脳炎			0	0.0	0	0.0
細菌性髄膜炎			2	0.3	1	0.1
無菌性髄膜炎			3	0.4	4	0.6
マイコプラズマ肺炎	+		8	1.1	12	1.7
クラミジア肺炎			0	0.0	0	0.0
成人麻疹			0	0.0	0	0.0

+ : 増加, - : 減少, : 例年(過去3年)より多い

### 伝染病紅斑 定点当たり患者報告数時系列変化図

* 宮崎県内の定点医療機関数

(インフルエンザ定点: 60, 小児科定点: 37, 眼科定点: 4, 基幹定点: 7)

最新の発生動向については <http://www.prefm.yazaki.jp/fukushi/ipe/default.htm> をご覧ください。

(宮崎県衛生環境研究所)

## 各都市医師会だより

### 都城市北諸県郡医師会

当医師会では、「都北医師会報」と「医苑」の2つを会誌として発行しております。「都北医師会報」は、毎月の医師会活動内容を報告しているものです。一方「医苑」は、様々な企画内容が盛り込まれたものとなっております。その一端をご紹介させていただきますと、「大正の顔」というものがあります。これは、大正時代お生まれの先生にご出席いただき、生い立ち、医学を志した動機、趣味、ご苦労話等を多少の酒宴を催しながらお聞きするものです。初めは少々緊張気味の表情も次第に酔いも手伝って意外なお話しも聞かれ、それまでの印象と違った一面を垣間見ることできます。「対談シリーズ」とは、都城、北諸地域出身の著名な方をお呼びして対談をするものです。最近では、都城工業高等学校の男子バレー部を全国準優勝に導かれた日高 巽元監督のお話しが興味あるものでした。日高先生のお話しによると全国で優勝を狙うクラスになるとほとんど力に差はなく、ほんのちょっとしたことが、勝敗を決めるとのお話でした。日高先生が思いつかれた作戦の中で特にユニークなものの一つに「ニンニク作戦」と銘打ったものがありました。作戦内容は、いたって単純で、選手に試合前日の夜ニンニクのたっぷり効いた食事をさせ、当日の試合では、アタックとブロックの時、相手選手めがけて思いきり息を吹きかけるというもので、一瞬相手がニンニク臭い息に怯んだ隙に攻撃を仕掛けるというものでした。この方法は、案外うまくいったとお話でした。しかし時には、反対に相手方にまんまとやられたこともあったそうです。してやられた方の作戦は、「真夜中掃除作戦」とでもいうべきものだったそうです。詳しくは、当医師会から各都市医師会へもこの「医苑」は一部お送りしておりますので是非一度ご覧ください。 (石井 芳満)

◇◇ ◇◇ ◇◇ ◇◇ ◇◇

### 延岡市医師会

今年も最後の月を迎えました。ここ数年の、当医師会最大の懸案であった「医師会病院新築移転」が、やっと形あるものになりつつあります。現在の医師会病院は築35年、老朽化があまりにもひどい為に患者さんからも敬遠され、病院職員の士気も湿りがちでした。しかし、新築移転が現実のものとなり、建設の力強い槌音が聞こえ始めるにつれ、病院職員、医師会会員共に、希望と期待が膨らみ、明るい展望が開きつつあるように思えます。一時、混迷を深めた感のある当医師会が、新病院をシンボルとして、時代のニーズに応えるべく、再度一致団結し、更なる発展を遂げるよう来る年に期待したいと思います。

(小川 修)

◇ ◇ ◇ ◇

### 日向市東臼杵郡医師会

このたび、当医師会前会長の千代反田泉先生が、長年の医療・福祉活動等の功労により、平成15年度日向市文化賞を受賞されました。11月3日に、市役所で授賞式があり、山本市長から賞状と文化功労賞が贈られました。

また、当医師会では毎年忘年会の席上で、被表彰者の先生方のお祝いを行っており、今年度は千代反田先生を含め6名の先生方のお祝いを11月26日(水)の忘年会で行います。(甲斐 文明)

◇ ◇ ◇ ◇

### 児湯医師会

11月11日当医師会の運営する児湯准看護学校の戴帽式が挙行されました。初々しい看護師の卵達の姿の先には希望の光が輝いて見えるようでした。しかし来年4月には再度診療報酬改悪(?)が行われようとしている我々の現実には、暗闇が近づいているように思えます。(内田 俊浩)

### 西都市・西児湯医師会

西都救急病院の先生方が中心となって、定期的に「市民公開講座」が開かれています。

第1回は「頭部外傷の種類と対応の仕方」「脳卒中とは」、第2回は「消化器症状とその原因となる病気」、第3回は「生活習慣病について」でした。

このような事業を通して西都救急病院が、市民にとって身近で親しみの持てる病院になってくれればと思っています。(黒木 重晶)

◇ ◇ ◇ ◇

### 南那珂医師会

10月3日に日南市環境保健課との協議会があり、来年度より胃がん、大腸がん、子宮がん住民検診を南那珂医師会へ委託したいとの申し出がありました。委託を受理する方向で検討することになりました。かかりつけ医が地域住民の健康管理に寄与する良い機会と思います。新たな事業を立ち上げる準備は大変ですが。

南那珂医師会館の改修が終了し、11月1日よりリニューアルされた医師会館で医師会運営が行われています。11月28日に披露パーティが行われます。(内山 富士男)

◇ ◇ ◇ ◇

### 西 諸 医 師 会

今年も、インフルエンザの流行が懸念される時期になりましたが、流行開始前にその規模を予測することは極めて困難とされています。昨年末から今年年頭の流行の際には、治療薬の不足も生じて、当管内地区の医療機関では困惑された所もありましたが...

今季は流行に備え、果たして安定した供給がされるでしょうか。また今年前半、10%を超え

る死亡率で瞬く間に広がった新型肺炎 SARS 蔓延の脅威は、感染症への対応が医療現場のいかに重要な課題であることを改めて認識させられたと思います。このような新興感染症は、我々の生活スタイルの変化に応じて、新たな知識と対処が今後必要であり、更に保健行政側の積極的かつ適切な指導も大いに期待したいものです。

(宮崎 裕三)

◇ ◇ ◇ ◇

### 西 臼 杵 医 師 会

昨今の市町村合併のあおりをうけて、当西臼杵郡でも五ヶ瀬・高千穂・日之影各町の合併が取りざたされています。特に各町立病院は、合併のあるなしで大きな影響を受けます。合併であれば3町立病院は1つの経営体となるために、統一理念と役割分担を検討しなければなりません。郡内医師会員各位にも参画いただき、医療提供のありかたを検討する必要があります。今後の動向が注目されます。(川村 亮機)

◇ ◇ ◇ ◇

### 宮 崎 市 郡 医 師 会

宮崎市郡医師会は学術講演会として「しののめ医学会」を年4回行っています。ここ5年の年末のしののめ医学会は緩和ケアに関する市民公開講座を行っております。今年度は12月6日(土)に宮日会館で行われました。例年様々な問題点が提起され、少しずつ解決しつつあります。また具体的な緩和ケアに関するお悩み、疑問は宮崎市郡医師会病院の緩和ケア病棟が相談窓口になります。患者、家族、医療者のご意見等にてよりよい緩和医療を行っていきたいと思っています。(菊池 郁夫)

## 各種委員会

## 医学会誌編集委員会

と き 平成15年11月6日(木)

と ころ 県医師会館

上田委員長を中心に第27巻第2号のカテゴリーの検討が行われた。

掲載論文は13編あり、総説1編、臨床研究1編、症例9編、地域医療1編、学会記録1編が決定した。

また、東野哲也委員の後任として春田厚委員が耳鼻咽喉科医会より推薦されたが、春田委員

の就任については全会一致で承認された。

その他に、投稿論文を不採用とする際の査読の問題や、医学会誌創刊の際に表紙のデザインが考案された経緯などの話もあった。

出席者 - 上田委員長、中山副委員長、八尋・獅子目・多田・杉田・春田・楠元・内田・原口委員

担 当 - 稲倉・浜田・高崎担当理事  
担当事務 - 崎野課長、千原主事

UMK テレビ「サンデー宮崎(いきいきサンデー)」放送予定  
午前9:00~9:30(内3分間)

平成15年12月7日	糖尿病とは	水田雅也
12月14日	小児と糖尿病	澤田浩武
12月28日	糖尿病と運動	中津留邦展
平成16年1月11日	事故を防いでのびのび育児	高村一志
1月18日	乳幼児健診のすすめ	先成英一
1月25日	赤ちゃんのスキンケア	佐藤雄一
2月1日	がん予防について	荒木康彦

## 九州医師会連合会第258回常任委員会

### 報 告

#### 1. 第103回九州医師会連合会総会・医学会及び関連行事について

常任委員会、臨時委員総会などの前日諸会議、総会・医学会をはじめ、分科会(7)、記念行事(7)の概要について報告された。

なお、総会・医学会当日の午前中に行う委員・役員合同協議会では、日医の青柳副会長から「中央情勢報告」があるが、次回の診療報酬改定を中心にお話しをいただいた後、フロアとの質疑応答を予定している。従って例年と異なり、今回は九州各県への事前の意見、質問等の照会を行わない旨の報告があり、了承された。

#### 2. その他

##### 協 議

#### 1. 平成15年度九州各県・政令指定都市保健医療福祉主管部局長及び九州各県医師会長との合同会議について

今回は行政（福岡県）担当で開催される。

協議事項は、九州各県・政令指定都市におけるSARS対策について

##### 1. 今冬のSARS対策

##### 2. 集団発生時の対応

日程、来賓等について報告、確認が行われた。次回は医師会側（鹿児島県）担当にて開催される予定。

#### 2. 第260回常任委員会及び第2回各種協議会の開催について

標記の会議を次のとおり開催することに決定した。

日時 平成16年1月24日(土)午後4時～

と き 平成15年10月17日(金)

ところ 福岡市・ホテルレガロ福岡

場所 佐賀市・ホテルニューオータニ佐賀

なお、第2回各種協議会の開催種目は後日、各県医師会に照会され、決定後に質問事項照会、出席者の報告と回答依頼が行われる。

#### 3. 看護教員講習会の隣接県開催について（提案要旨）

看護師養成校の教務員は、規則により専任教員として必要な研修を受けることになっており、東京、福岡等他県に長期にわたって参加している。

このため家庭生活への影響はもちろん、学校運営上もマンパワー、経費の両面で大きな障害となっているので、隣接県の持ち回りで本講習会を開催したらどうか。

#### （協議結果）

受講者が30人いないと補助金が出ないが、福岡を除き1県では受講者が足りない。各県に共通する問題でもあり、今後、前向きに検討していくと同時に、行政の意向もあるので、行政に要望することになった。

#### 4. 第103回九州医師会連合会総会における宣言・決議（案）について

九州医師会連合会を担当する佐賀県医師会から標記宣言・決議の原案が提出され、協議が行われた。

本案については、今後さらに各県医師会に照会のうえ、その意見に基づき最終の案が取りまとめられ、次回の常任委員会、臨時委員総会の議を経て、九州医師会連合会総会で決定される。

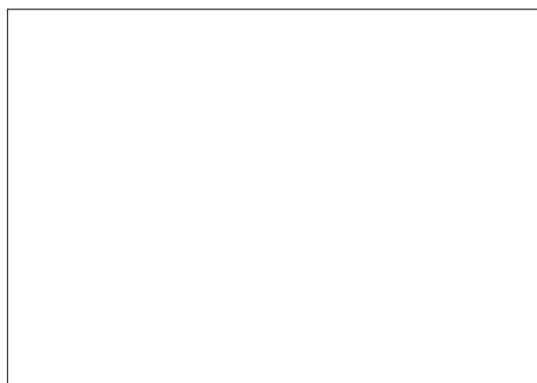
出席者 - 秦会長、日高局長

## 全国医療情報システム連絡協議会 第20回定例会議

と き 平成15年10月18日(土)・19日(日)

ところ 岐阜グランドホテル

理事 吉 田 建 世



「ブロードバンド時代の医療機関連携～電子カルテ、ORCA、セキュリティ～」をメインテーマとし、岐阜市で開催された。岐阜県では、来年に岐阜大学付属病院が新築開院し、「次世代電子カルテ」と呼べるシステムが導入される。また、経済産業省の補助で地域連携のシステムも活発に動いており、様々な情報化への取り組みが活発になされている。今回400名以上の参加者を得て活発な議論がなされた。

電子カルテについては、これまではレセプト請求を中心に構成されていたものから、診療を中心に機能するものに変換する時期に来ており、認識を新たにさせられる会となった。

ORCA については、導入している機関は順調に推移しており、今年度末には1,000を超えるであろうとの見通しが示された。しかし、地域による取り組みの姿勢の違いが目立った。

西島常任理事の講演では、日医 IT 化宣言・ORCA プロジェクトは日医が国民に対しても約束をしたものであり、執行部が代わろうとも、方向性は変わらないということが強調された。

### 1 特別講演(1)「次世代型電子カルテシステム - その機能と役割 -」(紀ノ定保臣岐阜大教授)

平成16年6月新病院開院にあたり、文部科学省の予算が付き、次世代電子カルテとも呼べる電子カルテを開発中である。医療の質の向上と病院経営の両方の観点から診療内容を管理分析するため診療支援部門と経営支援部門を一体化したシステムになる。患者ごとの情報を一元的に管理できる。病院ベッドサイドすべてに光ファイバーの端子が来ており、患者には IC カードが配布され診療代金明細書等を参照することもできる。

### 2 シンポジウム(1)「IT を活用した医療連携の現状と問題点」

#### 1) 基調講演「厚生労働省における医療情報化への取組の近況」(関英一厚労省室長)

本年6月に医療情報ネットワーク基盤検討会を設置した。(1)電子化された医療情報の活用法の基本的理念、(2)セキュリティーの管理、(3)医療情報ネットワーク運用のあり方、(4)運用面での基盤整備のあり方を検討している。

また、標準的電子カルテの開発に係る研究事業が開始し、電子カルテに求められる機能、基本要件運用のあり方についてなど検討を始めた。

#### 2) 「ブロードバンドによる医療機関連携」(愛媛県医師会)

三種類のネットワークでの医療連携を実現している。医師会ではピアツーピア方式で各医院のサーバーに医療情報をためて、

所在情報を流通させる方が良いと考える。

- 3)「在宅医療における医療連携型電子カルテシステム(N et4U)の活用」(山形県医師会)  
医療連携型電子カルテシステムを在宅医療において活用している。全医療機関の80%が利用している。医療連携型なので24時間連携加算を算定できる。
- 4)「地域医療データの標準化・共有化による病診連携」(梅本敬夫岐阜大学助教授)  
医療連携をするためにはデータの標準化が必須となる。岐阜市では経産省プロジェクトを契機にデータの標準化を徹底している。
3. ケースレポート
  - 1)「岐阜市における介護保険主治医意見書オンライン送信システムの現状」  
(岐阜市医師会)
  - 2)「在宅医療・介護における IT 技術を用いた情報共有, 緊急対応, 事業所連携システムの開発と問題点」  
(茨城県医師会)
  - 3)「携帯電話を利用した医療画像情報の転送」  
(岐阜県)  
携帯電話を用いた救急システムでの利用法を紹介した。救命救急士が携帯電話を使い, 搬送先の病院に患者情報を事前に送ることのメリットが示された。
  - 4)「岐阜県医師会におけるテレビ会議への取り組み」  
(高山市医師会)
  - 5)「ブロードバンド時代の医師会情報システム」テレビ会議システムの今後, 都内広域講習会の試み  
(埼玉県医師会)
  - 6)「インターネットデータベースを利用した感染症情報システムの構築運用」
  - 7)「病診連携における IT 化の取り組み」
  - 8)「一地方医師会における ORCA 普及活動について」
  - 9)「福山市医師会検査・健診システムの再構築について」

10)「WinORCA による日医標準レセプト ORCA の試用評価」

#### 4. シンポジウム(2)テーマ「ORCA の普及に向けて」

- 1) 報告「ORCA の普及状況と日医認証局」  
(日医総研 矢野 一博)  
2003年9月現在 340医療機関で ORCA を使用している。認定サポート事業者は約50事業所で第3回の試験で40事業所が増える予定。平成15年度の開発予定では印刷プレビュー機能, 統計作成用データベース, 入金・未収金管理の強化等をする。入院版は労災・自賠責に対応する。
- 2)「医師会によるサポート体制の試み」  
(福山市医師会)
- 3)「日医認定業者を活用したサポート」  
(松山市医師会)
- 4)「ユーザーからの提言」(島根県医師会)  
追加発言
  - 1)「WinORCA の試み」(熊本県医師会)
  - 2)「MacORCA の試み」(岐阜市医師会)
5. 特別講演(2)「日医の IT 戦略」  
(西島日医常任理事)  
日医 IT 化宣言・ORCA プロジェクトは, 日本医師会が国民に対しても約束をしたものである, たとえ執行部が変わっても, 方向性は変わらない。電子カルテやレセコンはユーザー主導になってきた。メーカーの対応も変わってきた。医療の IT 主導は ORCA プロジェクトにある。電子カルテの連動はあくまでも CLAIM で行う。これからの認証局は純国産で行くべきだと判断している。
6. パネルディスカッション  
テーマ「これからの医療 IT はどうあるべきか～電子カルテと紙カルテの連携～」

出席者 - 吉田理事, 久永係長

## 平成15年度全国医師会勤務医部会連絡協議会

と き 平成15年10月18日(土)

ところ 奈良県新公会堂

勤務医部会理事 上 田 章

日本医師会主催の標記連絡協議会が、奈良県医師会の担当で、「今求められる医療 - 質・研修・評価 -」をメインテーマに開催され、300名強の参加者があり盛会でかつ熱心な討議が行われた。

坪井栄孝日本医師会長は、主催者挨拶および「だから財源論に踏み込まざるを得ない」と題しての特別講演を行った（挨拶文の要旨を掲載する）。

池田俊彦日本医師会勤務医委員会委員長から、日本医師会長から「勤務医と医師会活動」についての諮問を受け、委員会で議論を行っており、答申をまとめる段階にあることなどが報告された。

シンポジウムは「卒後臨床研修に求められるもの」のテーマで行われ、6名の勤務医がそれぞれの立場から来春からはじまる医師研修制度への取り組みや期待、意見などを述べた。討論では、研修方法、研修病院や医局の在り方、待遇、結婚・妊娠、勤務環境などについて熱い議論がなされた。新しい卒後医師研修制度は未だ決まっていない事項も多く、経過を見守る必要がある。

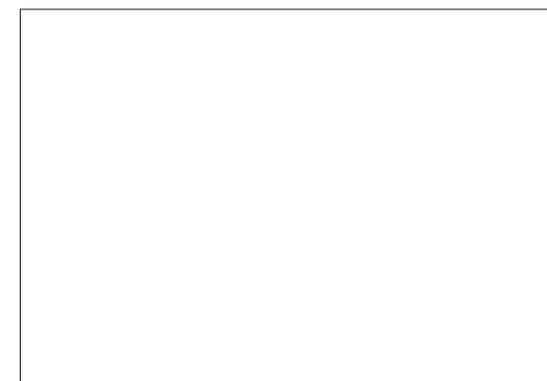
来年の本協議会は熊本県医師会の担当で熊本市において開催される予定である。

以下に、坪井栄孝日本医師会長の挨拶文およびプログラムを掲載する。

### 日本医師会長挨拶

日本医師会長 坪 井 栄 孝

これまでのテーマでは、勤務医の組織化、勤務医と地域医療、勤務医の役割、生涯教育、医療の機能分化など、様々な重要課題が熱心に論



議され、幾つかの課題が日本医師会の施策に反映されるなど、大きな成果を生んでまいりました。これもひとえに、勤務医・開業医の大同団結を旗印にした都道府県医師会を始め勤務医部会関係者の皆様の真摯な取り組みの賜物であり、心より敬意を表する次第であります。

現在、わが国の医療環境は大変な難局を迎えております。政府は総合規制改革会議により財政優先の規制緩和を導入し、経済財政諮問会議では来年度予算の圧縮を打ち出すなど、引き続き社会保障費の抑制を進めようとしております。

しかしながら、社会保障は国民のライフサイクルを支える「社会的共通資本」であり、国民の生命・健康を犠牲にした財政抑制は、安全で安心な生活を保障しなければならない国家としての責任の回避であり、日本医師会としては断じて容認するわけにはまいりません。

今、医療に求められておりますものは、世界に誇るわが国の医療制度の後退ではなく、医療の安全の向上や質の確保であり、そのためには投資としての財源確保であります。今回、医療の質・研修・評価をご議論いただくことは、誠に時宜を得たもので、かならずやわが国の医療

の向上に役立つものと期待いたします。

プログラム

挨拶 日本医師会長 坪井 栄 孝  
奈良県医師会長 有山 雄 基

特別講演 (1)

「だから財源論に踏み込まざるを得ない」

日本医師会長 坪井 栄 孝

報告

「日本医師会勤務医委員会報告」

日本医師会勤務医委員会委員長

池田 俊 彦

「奈良県勤務医アンケート調査報告」

奈良県医師会理事 山本 博 昭

次期担当挨拶

熊本県医師会長 柏木 明

次期開催

と き 平成16年11月6日(土)

と ころ ホテル日航熊本

ランチョンセミナー

第1会場「大和の古墳文化 - 私たちの生活と  
のかかわり - 」

関西大学名誉教授 網干 善 教

第2会場「野巫医者の源流をめぐって

- 旅する「寅さん」の実像 - 」

桃山学院大学名誉教授

沖浦 和 光

教育講演「パックス・メディチナを超えて

- 医療の質保証における医師の役割

とシステムの役割 - 」

東北大学大学院医学系研究科

国際保健学分野教授 上原 鳴 夫

特別講演 (2) 「私の医学教育原論」

奈良県立医科大学長 吉田 修

シンポジウム

テーマ「卒後臨床研修に求められるもの」

座長 奈良県医師会勤務医部会

副部長 橋本 俊 雄

奈良県医師会理事

岡本 和 美

シンポジスト6名

日本医師会の立場から

日本医師会常任理事 星 北 斗

行政の立場から

厚生労働省大臣官房審議官

中島 正 治

大学附属病院の立場から

奈良県立医科大学附属病院長

吉岡 章

市中病院の立場から

天理よろづ相談所病院総合診療教育部長

郡 義 明

研修医の立場から

奈良県立医科大学第一内科助手

赤井 靖 宏

女性医師の立場から

東京女子医科大学小児科主任教授

大澤 真木子

出席者

勤務医部会 - 立山部会長, 上田理事

県医師会 - 秦会長, 濱砂常任理事

崎野課長, 千原主事

*****

付)2003年度宮崎県医師会勤務医部会・後期講  
演会を下記の要領で開催します。

日 時: 2004年2月28日(土)

午後4時~6時

会 場: 県医師会館4階研修室

講演1

(医)医真会 医真会八尾総合病院理事長

森 功 先生

演題: 未定

講演2

むりぶし  
群星沖縄臨床研修センター長

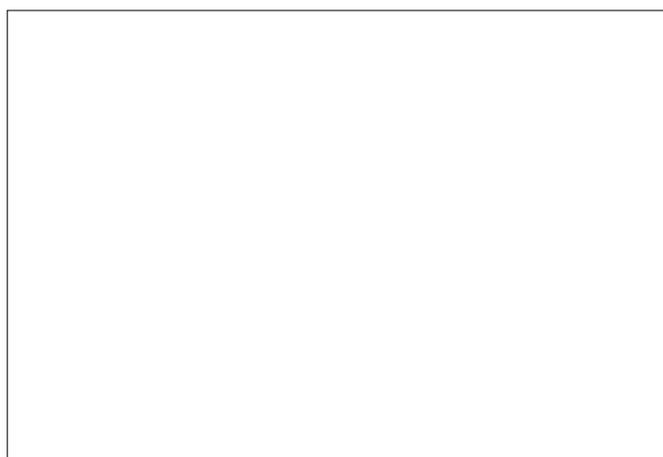
宮城 征四郎 先生

演題: 生命徴候の病態生理学的解釈法

「なぜ、森繁久弥さんは助かった

のか」

## 県ドクターズテニス秋の大会



平成15年10月5日都城市イワキリテニスコートで秋の大会を行い県下各地から20数名の参加を得て、終日楽しくプレイしました。ここにご報告いたします。

(お詫び) 大会期日を早期に決めるのが困難で、日州医事発刊に間に合わず、いつも事後報告になることをお詫びします。

県ドクターズテニスクラブ

会長 近 間 悟



## 日医 FAX ニュースから

### Aソ連・A香港ともに50歳代の抗体保有率は低め

国立感染症研究所情報センターは10月31日、2003/04シーズンの「インフルエンザ抗体保有状況調査速報 - 第1報」を公表した。速報によると、A/H1N1(ソ連)型の抗体保有率は5~19歳群が最も高く、ほぼ5割の抗体保有率を示した。ただ、20歳代以降は2割を下回り、とくに50歳代は10%を下回るなど十分な保有率とは言えないことから、情報センターは「今シーズンも引き続き注意が必要」としている。

一方、A/H3N2(香港)型の抗体保有率は10~14歳群がピークで8割近い値を示した。しかし、0~4歳群が2割と少ないほか、H1N1と同様、20歳以上の成人層は加齢とともに減少傾向を示し、50歳代では2割程度まで落ち込む傾向がみられた。

B型(山東株)の抗体保有率は、最も高い20歳代でも2割にとどまるなど全年齢層で十分とはいえないことから、情報センターは「B型のワクチン接種を積極的に受ける必要がある」とコメントしている。(平成15年11月7日)

### 介護報酬改定の影響で給付費の伸びが鈍化

2003年4月~6月の介護給付費の対前年同期比は9.3%増となり、平均2.3%の引き下げが行われた影響で給付費の伸びにブレーキがかかったことが11月7日、厚生労働省のまとめで明らかになった。0.1%の引き上げが行われた在宅サービスはサービス利用者の増加もあり20.5%増の高い伸びを示したが、施設は4.0%の引き下げが

響き、1.2%の伸びに止まっている。

介護給付費の増加は65歳以上の保険料へと跳ね返る。厚労省は、保険料の大幅増を避けるとして、03年4月に介護報酬を2.3%下げ(在宅0.1%増、施設4.0%減)改定を行った。

厚労省の「平成15年4月介護報酬改定後の動向」によると、03年4月~6月の介護給付費の前年同期比は9.3%の増。それまで12~14%増で推移してきた伸びが改定を境に鈍化した。在宅サービスは小幅な引き上げがあったために、改定前とほぼ同じ水準の20.5%の伸びを維持。改定前に6%台で推移していた施設サービスの伸び率は1.2%に圧縮された。

在宅サービスのうち医師などによる居宅療養管理指導(療養上の管理と指導)は、利用者にきめ細かい指導・助言が行われるように、月1回だった算定回数を改定時に2回に変更した。2回算定すれば従来よりも高い報酬が請求できるが、利用者1人あたりの算定回数は1.46回(在宅寝たきり老人総合診療料を取っていない、居宅療養管理指導1の場合)。そのため利用者1人あたり費用額は前年同期比10.3%の大幅減になった。訪問看護の1人あたり費用額の前年同期比は4.4%減で、報酬引き下げ幅(3.2%)以上の打撃を受けた。

施設サービスの1日あたり費用額の前年同期比は特別養護老人ホーム2.4%減、老人保健施設2.4%減、介護療養型医療施設1.9%減。介護療養型医療施設の報酬として新設された「重度療養管理加算」(要介護4,5の利用者に対する療養上の処置と医学的管理)の算定割合は、7.2%、日常生活活動訓練加算(自立などを目的にしたりハビリテーション)は理学療法で17.2%、作業療法で14.2%だった(いずれも03年6月サービス分のデータ)。(平成15年11月11日)

## 医療保険確定金額は2か月連続で8% 台の減少 支払基金8月報

社会保険診療報酬支払基金が14日までにまとめた診療報酬支払確定状況(2003年8月診療分)によると、03年8月の医療保険確定金額は前年同月比8.5%減となり、4月以降で最も大きな減少幅となった7月の8.3%減をさらに上回った。とくに、自己負担率が3割に引き上げられた被用者保険本人は医科入院17.7%減、医科入院外15.3%減と2けた台の減少という傾向が続いており、制度改正の影響が強く表れている。また、被扶養者は医科入院10.8%減、医科入院外2.0%増で、2割負担から3割負担に引き上げられた入院医療費の減少傾向が続いている。

8月診療分の確定件数をみると、医療保険合計では前年同月比0.8%減で、被保険者4.1%減に対し、被扶養者1.2%増で、制度改正の影響が被保険者の件数に強く表れている。これを入院・入院外に分けてみると、被保険者の入院は7.2%減、入院外4.7%減、被扶養者は入院4.0%減、入院外0.3%増で、被保険者、被扶養者とも入院件数の減少傾向が続いている。

(平成15年11月18日)

## 医療事故防止に関する提言-年内にも公表へ

坪井栄孝会長は11月18日、医療事故防止に関する日医提言の成案が11月中に出来上がる見通しであることを明らかにし、「年内には国民の皆さんの目の届くところに出てくるのではないかと話した。医療事故が多発する事態を重くみた坪井会長は、10月の臨時代議員会の際、「事故防止に向けた体制の整備を早急に図る必要がある」として、提言作成を約束していた。

同日開催された都道府県医師会長協議会のなかで述べた。坪井会長の意向を受けて日医では、医療安全対策委員会、生涯教育推進委員会、自浄作用活性化委員会、会員の倫理向上委員会、国民生活安全対策委員会の5つの会内委員会で急遽、「医療事故防止緊急対策合同委員会」を組織。10月下旬に坪井会長から提言作成の緊急諮問があり、現在は答申案をたたき台にした審議が進められている。

答申案は、(1)医師の職業倫理規定(現在、作成作業が日医内で進行中)に違反したものに医師会内外で厳正な処置が取られるようにする、(2)患者からの苦情や相談に応じ、必要な処置が取れるように医師会の体制をさらに充実する、(3)医療過誤裁判の長期化に対応するために裁判外の紛争解決機関の設置について関係者とともに積極的に検討するなどの具体策が盛り込まれており、合同委員会での議論を踏まえて今後、修正を加えるとしている。

また系氏英吉副会長はこの日の協議会に、会員の倫理向上委員会で進められている「医師の職業倫理規定」の作成作業が大詰めを迎えていることを報告した。規定は「医師の一般的責務 生殖医療の倫理 人を対象とする研究と先端医療の倫理」の3章建て。医療技術を磨くために生涯教育に励むことや、病名・病状についての患者への説明、セカンドオピニオン(主治医以外の医師から意見を聞くこと)、医療事故が起きた時の対応などが盛り込まれる見込み。

系氏副会長は、都道府県医師会、関係学会、関係団体、行政のほか、一般からも意見を求める方針を明らかにした。近く日医ホームページに現時点の案を掲載してパブリックコメントを募る。

(平成15年11月25日)

## ヒヤリ・ハット!

私どもは、平成14年以降、国立大附属病院「医療安全対策に関する連絡協議会」の「インシデントに関する暫定的な取り決め」に準拠して安全管理を行っている。ここでは、「ヒヤリ、ハット」を区別しない。この機会にその概略を紹介してみたい。

### 1. インシデントと医療事故

患者に傷害が発生したり、または発生する可能性があった事態や、医療行為に関する苦情を、インシデント(広義)として報告する。過失があって、患者に一定以上の傷害を与え、両者間に因果関係がある場合を医療事故(医療過誤、アクシデントも同義)とし、医療事故以外の事象を狭義のインシデントとする。転倒、転落、自殺は報告の対象とするが、院内感染等は対象としない。

### 2. 傷害レベルの分類

インシデントごとにその傷害のレベルを以下の8レベルに分類する。レベル0, 患者に未実施の不具合。レベル1, 患者に実害なし。レベル2, 処置や治療を要しない一過性で軽度の傷害。レベル3 a, 簡単な処置や治療を要した一過性で中等度の傷害。レベル3 b, 濃厚な処置や治療を要した一過性で高度の傷害。レベル4は永続的な傷害で、aは軽~中等度、bは中~高度の場合、レベル5は死亡。

レベル3 b以上では緊急委員会を開き事例の検証をし、事故か否かを判定する。この分類ではレベル0から2までぐらいが「ヒヤリ、ハット」の範疇ではないかと考える。

医療安全対策委員会 江 藤 胤 尚

### 3. 当院の実情

インシデント報告は発症現場から電子ネットワークで報告され、ゼネラルリスクマネージャーがコントロールしている。最近3か月間のインシデント報告の統計では、レベル0が9%, レベル1が45%, レベル2が27%と、報告の8割がヒヤリ、ハット系で占められている。図にインシデントの内容別に分類した場合の頻度を示す。薬剤に関するもの、患者管理上の問題、チューブやラインの引抜き、転倒、転落などの順にインシデントが起こっている。このパターンは年間統計でもほぼ類似した頻度となっている。

今後、その予防対策に一步踏み込む必要があるが、問題の本質は根深く、解決は容易でない。システムの問題、個人の問題の両面から、専門家の支援を得ながら、継続的にアプローチすることが必要だと感じている。

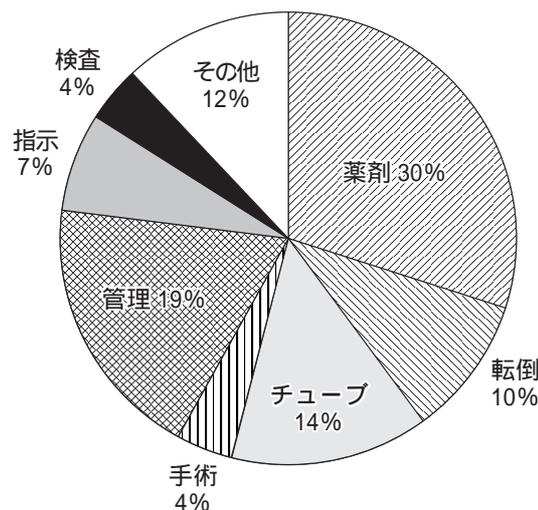


図 インシデントの種類別頻度

## 医事紛争情報

メディアファクスより転載

### 定期検診での肺がん見落としで 5400万円賠償命令

NTTのグループ会社に勤務していた男性当時(57)の遺族が、社内の定期健康診断で肺がんを見落とししたため発見が遅れて死亡したとして、健診先の診療所を経営するNTT西日本に約9000万円の損害賠償を求めた訴訟の判決で、奈良地裁は26日、NTT側に約5400万円の支払いを命じた。

東畑良雄裁判官は判決理由で「1995年と96年のエックス線写真には、いずれも異常な陰影がある」と指摘。そのうえで「定期健診の限界を考慮しても、陰影や年齢などから肺がんの可能性を考えるべきで、精密検査を受けるように指示しなかった過失がある」との判断を示した。原告側の弁護士によると、定期健診の過失を認定して賠償を命じる判決は異例という。

判決によると、男性が1995年2月に定期健康診断を受けた際、胸部エックス線写真の判定医は「異常なし」と判断。96年3月の健診でも別の判定医が「要経過観察1年」と診断したが、男性は肩や背中中の痛みを訴え、97年3月に入院。肺がんが進行して同年9月に死亡した。

2度の健診では、エックス線写真を最初に見た医師が陰影に気づくなどして、別の医師に詳細な判定を求めていた。

NTT西日本広報室は判決の内容を十分検討して今後の対応を考えたい」と話している。

### 術後の処置・診断ミスで障害が残ったとして賠償命令

徳島健生病院(徳島市)で受けた足首の手術ミスで、歩行障害が残ったなどとして、徳島県北島町の団体職員の男性(55)が同病院を経営する徳島健康生活協同組合などに約8000万円の損害賠償を求めた訴訟の判決で、徳島地裁は26日、病院側に約2900万円の支払いを命じた。村岡泰行裁判官は判決理由で「手術後の感染症発生への処置を怠り、亀裂骨折を見落とすなどの過失があった」との判断を示した。

判決によると、男性はくじいた右足首の治療のため、1994年7月に同病院で足首の骨の一部を削る手術を受けた後、感染症を発症し、さら

に亀裂骨折が生じた。同病院は手術で骨の強度を弱めたのに適切な措置を講じず、男性が痛みを訴えても亀裂骨折の可能性を検討していなかった。病院側は「判決文をよく読んで対応を検討したい」と話している。

### 肝がん術後の出血見逃したと 3700万円の賠償命令

大阪府貝塚市立貝塚病院で肝臓がんの手術を受けた男性(当時71)が死亡したのは病院のミスとして、遺族が貝塚市に計約8000万円の損害賠償を求めた訴訟の判決で、大阪地裁は9月29日、市に計約3700万円の支払いを命じた。

判決理由で中本敏嗣裁判官は「男性は手術後の出血が原因で容体が悪化した」としたうえで「医師は出血の兆候を見逃し、すぐに再手術して止血するなどの適切な対応をとらなかった」と過失を認定。「止血が早ければ命を救うことができた可能性が高い」と述べた。

判決によると、男性は1997年、C型肝炎による肝硬変を発症していると診断され、2000年12月に肝臓がんで入院、摘出手術を受けた。手術後、体内で出血したが、医師は翌日の午後まで気づかなかった。男性は出血が原因で肝不全が悪化し、腎不全も併発して翌年1月、死亡した。

市立貝塚病院の赤坂勝事務局長は「判決内容を見たうえで、今後の対応について協議したい」とコメントした。

### 輸血検査怠りC型肝炎に、病院側に 800万円賠償命令

大阪府立千里救命救急センター(同府吹田市)でウイルス検査をしていない血液を輸血されC型肝炎に感染したとして、岡山県の男性が府に約900万円の損害賠償を求めた訴訟の控訴審判決が9月30日、大阪高裁であった。

竹原俊一裁判官は、医師の説明義務違反だけを認め100万円の支払いを命じた一審大阪地裁判決を変更し、検査すべき注意義務も怠ったとして、府に約815万円の支払いを命じた。

判決理由で竹原裁判官は「当時、検査すれば感染率を激減させられることは十分知られ、検査していれば感染が防止できた蓋然性が高い」と述べた。判決によると、男性は1997年1月、大阪府摂津市内をミニバイクで走行中、踏切で電車と衝突しセンターに緊急搬送された。輸血用の血液が不足したため、センターは緊急に血液提供者を募集し輸血。その際、C型肝炎ウイルスの抗体

検査をせず、感染の可能性があることも本人に説明しなかった。昨年8月の一審判決は病院側の説明義務違反を認めたが「緊急のため検査する注意義務を怠ったとは言えない」としていた。

### 陣痛促進剤投与後の監視不充分的為 に死亡したとして3670万円賠償命令

長女が出生直後に死亡したのは病院側のミスが原因だとして、兵庫県尼崎市の大学職員、山下秀樹さん(41)夫妻が和歌山県打田町の公立那賀病院を経営する事務組合と担当医師に計約6060万円の損害賠償を求めた訴訟の判決で、神戸地裁尼崎支部は病院側の過失を認め、組合と医師に計約3670万円の支払いを命じた。

渡辺安一裁判長は長女の死亡について、陣痛促進剤の服用で強い陣痛が起き、ストレスで低酸素状態になったことが原因と認定。「陣痛促進剤の投与後、事態の急変に気づくまでの約1時間45分間、病院は母親を放置した。分娩監視装置をつけるなどしていれば、胎児の仮死兆候を示すデータをつかめていたはず」と判決理由を述べた。判決によると、山下さんの妻は2000年5月に破水して入院。陣痛が弱かったため医師が陣痛促進剤を使用した。約1時間45分後に心拍数の減少に気づき帝王切開したが、長女は間もなく死亡した。同病院の鈴木忍事務局長は「判決文が届いていないので現時点ではコメントできない」としている。

### 輸血の遅れが死亡につながったと して7000万円賠償命令

出産後の出血で妻(当時34)が死亡したのは輸血措置の過失が原因として、兵庫県尼崎市の男性(32)と子どもらが同市内の産婦人科医と転送先の県立尼崎病院(尼崎市)を開設する県に慰謝料など計約9300万円の損害賠償を求めた訴訟の判決で、神戸地裁尼崎支部は2日、県に計約7100万円の支払いを命じた。

安達嗣雄裁判長は判決理由で「尼崎病院の医師は到着時の診察で直ちに輸血を開始すべき注意義務があったのに、時期が大幅に遅れた過失がある」との判断を示した。産婦人科医への請求は棄却した。

判決によると、女性は2001年7月17日、産婦人科医院で男児を出産後に出血が続き、医師は輸血用血液の到着が間に合わないと判断し、尼崎病院に転送。同病院の医師は大量出血を聞き、止血手術などをしたが、輸血を開始したのは転

送から数十分以上後で、女性は18日午後、出血性ショックで死亡した。

県立尼崎病院の船田理総務部長(57)は「できるだけだけの処置を行ったが、主張が認められず非常に残念。判決文をよく読み、控訴を含め、今後の対応を検討したい」と話している。

### 子宮筋腫手術時に誤って尿管切断し 780万円支払い

愛知県瀬戸市の公立陶生病院で、子宮筋腫の摘出手術を受けた同市内の女性(52)の尿管などを誤って切断する手術ミスがあったことが6日、わかった。病院側はミスを認め、損害賠償金として女性に780万円を支払う示談が成立した。同病院は、主治医の産婦人科部長(59)を訓告処分にした。

病院の説明によると、女性はこぶし大の子宮筋腫があったため1999年7月、腹腔鏡を使って摘出手術を受けた。その際、主治医が誤ってメスで尿管を切断し、ぼうこうに穴を開けた。

急きょ開腹手術に切り替えて、尿管をつないだが、女性は退院後も尿意が乏しくなる神経障害が残ったという。

### 熱射病に対する治療が水準に達して いないと4400万円の支払い命令

福岡県の筑後市立病院で1999年夏、熱射病になった県立高校1年荒巻義之さん(当時15)が、医師のずさんな治療のため死亡したとして両親が筑後市に損害賠償を求めた訴訟の判決で、福岡地裁の杉山正士裁判長は6日、「緊急の体温低下処置などを怠り、医療行為を行ったとは到底いえない」として計約4400万円の支払いを市に命じた。

判決によると、義之さんは99年7月、野球部の練習中に倒れ同病院に搬送された。医師は約1時間半、氷のうなどを使った処置をせず、その後も体温が下がらないのに、アルコールを吹き付けた体に風を当てるなどの体表面冷却(クーリング)を怠った。義之さんは転院したが、約2週間後に熱射病による多臓器不全で死亡した。

判決理由で杉山裁判長は「救命の鍵といえる素早い氷のうや、別の適切なクーリングもしていれば、死亡を免れた可能性が高い」と認定。

治療しても救命できなかったとする病院側の主張については「熱射病の治療水準に達しない医師の行為が生命に決定的な影響を与えており、主張は理由がない」と批判し退けた。

## 薬事情報センターだより（200）

あらためて調剤とは

近年、薬剤師は、病院においては、薬剤管理指導業務を行うようになり、薬局においては、医薬分業の進展に伴い、患者と直接接する機会が増加しており、それに伴い薬剤師に求められる調剤という行為も変化してきているように思われます。

薬剤師法第1条には、「薬剤師は、調剤、医薬品の供給その他薬事衛生をつかさどることによって、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もつて国民の健康な生活を確保するものとする」と規定されており、調剤は薬剤師の任務および業務の一つと規定されています。従来は調剤というと、主として経験に基づいた技術的な面が重要視され、一定の処方に従って、一種以上の薬品を配合したり、一種の薬品を使用して、特定の分量に従って、特定の用法に適合するように特定人の特定の疾病に対する薬剤を調製することに重きが置かれていました。

現在でも、この技術的な面が重要であることには違いはありませんが、最近では、薬剤師にはチーム医療において、医師等の他の医療従事者と協力して、薬のスペシャリストとして、医薬品に関するリスクマネージャーとしての役割を十分に果たすことが求められるようになってきました。そのため、調剤は、上述の定義に加えて、患者の病態、体質、アレルギー歴・副作用歴の確認を始めとし、服薬情報など患者背景を十分に考慮した上で行うものであるとの新しい概念が付加されるようになってきました。

言い換えれば、常に対象が患者であることを念頭におき、処方という情報を薬のスペシャリストとして評価し、処方情報に基づき薬剤を調

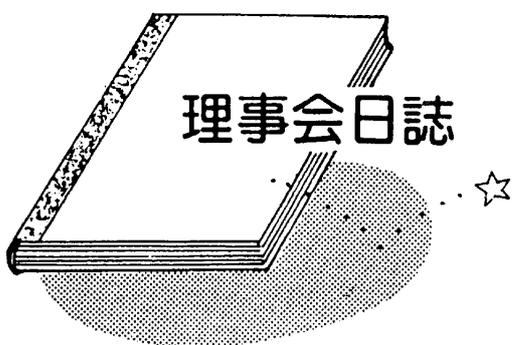
製し、患者が相互作用あるいは副作用などを回避し、適正に使用するための情報提供とともに交付し、患者が適正に使用したことを確認し、使用後の有効性の評価及び相互作用や副作用出現の有無などを確認し、これらの情報を処方へフィードバックするまでの一連のサイクルを調剤と言う考え方に変わってきています。調剤が経験に基礎をおいたものから薬学・医学の知識と最新の医薬品情報などを集積した科学に基礎をおいたものへと変化したと言えるのではないのでしょうか。

そして、このような調剤を実践するためには、薬剤師一人ひとりが医薬品の薬効・薬理はもとより剂形的特徴、体内動態とその変動要因など最新の薬学的な深い知識を持つことが重要です。また、患者の理解度などを考慮した上で、患者一人ひとりに対応する技術の習得も患者のQOLの向上を図る上で重要です。これらのことができて初めて薬物療法を有効かつ安全に行うことに薬剤師が貢献できるのだと考えられます。

そのため、薬剤師は薬剤学的知識や薬理学的知識をはじめとした様々な知識を習得するとともに、それらを実践し、薬剤師としての業務を十分果たせるよう日々研鑽を積んでいかなければならないと思っております。

また、薬剤師の資質向上を図るための環境整備の一環として、現在、国と薬剤師会においては、薬学教育6年制導入についての真摯な議論を行っており、その結果に関心をもち、真に認知される薬剤師になれるよう努める必要があると考えます。

参考 第十一改訂 調剤指針 増補版



平成15年10月28日(火) 第13回全理事会

医師会関係  
(議決事項)

1. 鑑定人候補者の推薦について  
調査対象者が延岡市在住。延岡市の精神科の先生にお願いすることになった。
2. 宮崎地方社会保険医療協議会委員の推薦について  
稲倉常任理事と石川恵美先生(県立宮崎病院)を推薦することに決定した。
3. 11/21(金)・11/26(水) 社会保険医療担当者(医科)の新規個別指導の実施について  
11/21(金)は河野常任理事が、11/26(水)は小玉理事がそれぞれ対応することに決定した。
4. 11/28(金)(日医)平成15年度都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会について  
浜田理事の出席が決まった。
5. 平成15年度県立学校(高校・特殊学校)学校医報酬基準額について  
高等学校、特殊教育学校等の学校医報酬基準額が承認された。
6. 「医師から都道府県知事等への届出のための基準(案)」について  
特に意見なしで回答することに決定した。
7. 11/5(水)(日医)中国におけるSARSの予防と治療に関する報告会の開催について  
小玉理事の出席が決まった。
8. 県内全域における麻しん患者の全数報告に

ついて

協力することに決定した。

麻しん患者を診断した場合の管轄保健所への報告等についての協力依頼。

8. 行事予定について  
12月の行事が決まった。
  10. 宮崎県医療相談連絡協議会委員の推薦について  
西村常任理事の推薦が承認された。
  11. 九医連平成15年度第2回各種協議会の開催種目について  
介護保険・医療従事者・医業経営(新規)の3対策協議会の開催を提案することに決定した。
- (報告事項)
1. 10/22(水)(宮大)宮大医学部医学概論講義について
  2. 10/23(木)(厚生年金会館)社会保険医療担当者個別指導について
  3. 平成16年度4月診療報酬改定要望事項等(中医協提出)の送付について
  4. 10/22(水)(支払基金)支払基金幹事会について
  5. 10/27(月)(東京)支払基金本部理事会について
  6. 10/24(金)(福祉総合センター)県社会福祉協議会運営適正化委員会について
  7. 10/24(金)(県医)平成16年度九医学記念行事代表世話人会について
  8. 10/28(火)(ひまわり荘)社会保険医療担当者個別指導について
  9. 10/18(土)(奈良)全国医師会勤務医部会連絡協議会について  
38ページ参照
  10. 10/18(土)・19(日)(岐阜)全国医療情報システム連絡協議会定例会議について  
36ページ参照
  11. 10/18(土)(福岡)九州学校検診協議会専門委員会について
  12. 10/18(土)(福岡)九州各県医師会学校保健担

## 当理事者会について

13. 10/25(土) 県医)学校医部会総会・医学会について
14. 10/22(水) 県警本部)宮崎犯罪被害者支援センター設立発起人会について
15. 10/22(水) 宮崎空港)宮崎空港航空機事故消火救難総合訓練実施調整会議について
16. 10/23(木) 県医)乳がん検診に関する情報交換会について
17. 10/24(金) 県庁)県個人情報保護審査委員会について
18. 10/25(土) 日医)日医医療政策シンポジウムについて
19. 10/25(土) サミット)日本警察医会総会・学術講演会について
20. 10/27(月) 県医 1 階)広報委員会について
21. 10/28(火) 企業局)県身体拘束ゼロ作戦推進会議について
22. 11/29(土)ラジオ「おしえて!ドクター 健康耳寄り相談室」について

## 医師連盟関係

## (協議事項)

1. 11/3(月) JA - A Z M)中山成彬個人演説会の案内について  
早稲田常任執行委員の出席が決まった。
2. 陣中見舞について  
委員長に一任することになった。

## (報告事項)

1. 10/22(水) 市総合体育館)中山成彬候補総決起大会について
2. 10/28(火) 宮崎神宮)中山成彬候補必勝祈願祭について
3. 10/28(火) 中山事務所)中山成彬候補出陣式について
4. 10/27(月) 県医)県医連宮崎県第一区衆議院選挙対策打合せ会について
5. 300小選挙区担当責任者へへのお願いについて

## 医師国保組合関係

## (協議事項)

1. 11/30(日) 宮崎市白浜周辺)第9回歩こう会について  
第9回の開催日程、内容等が承認された。  
医師国保組合の保健事業の一環。

## 医師協同組合・エムエムエスシー関係

## (報告事項)

1. 10/28(火) 県医)医協運営委員会について  
平成15年11月11日(火) 第14回全理事会

## 医師会関係

## (議決事項)

1. 12/11(木) ウェルシティ宮崎)社会保険医療担当者(医科)の集団個別指導の実施について  
志多副会長及び稲倉常任理事が対応することに決まった。
2. 雇用・産業再生に係る福祉・医療分野部会委員の推薦について  
稲倉常任理事の推薦が決定した。
3. 宮崎犯罪被害者支援センター設立に関する賛助会員(年会員)の入会について  
法人として入会することが承認された。
4. 12/2(火) 宮観ホテル)平成15年度第3回各郡市医師会長協議会における提案事項について  
本会及び各郡市医師会からの提案事項が、現時点ではないので、11月18日(火)に日医で開かれる本年度第3回の都道府県医師会長協議会の報告をメインに開催することになった。終了後、本年度初めての懇親会を開催することに決定した。
5. 勤務医住宅ローン借入申込みについて  
申請のあった1件が承認された。
6. 母体保護法指定医等申請について  
申請1件が承認された。
7. 宮崎県成人病検診管理指導協議会委員の

## 推薦について

稲倉・夏田常任理事，関係専門分科医会で協議のうえ決めることになった。

2年間の任期満了に伴う医師会関係委員20名の推薦依頼。

## 8. 重症急性呼吸器症候群(SARS)のサーベイランスについて

SARS対策として県が実施する予定のサーベイランスに協力することになった。

## 9. その他

2004年世界医師会(WMA)東京総会準備委員会委員の委嘱について

秦会長への委員委嘱については，日程的に理事会で協議できなかつたので，会長専決により承諾した旨の報告がありました承された。

11/14(金)～16(日)佐賀 第103回九州医師会医学会等について

次回開催担当県は，本県医師会。

## (報告事項)

## 1. 週間報告について

## 2. 平成15年10月末日現在宮崎県医師会会員数について

## 3. 11/4(火)県知事と三師会との意見交換会について

## 4. 11/5(水)県医)有床診療所協議会役員会について

5. 11/6(木)県医)医学会誌編集委員会について  
34ページ参照

## 6. 11/10(月)県医)社会保険事務局との打合せについて

## 7. 第103回九州医師会連合会総会における宣言・決議(案)について

## 8. 厚生労働省保険局医療課が所管する申請・届出等手続の電子化の実施について

## 9. 病院，老人保健施設等対象の金庫破り事件手配(第2報)について

## 10. 10/30(木)宮観ホテル)県環境整備公社評議

## 員会について

## 11. 11/5(水)社会保険医療担当者新規個別指導について

## 12. 9/27(土)・11/8(土)宮崎市郡医師会病院)・10/4(土)都城市郡医師会病院)在宅医療推進のための実地研修会について

## 13. 10/30(木)県医)地域リハビリテーション広域支援センター連絡会議について

## 14. 11/4(火)県庁)県リハビリテーション協議会について

## 15. 11/5(水)宮観ホテル)県高齢者雇用開発協会生涯生活設計セミナーについて

## 16. 11/6(木)日医)日医医療関係者対策委員会について

## 17. 11/10(月)メリージュ)ACLS打合せについて

## 18. 10/29(水)県医)労災診療指導委員会について

## 19. 労災保険悪用2容疑者起訴について

## 20. 10/29(水)高千穂)県精神保健福祉大会について

## 21. 11/5(水)日医)日医中国におけるSARSの予防と治療に関する報告会について

## 22. 11/7(金)ウェルシティ宮崎)県メンタルヘルス対策推進連絡会議について

## 23. 11/8(土)青森)全国学校保健・学校医大会について

## 医師連盟関係

## (報告事項)

## 1. 11/9(日)衆議院議員選挙結果について

## 医師国保組合関係

## (報告事項)

## 1. 10/31(金)広島)全国医師国保組合連合会全体協議会について

平成15年11月18日(火) 第12回常任理事会

## 医師会関係

## (議決事項)

## 1. 白菊会への運営資金援助について

例年通り，会員へお願いの文書を送付す

- るなど協力することに決定した。  
平成15年度維持会員費は一口3千円から5千円に変更された。
2. 年未年始及び平成16年レセプト提出締切日について  
承認され、協力することに決まった。  
各医療機関へは、県国保連合会から直接通知される。
3. 12/10(水) ウェルシティ宮崎 )社会保険医療担当者新規個別指導の実施について  
担当役員により対応することになった。
4. 平16/1/23(金) (日医)第9回都道府県医師会介護保険担当理事連絡協議会の開催について  
河野常任理事の出席が承認された。
5. 日本医師会「医療安全推進者養成講座」16年度実施要綱について  
役員1名及び事務局職員1名の受講が決まった。
6. 勤務医住宅ローン借入申込みについて  
申請のあった1件が承認された。
7. 11/30(日) (西都)スポーツドクターの派遣依頼について  
西都市・西児湯医師会へ推薦を依頼することになった。
8. その他  
行事予定について  
12月の行事予定が決まった。  
平成16年度第104回九州医師会医学会について

本会担当で平成16年10月30日(土)・31日(日)に開催予定の標記医学会について、分科会より「メインテーマ」を決めていただきたいとの要望があったので、次回全理事会までに案を提出してもらうことになった。

(報告事項)

1. 11/13(木) (厚生年金会館)社会保険医療担当者新規個別指導について
2. 11/14(金) (佐賀)九医連臨時委員総会について
3. 11/15(土) (佐賀)九医連委員・九州各県役員合同協議会について
4. 11/15(土) (佐賀)九州医師会総会・医学会について
5. 11/16(日) (佐賀)九医学分科会・記念行事について
6. 11/17(月) (県医)広報委員会について
7. 平16/1/24(土)・25(日)第3回臨床研修・臨床実習「指導医のための教育ワークショップ」の開催について

医師連盟関係

(協議事項)

1. 次期参議院議員選挙候補 西島英利先生に関する行事について  
3月20日(土)開催予定。企画・内容等については、秦委員長に相談のうえ、今後検討していくことになった。

(報告事項)

1. 11/14(金) (佐賀)九州医連連絡会執行委員会について

## 県 医 の 動 き

(11月)

- 1 日医設立記念医学大会(日医)  
産業医研修会  
病院部会・医療法人部会合同研修会  
(濱砂常任理事他)
- 4 県リハビリテーション協議会(会長他)  
県知事と三師会との懇談会(会長他)
- 5 日医中国におけるSARSの予防と治療に関する報告会(日医)(小玉理事)  
社会保険医療担当者新規個別指導  
(志多副会長)  
県高齢者雇用開発協会生涯生活設計セミナー  
(早稲田常任理事)  
有床診療所協議会役員会(稲倉常任理事他)
- 6 日医医療関係者対策委員会(日医)  
(早稲田常任理事)  
全国マルチメディア祭 in みやざき地域情報化サミット開会式典(会長)  
県産婦人科医会会則検討委員会  
(西村常任理事)  
医学会誌編集委員会(稲倉常任理事他)
- 7 県メンタルヘルス対策推進連絡会議  
(濱砂常任理事)  
日産婦医会九州ブロック協議会反省会  
(西村常任理事)
- 8 全国学校保健・学校医大会(青森)  
(大坪副会長他)  
在宅医療推進のための実地研修会  
(夏田常任理事)  
乳がん検診研修会  
全医協連情報化促進企画委員会(東京)  
(志多副会長)
- 10 社会保険事務局との打合会(志多副会長他)  
産業医研修会(都城)  
ACLS打合会(会長他)  
県内科医会医療保険小委員会(志多副会長)  
公衆衛生エイズ等対策委員会(吉田理事他)
- 11 第14回全理事会(会長他)  
県福祉保健部と県医師会との懇談会(会長他)
- 13 社会保険医療担当者新規個別指導  
(稲倉常任理事)
- 14 九医連常任委員会(佐賀)(会長)  
九州医連連絡会執行委員会(佐賀)(会長他)  
九医連臨時委員総会(佐賀)(会長他)  
九医連委員・九州各県医師会役員合同懇親会(佐賀)(会長他)  
県内科医会誌編集委員会
- 15 九医連委員・九州各県役員合同協議会(佐賀)  
(会長他)
- 九州医師会総会・医学会(佐賀)(会長他)  
支払基金レセプト電算処理医科システム説明会(都城)
- 16 九医学分科会・記念行事(佐賀)(会長他)
- 17 産業医研修会(延岡)  
広報委員会(大坪副会長他)  
県産婦人科医会常任理事会(西村常任理事他)
- 18 都道府県医師会長協議会(日医)(会長)  
都道府県医師連盟委員長と日医連常任執行委員会との合同会議(日医)(会長)  
日医世界医師会準備委員会(日医)(会長)  
第12回常任理事会(大坪副会長他)
- 20 都道府県医師会医事紛争担当理事連絡協議会(日医)(西村常任理事)  
感染症危機管理講習会・予防接種実務担当者等研修会(会長他)
- 21 社会保険医療担当者新規個別指導  
(河野常任理事)  
医協会計監査(会長他)
- 22 Medical Tribune 不眠症セミナー(会長他)
- 24 参議院議員選挙候補予定者西島英利君を励ます会(東京)(早稲田常任理事他)
- 25 支払基金幹事会(会長)  
医協運営委員会(会長他)  
第15回全理事会(会長他)
- 26 県民健康セミナー打合会(河野常任理事)  
県民健康セミナー(大坪副会長他)  
都道府県医師会情報システム担当理事連絡協議会(日医)(富田常任理事)  
支払基金本部理事会(東京)(会長)  
社会保険医療担当者新規個別指導(日南)  
(小玉理事)  
労災診療指導委員会(河野常任理事)
- 日医医療情報ネットワーク推進委員会(日医)  
(富田常任理事)  
広報委員会(池井理事)
- 27 西諸緩和ケア研究会(仮称)(西諸)  
(夏田常任理事)  
九医学準備委員会(会長他)
- 28 都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会  
(日医)(浜田理事)  
県社会福祉協議会地域福祉権利擁護事業契約締結審査会(早稲田常任理事)  
県警察官友の会宮崎北支部総会  
(早稲田常任理事)  
宮崎信販との懇談会(会長他)
- 29 産業医研修会(濱砂常任理事他)  
SARS講演会(会長他)
- 30 医師国保組合歩こう会(会長他)

## 追悼のことば

宮崎市郡医師会

倉岡誠三先生

(昭和2年4月19日生 76歳)

弔 辞

本日ここに、今は亡き倉岡誠三先生の御霊前に、宮崎市郡医師会を代表して、謹んでお別れの言葉を申し上げます。

一昨日、先生の突然の御訃報に接し、にわかには信じられず、会員一同、深い悲しみに包まれております。

先生には、9月上旬より病氣御療養中のところ、10月17日午前11時、76歳の御生涯を閉じられました。

今こうして、葬送の列に加わり、奥様をはじめ御親族の皆様方の御心中をお察し申し上げますとき、お悲しみは如何ばかりかと胸塞がる思いでございます。

先生は、昭和2年4月19日、南那珂郡北郷町においてお生まれになり、幼少にしてその才誉れ高く、長じて医学の道に志しを立てられ、昭和30年3月、九州大学医学部を優秀な御成績で御卒業になりました。同年4月、県立宮崎病院において1年の実地修練を積まれた後、昭和31年4月から昭和45年3月まで、大分県日田保健所を振り出しに小倉九州厚生年金病院、県立宮崎病院など14年余に亘り、医療の充実、発展に多大な御貢献をいただきました。

先生は、その間、日々御診療の傍ら臨床の研鑽を積み、昭和40年3月、医学博士の学位を授与されました。

昭和45年3月、県立宮崎病院を最後に御退職になり、同年4月、市内橋通東1丁目に倉岡内科医院を御開業になり、平成14年9月の閉院まで、33年有余の永きに亘り、ひたすら地域医療の第一線に

あつて、地域住民の医療、保健の向上のために御尽力下さいました。その優しく真面目なお人柄により地域の皆様の尊敬と信頼を一身に集めておられました。また先生は、御多忙な御診療の傍ら、潮見小学校、櫛小学校の校医として30年の永きに亘り、児童の健康管理や衛生活動に多大な御貢献をいただき、その御功績により、平成3年2月、宮崎市教育長表彰、平成9年10月、宮崎県教育長表彰をお受けになりました。

また、原子爆弾被爆者健康管理手当等認定審査業務22年間、宮崎市福祉事務所老人ホーム入所判定業務18年間、成人病検診センター胸部写真・心電図判読委員17年間などの公衆衛生事業功勞により、平成14年11月、宮崎県知事表彰をお受けになりました。

一方、先生はお忙しい御診療の合間には、ゴルフ、囲碁、麻雀を御趣味として楽しんでおられたとお聞きいたしております。

御家庭にありましては、慈しみと優しさをもって導き育てられましたお二人の御息がいらっしゃるが、お二人とも既に医師として御活躍中であり、後顧の憂いなきものと存じます。

私ども会員一同は、先生の御遺志を継いで地域医療の充実に、なお一層の努力をいたして参りたいと存じます。

倉岡先生、惜別の情、尽くし得ませんが、ここに謹んで先生の御霊前に哀悼の意を捧げ、地域医療に対する永年の御功績に心から感謝と敬意を表し、御冥福をお祈り申し上げ、お別れの言葉といたします。

先生どうぞ安らかにお眠り下さい。

平成15年10月19日

宮崎市郡医師会

会長 綾部 隆夫

## 会 員 消 息

平成15年11月末現在 会員数 1,646名

( A 会員 808名 , B 会員 838名 )

( 男 性 1,504名 , 女 性 142名 )

### 入 会

A	高田 慎吾 (宮崎)	H 15.10.1	宮崎医療生活協同組合 おおつか生協クリニック	宮崎市大塚町大迫南平4401-2 ☎0985-52-6715
A	柴田 直哉 (宮崎)	H 15.10.15	(医)清涼会 内海クリニック	宮崎市大字内海1126-1 ☎0985-55-8388
B	桑畑 睦郎 (宮崎)	H 15.11.1	(医)社団善仁会 宮崎善仁会病院	宮崎市新別府町江口950-1 ☎0985-26-1599
B ^{A2}	住吉 香恵子(宮崎)	H 15.11.1	宮崎市郡医師会病院	宮崎市新別府町船戸738-1 ☎0985-24-9119
B	松尾 剛志 (宮崎)	H 15.11.1	宮崎社会保険病院	宮崎市大坪西1丁目2-1 ☎0985-51-7575
B	南口 尚紀 (宮崎)	H 15.11.1	(医)同心会 古賀総合病院	宮崎市池内町数太木1749-1 ☎0985-39-8888
B	福岡 周司 (西都)	H 15.11.1	医師会立西都救急病院	西都市大字妻1537 ☎0983-43-3616

### 異 動

B ^{A2}	瀬ノ口 敬介(都城) (会員区分変更: A B ^{A2} )	H 15.10.1	(医) 瀬仁会 瀬ノ口医院	都城市姫城町12-4 ☎0986-25-5155
A	瀬ノ口 洋史(都城) (会員区分変更: B A)	H 15.10.1	"	"
A	中山 展男 (都城) (有床 無床へ変更)	H 15.10.1	(医)中山耳鼻咽喉科医院	都城市妻ヶ丘町15-3 ☎0986-24-2648
A	森山 篤志 (都城) (許可病床数変更)	H 15.10.1	(医)社団 森山内科クリニック	都城市南鷹尾町24-20 ☎0986-21-5221
A	新木 正剛 (南那珂) (標榜科目変更)	H 15.10.1	新木医院	南那珂郡北郷町大字郷之原乙4956-1 ☎0987-55-4101
B	松元 征徳 (宮大) (勤務先等変更)	H 15.10.1	宮崎大学医学部 整形外科	宮崎郡清武町大字木原5200 ☎0985-85-0986
A	内村 利博 (南那珂) (施設住所表示変更)	H 15.10.6	産科婦人科うちむらクリニック	日南市吾田西三丁目7-48 ☎0987-32-1230
A	鮫島 浩文 (都城) (無床 有床へ変更)	H 15.10.10	都北鮫島クリニック	都城市都北町5734-1 ☎0986-38-6060
B	定永 正明 (宮崎) (会員区分変更: A B)	H 15.10.20	(医)社団明仁会 定永耳鼻咽喉科医院	宮崎市高千穂通2丁目2-1 ☎0985-23-6597
A	定永 正之 (宮崎) (会員区分変更: B A)	H 15.10.20	"	"

A	押川 公昭 (宮崎) (有床 無床へ変更)	H 15.11. 1	押川内科医院	宮崎市大塚台西 1 丁目38- 1 ☎0985-47-2485
A	郡 征一郎 (宮崎) (一人医師医療法人等へ変更)	H 15.11. 1	(医)社団 こおり産婦人科・内科	宮崎市船塚 3 丁目101 ☎0985-29-7768
B	澤野 文俊 (宮崎) (自宅会員へ変更)	H 15.11. 1		宮崎市大塚町権現前881-112 ☎0985-48-2512
B	柴田 みつみ(宮崎) (施設名称変更)	H 15.11. 1	(医)清涼会 竹迫外科内科医院	宮崎市大字本郷北方2107-1 ☎0985-53-1212
A	竹迫 堅之助(宮崎) (施設名称変更)	H 15.11. 1	”	”
A	水野 智秀 (日向) (新規開業：B A, 延岡 日向)	H 15.11. 1	みずのメンタルクリニック	日向市北町 1 丁目2 ☎0982-50-0855
B	笠目 敏夫 (南那珂) (勤務先等変更)	H 15.11. 4	(医)春光会 東病院	日南市南那珂郡南郷町東町8-1 ☎0987-64-1500
退 会				
A	中村 政人 (宮崎)	H 15. 9 .30	宮崎医療生活協同組合 おおつか生協クリニック	宮崎市大塚町大迫南平4401-2 ☎0985-52-6715
B	柳澤 透 (宮崎)	H 15.10.28	(財)潤和リハビリテーション振興財団 潤和会記念病院	宮崎市大字小松1119 ☎0985-47-5555
B A ²	土井 宏太郎(宮崎)	H 15.10.31	宮崎市郡医師会病院	宮崎市新別府町船戸738-1 ☎0985-24-9119
B	中山 正基 (宮崎)	H 15.10.31	(医)社団三晴会 金丸脳神経外科病院	宮崎市池内町八幡田803 ☎0985-39-8484
B	山下 良三 (宮崎)	H 15.10.31	(医)社団善人会 市民の森病院	宮崎市大字塩路2783-37 ☎0985-39-7630
A	藤田 淳郎 (日向)	H 15.10.31	ふじた心療内科クリニック	日向市北町 1 丁目 2 ☎0982-50-0855
B A ²	三嶋 和也 (西都)	H 15.10.31	医師会立西都救急病院	西都市大字妻1537 ☎0983-43-3616
死 亡				
B	倉岡 誠三 (宮崎) (76歳)	H 15.10.17		宮崎市恒久南 2 丁目5-13 ☎0985-52-3338
B A ²	富田 次雄 (西都) (92歳)	H 15.10.28	(医)社団 富田医院	西都市小野崎 2 丁目40 ☎0983-43-0178
B A ²	丸田 喜太 (宮崎) (84歳)	H 15.11. 6	丸田医院	宮崎市神宮 1 丁目 4 6 ☎0985-25-1796

## 11月のベストセラー

- |    |                         |           |         |
|----|-------------------------|-----------|---------|
| 1  | 世界の中心で、愛をさけぶ            | 片 山 恭 一   | 小 学 館   |
| 2  | バカの壁                    | 養 老 孟 司   | 新 潮 社   |
| 3  | 誰か                      | 宮 部 み ゆ き | 実業之日本社  |
| 4  | 黒蜘蛛島                    | 田 中 芳 樹   | 光 文 社   |
| 5  | 道路の権力                   | 猪 瀬 直 樹   | 文 藝 春 秋 |
| 6  | 美人画報 ワンダー               | 安 野 モ ヨ コ | 講 談 社   |
| 7  | いちばん大事なこと               | 養 老 孟 司   | 集 英 社   |
| 8  | スピリチュアルプチ お祝いブック        | 江 原 啓 之   | マガジンハウス |
| 9  | ヤンキー母校に生きる              | 義 家 弘 介   | 文 芸 春 秋 |
| 10 | 祇園の教訓<br>昇る人、昇りきらずに終わる人 | 岩 崎 峰 子   | 幻 冬 舎   |

宮脇書店本店調べ

提供：宮崎店(宮崎市青葉町)

☎ (0985) 23-7077

## ドクターバンク情報

(H15.12.1 現在)

求 人：102件(128人)， 求 職：8人， 賃 貸：4件

本会では、会員の相互情報サービスとしてドクターバンク(求人・求職等の情報提供)を設置しております。現在、上記のとおり情報が寄せられております。

情報の閲覧ご希望の方は、県医師会事務局に直接お越しになり、ご覧になってください。なお、求人、求職の申し込みをご希望の方は、所定の用紙をお送りしますので、ご連絡下さい。

担当理事 和 田 徹 也

担当職員 阿 萬 忠 利

T E L 0985-22-5118

F A X 0985-27-6550

## 宮 崎 県 医 師 会 行 事 予 定 表

平成15年11月27日現在

12		月						
1	月	12:00	県健康づくり協会創立記念日行事	13	土	10:00	介護支援専門員研究大会	↑↑ 社 国
2	火	10:00	県商工観光労働部中退共制度普及推進会議			15:00	成人病検診従事者研修会	
		18:30	各郡市医師会長協議会 各郡市医師会長協議会・各郡市 医師連盟委員長合同懇談会	14	日			↑↑ 社 国 保 保 審 審
3	水	14:00	宮崎大学運営諮問会議	15	月	15:00	(東京) 支払基金本部視察・ 理事会・懇親会	↑↑ 査 査
		15:00	県社会福祉協議会運営適正化委員会					
		16:30	県医諸会計監査	16	火	18:00	医協運営委員会	↓
						18:30	第16回全理事会	↓
4	木	15:00	県社会福祉協議会運営適正化委員会			19:00	役職員年末懇談会	↓
5	金	19:00	広報委員会	17	水		(年末大掃除) 14:00 県医療相談連絡協議会	
6	土	13:30	県痴呆性高齢者グループホーム 研修会	18	木		労災部会懇談会 15:00 労災診療指導委員会 19:00 西都市・西児湯医師会忘年会	
		14:00	(日医) 日医家族計画・母体保護 法指導者講習会	19	金		県健康づくり協会年末懇談会 16:00 県社会福祉協議会地域福祉権利 擁護事業契約締結審査会 19:00 広報委員会 19:00 都城市北諸県郡医師会忘年会	
		14:30	プライマリ・ケア研究会					
		15:00	成人病検診従事者研修会	20	土			
7	日			21	日			
8	月			22	月	19:00	県産婦人科医会全理事会	
9	火	17:30	医師国保定例事務監査					
		19:00	第13回常任理事会	23	火		(天皇誕生日)	
10	水	13:00	(日医) 日医社会保険診療報酬検 討委員会・懇親会	24	水	15:00	支払基金幹事会	
		13:30	社会保険医療担当者新規個別 指導	25	木			
		18:30	延岡市医師会会員忘年会	26	金	16:00	仕事納め式	
11	木	15:00	産業医研修会(実地)	27	土	10:30	(東京) 日医医療安全推進者養成 講習会	
		15:00	社会保険医療担当者集団個別 指導	28	日			
12	金	19:00	成人病検診従事者研修会	29	月		(年末休業)	
				30	月		(年末休業)	
				31	月		(年末休業)	

都合により、変更になることがあります。

## 宮 崎 県 医 師 会 行 事 予 定 表

平成15年11月27日現在

1		月			
1	木	(年始休業)	17 土	(福岡)福岡県医師会館落成式(予定) 宮崎市郡医師会総会 14:00 支払基金レセプト電算処理 14:00 医科システム説明会 14:00 県産婦人科医会研修会	↑ 国 保 審 査
2	金	(年始休業)			
3	土	(年始休業)			
4	日		18 日		
5	月	9:30 仕事始め式	19 月	13:30 産業医研修会	↑
6	火	19:00 第14回常任理事会	20 火	14:45 (日医)都道府県医師会長協議会 19:00 第15回常任理事会	
7	水		21 水	(日医)日医医療情報ネットワーク推進委員会	↑
8	木		22 木	19:00 会員福祉委員会	
9	金	18:30 病院部会・医療法人部会合同理事会・新年会 19:00 産業医研修会 19:00 三師会合同新春合同懇親会	23 金	西諸医師会総会 南那珂医師会総会 14:00 (日医)都道府県医師会介護保険担当理事連絡協議会 19:00 医協医療法人相続対策セミナー	↓ 社 保 審 査
10	土	10:00 (福岡)臨床研修・実習指導医のための教育ワークショップ 15:00 健康スポーツ医学セミナー 17:00 (東京)全医協連休診共済会理事会	24 土	14:30 (佐賀)次期日医会長選挙立候補予定者政策演説会(予定) 16:00 (佐賀)九医連常任委員会 16:00 (佐賀)九医連各種協議会	
11	日	8:00 (福岡)臨床研修・実習指導医のための教育ワークショップ 10:30 (東京)全医協連理事会 12:30 (東京)全医協連広報部会	25 日		↓
12	月	(成人の日)	26 月	13:30 (東京)支払基金本部理事会 19:00 広報委員会 19:00 県産婦人科医会常任理事会	
13	火	19:00 第17回全理事会	27 火	18:00 医協運営委員会 19:00 第18回全理事会	↓
14	水		28 水	14:00 産業医研修会 15:00 労災診療指導委員会 16:00 支払基金幹事会	
15	木	14:00 産業医研修会 19:00 広報委員会	29 木	18:30 児湯医師会総会	↓
16	金	12:30 (日医)日医医療関係者対策委員会 18:30 県警察新春懇談会	30 金	都城市北諸県郡医師会総会	
			31 土	日向市東臼杵郡医師会総会	

都合により、変更になることがあります。

## 医 学 会 ・ 講 演 会

### 日本医師会生涯教育講座認定学会

注：数字は日本医師会生涯教育制度認定単位。当日，参加証を交付。

がん検診 = 各種がん検診登録・指定による研修会 太字 = 医師会主催・共催  
アンダーラインの部分は，変更になったところです。

名 称	日 時	場 所 会 費	演 題	そ の 他
宮崎市郡外科医会 12月例会 ( 3 単位 )	12月 1 日(月) 19 : 00 ~ 20 : 00	宮崎観光ホ テル	脳神経外科疾患の救急治療 県立宮崎病院脳神経外科医長 宮原 郷士	主催 宮崎市郡外科医会
宮崎県脳卒中フォー ラム ( 3 単位 )	12月 3 日(水) 18 : 45 ~ 20 : 30	宮崎観光ホ テル	特別講演「脳梗塞の急性期治療の病態 と治療」 慶應義塾大学医学部内科学講師 棚橋 紀夫  他一般演題	共催 宮崎県内科医会 小野薬品工業(株) 後援 宮崎県医師会
第19回都城脳神経 カンファレンス ( 3 単位 )	12月 4 日(木) 19 : 00 ~ 20 : 00	都城市北諸 県郡医師会 館	症例検討会	主催 都城脳神経カンファ レンス 共催 田辺製薬(株)
三股木曜会学術講 演会 ( 3 単位 )	12月 4 日(木) 19 : 00 ~ 20 : 00	ホテル中山 荘 500円	治療抵抗性肺炎の考え方 - 鑑別すべ き呼吸器疾患 宮崎大学医学部第 3 内科助手 芦谷 淳一	主催 三股木曜会 共催 三共(株)
第 3 回宮崎 CVEM 研究会 ( 3 単位 )	12月 5 日(金) 19 : 00 ~ 20 : 30	宮崎観光ホ テル 1,000円	脂肪細胞と心血管病の分子メカニズム 東京大学大学院医学系研究科 糖尿病・代謝内科教授 門脇 孝	共催 宮崎 CVEM 研究会 三共(株)
第 9 回宮崎県プ ライマリ・ケア研究 会 ( 5 単位 )	12月 6 日(土) 14 : 00 ~ 17 : 30	県医師会館	文系医者のプライマリ・ケア 実地医家のための会世話人代表 矢吹 清人  肥満治療の最近の話題 - ツムラ防風通聖散の抗肥満効果 - 京都府立医科大学病院教授 吉田 俊秀 シンポジウム テーマ「肥満症」	共催 宮崎県プライマリ・ ケア研究会 (株)ツムラ
宮崎市郡医師会第 5 回市民公開講座 第110回しのもめ医 学会 ( 5 単位 )	12月 6 日(土) 14 : 00 ~ 16 : 00	宮日会館	生き方と逝き方のコツ - ホスピスを じょうずに利用するために - 宮崎大学医学部哲学・倫理学 研究室講師 坂井 孝壱郎 宮崎市郡医師会病院緩和ケア 病棟医長 黒岩 ゆかり	主催 宮崎市郡医師会

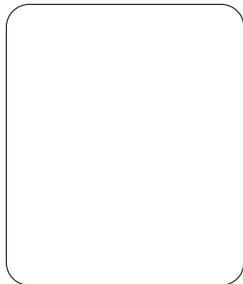
名 称	日 時	場 所 会 費	演 題	そ の 他
平成15年度宮崎県 医師会成人病検診 従事者研修会(延岡) (5単位)	12月6日(土) 15:00 ~17:10	カルチャー プラザ延岡	肺がん検診 宮崎大学医学部放射線科 中田 博 胃がん検診 宮崎大学医学部放射線科 宮崎 貴浩 乳がん検診 宮崎大学医学部第1外科 江藤 忠明 大腸がん検診 宮崎大学医学部第1外科 佛坂 正幸	主催 宮崎県医師会 宮崎県
第106回宮崎県眼科 医会講習会 (3単位)	12月6日(土) 15:30 ~18:30	宮崎観光ホ テル 開業医・勤務 医 2,000円 公的医療機関 勤務医 1,000円	保険研究会 眼科保険診療の諸問題について(平成 15年度各支部健保担当理事連絡会より) 健康保険担当理事 川島 謙一郎 講演会 緑内障点眼薬のコンプライアンス 佐賀大学医学部眼科学助教授 小林 博 黄斑浮腫の診断と治療 京都大学大学院医学研究科 眼科学講師 高木 均	主催 宮崎県眼科医会
西臼杵郡医師会学 術講演会 (5単位)	12月9日(火) 18:45 ~	国民宿舎高 千穂荘	インスリン抵抗性と分泌不全 高千穂国民健康保険病院内科 医長 和氣 仲庸	主催 西臼杵郡医師会 共催 武田薬品工業(株)
呼吸器感染症学術 講演会 (3単位)	12月11日(木) 18:30 ~20:30	宮崎観光ホ テル	今年の冬場の感染症対策 - インフルエンザ流行とSARS - 長崎大学熱帯医学研究所内科 助教授 大石 和徳	共催 宮崎県内科医会 杏林製薬(株)
都城市北諸県郡医 師会内科医会学術 講演会 (3単位)	12月11日(木) 18:30 ~	都城ロイヤ ルホテル	CHARM-Study から何を学ぶか 宮崎大学医学部附属病院長 江藤 胤尚	共催 都城市北諸県郡医師 会内科医会 武田薬品工業(株)
第122回宮崎県泌尿 器科医会 (3単位)	12月11日(木) 19:00 ~	宮崎観光ホ テル	医師国家試験問題(泌尿器科学関係 解説) 宮崎大学医学部泌尿器科教授 長田 幸夫	主催 宮崎県泌尿器科医会

名 称	日 時	場 所 会 費	演 題	そ の 他
第17回血液と血管 を考える会 (3単位)	12月12日(金) 18:30 ~20:30	ホテル JAL シティ宮崎 1,000円	わが国における静脈血栓塞栓症の現 状と予防ガイドライン作成 信州大学医学部保健学科教授 小林 隆夫	共催 血液と血管を考える会 第一製薬(株)
第4回都城手術手 技懇話会 (3単位)	12月12日(金) 19:00 ~20:15	宮永病院 1,000円	腹腔鏡下手術の手術手技 - 手技の実際と小さな工夫 - 和田病院副院長 川野 克則	主催 都城手術手技懇話会 共催 日本ワイズレダリー(株)
平成15年度宮崎県 医師会成人病検診 従事者研修会(宮崎) (5単位)	12月12日(金) 19:00 ~21:00	県医師会館	肺がん検診 宮崎大学医学部放射線科 中田 博 胃がん検診 宮崎大学医学部放射線科 宮崎 貴浩 乳がん検診 宮崎大学医学部第1外科 江藤 忠明 大腸がん検診 宮崎大学医学部第1外科 佛坂 正幸	主催 宮崎県医師会 宮崎県
宮崎整形セミナー (3単位)	12月12日(金) 19:00 ~20:30	M R T-micc 1,000円	整形外科診療に役立つ形成外科の知 識 福岡大学形成外科助教授 大慈弥 裕之	主催 宮崎県臨床整形外科 医会 共催 宮崎県整形外科医会 帝人ファーマ(株)
第4回宮崎県介護 支援専門員研究大 会	12月13日(土) 10:00 ~15:10	ワールドコ ンベンショ ンセンター サミット	特別講演 夢の長寿社会 - ケアマネジャーの果たす役割 - 日本ケアマネジメント学会理事 長・名古屋学芸大学長・あいち 健康の森健康科学総合センター 名誉センター長 井形 昭弘	主催 宮崎県介護支援専門 員連絡協議会 共催 宮崎県医師会 宮崎県看護協会 宮崎県老人保健施設 協会 宮崎県老人福祉サー ビス協議会 社会福祉法人宮崎県 社会福祉協議会 後援 宮崎県 他

名 称	日 時	場 所 会 費	演 題	そ の 他
平成15年度宮崎県 医師会成人病検診 従事者研修会(都城) (5単位)	12月13日(土) 15:00 ~17:10	都城市北諸 県郡医師会 館	肺がん検診 宮崎大学医学部放射線科 中田 博 胃がん検診 宮崎大学医学部放射線科 宮崎 貴浩 乳がん検診 宮崎大学医学部第1外科 江藤 忠明 大腸がん検診 宮崎大学医学部第1外科 佛坂 正幸	主催 宮崎県医師会 宮崎県
平成15年度宮崎県 医師会園医部会総 会・研修会 (5単位)	12月13日(土) 15:30 ~	県医師会館	アトピー性皮膚炎について 宮崎大学医学部皮膚科教授 瀬戸山 充 乳幼児の食物アレルギーの現状と対応 国療南福岡病院小児科 柴田 瑠美子	主催 宮崎県医師会園医部会
西諸医師会・西諸 内科医会合同学術 講演会 (5単位)	12月16日(火) 18:30 ~21:00	ガーデンパ ルズ小林	新しい高血圧ガイドラインとその背景 宮崎大学医学部附属病院長 江藤 胤尚	主催 西諸医師会 西諸内科医会 共催 日本ベーリンガーイ ンゲルハイム(株) 山之内製薬(株)
第5回宮崎膠原病 懇話会 (3単位)	平成16年 1月9日(金) 18:30 ~20:30	宮崎観光ホ テル 宮崎膠原病 懇話会会員 1,000円	ANCA 関連血管炎 - 最近の考え方と治療 - 聖マリアンナ医科大学リウマチ 膠原病アレルギー内科教授 尾崎 承一	共催 宮崎膠原病懇話会 日本新薬(株) 宮崎県内科医会
宮崎県医師会スポ ーツ医学セミナー (5単位)	1月10日(土) 15:00 ~17:00	県医師会館	急性心事故に結びつく可能性がある 心電図異常 (財)宮崎県健康づくり協会健診 部長 小岩屋 靖 ウォーキングの医・科学的考察 - 健康運動としてのウォーキング - (財)弘潤会野崎東病院スポーツ メディカルセンター長・宮崎大学 名誉教授 田島 直也	主催 宮崎県医師会
第9回宮崎リウマ チ医の会 (3単位)	1月17日(土) 15:00 ~18:00	JA A Z M ホール 1,000円	特別講演 リウマチ手の病態とその 再建術 長岡赤十字病院リウマチ科(整形 外科)部長 羽生 忠正	共催 宮崎リウマチ医の会 日本リウマチ財団 旭化成ファーマ(株)

名 称	日 時	場 所 会 費	演 題	そ の 他
第13回宮崎臨床免疫研究会 (3単位)	1月23日(金) 18:40 ~20:30	ホテル JAL シティ宮崎 1,000円	ANCA 関連血管炎の臨床像の多様性 とその検査成績・病理組織像について 杏林大学第1内科教授 中林 公正	共催 宮崎県内科医会 宮崎臨床免疫研究会 旭化成ファーマ(株)
第7回アディクション(嗜癖・依存)フォーラム宮崎	1月25日(日) 10:00 ~16:00	県総合保健 センター	講演 アディクション家族の回復 - 食べ物依存からアルコール・薬物 依存まで - 菊陽病院長 赤木 健利	主催 アディクションフォーラム実行委員会 後援 宮崎県医師会 他
第30回宮崎県スポーツ医学研究会 (3単位)	2月7日(土) 16:10 ~18:20	宮崎大学医 学部 1,000円	生活習慣病の予防と治療のための運 動療法: その科学的根拠 産業医科大学健康開発科学研究 室教授 池田 正春 スポーツ行動科学からみた勝つ為の メンタルマネジメント 霜整形外科院長 霜 礼次郎	共催 宮崎県スポーツ医学 研究会 ファイザー(株)
平成15年度日本医師会生涯教育講座 ・日本医師会社保指導者復講研修会 (5単位)	2月14日(土) 15:00 ~	県医師会館	今日の小児診療について - 社会保険 指導者セミナーに出席して -(仮) 宮崎大学医学部小児科教授 布井 博幸 小児の腎臓病について(仮) 県立宮崎病院小児科医長 清 保博 日常の小児科診療のなかでの発育発 達の評価(仮) 県立宮崎病院副院長 浜田 恵亮	主催 宮崎県医師会
第26回宮崎リハビリテーション研究会 (3単位)	2月14日(土) 15:30 ~17:00	県医師会館	現代医療におけるADLの意義とリ ハビリテーション 東京大学大学院医学系研究科 教授 江藤 文夫	共催 宮崎リハビリテー ション研究会 久光製薬(株)
宮崎県医師会勤務医部会講演会 (5単位)	2月28日(土) 16:00 ~18:00	県医師会館	未定 (医)医真会 医真会八尾総合病院 理事長 森 功 生命徴候の病態生理学的解釈法 「なぜ 森繁久弥さんは助かったのか」 群星沖縄臨床研修センター長 宮城 征四郎	主催 宮崎県医師会勤務医 部会

## 私 の 本



宮崎市 貴島小児科  
き しま て る こ  
貴 島 テル子

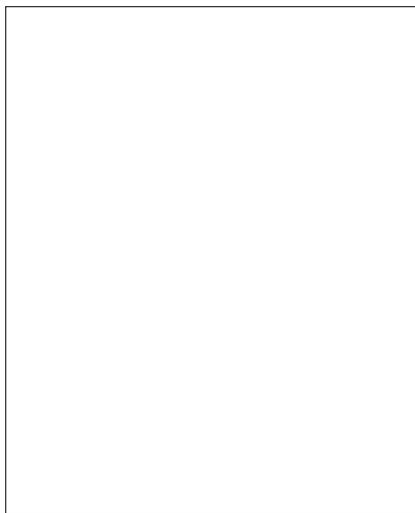
## 「 燦 燦 ( 33 年 ) の 軌 跡 」

表題を見るといかにも輝かしい私の軌跡を書いてあるように思われそうで恥ずかしいが、実はそんなものではない。実は今年開業して丁度33年になったので、その33の音をきれいな漢字に当てたらと、或方の御助言によりつけたもので決してキラキラ輝かしい私の歴史ではない。

日州医事、しのめ、医師協同組合等に投稿したものをまとめられてはと多くの方に勧められ、今迄面倒と放置していたものをこのたび医協のお世話で製本しました。

コピーの為、写真等汚いし印刷も読みづらいものに仕上がりました。まとめてみると私自身「ワァ！随分出していたんだ」と驚いています。旅行随筆が多いので、よく医師会でお会いした方に「今年はどちらへ？」と聞かれます。また、奥様方からも「読みましたよ」と言われるとうれしいものです。

もう、既に皆様にお読み頂いたものばかりと思いますが、機会がございましたらお目通しいただければと願っております。



## 診療メモ

## 婦人科における腹腔鏡手術

昨今、ことに外科分野において急速な腹腔鏡手術の発展が見られていますが、最初に腹腔鏡下に胆嚢摘出術を施行したのはフランスの婦人科開業医である M ourret でした。彼は婦人科の手術の際、併存していた病的胆嚢を摘出しました(1987年)。実は産婦人科における腹腔鏡の歴史は古く、1960年代から腹腔鏡による診断が行われてきました(Kurt Semm)。その後、性能の良いCCDカメラや高性能ビデオシステムが開発され普及し、わが国では1990年に初めて腹腔鏡下胆嚢摘出術が施行され、その後保険適応が広がり、1994年からは婦人科領域ふくめ多数の内視鏡下(腹腔鏡、胸腔鏡)での術式が保険適応となりました。今回は婦人科腹腔鏡手術について、最近の話題を含め取り上げます。

婦人科腹腔鏡手術の種類と適応(表1 表2)

平成15年11月現在、婦人科腹腔鏡手術で保険適応が認められているものは、表1のごとくで、子宮全摘、子宮筋腫核出、子宮付属器腫瘍摘出、子宮外妊娠手術などがよく行われます。対象となる婦人科疾患は良性疾患であることを前提として表2のごとくです。

気腹法、吊り上げ法? Open 法と“ブレードレス”トラカール

気腹法と吊り上げ法では、呼吸循環系への影響が少なくコストの少ない吊り上げ法と、視野に優れる気腹法とが施設の設備や患者さんの状態により選択されています。たとえば高齢者や妊婦には吊り上げ法がより安全ですが、肥満例などでは視野が悪く気腹法が勝ります。また腹腔内へのアプローチ(第一トラカール挿入)に関しては昨今の腹腔鏡手術に伴う事故報告の増加により、気腹針を用いる Closed 法に代わり多くの施設で Open 法が主流になりつつあります。当科では臍底を引き上げてきて10mmの縦切開を入れる Open 法を採用しており、5mmトラカールも安全性を優先しブレードレスのものを用いています。

代表的な術式の実際

婦人科領域でよく行われる術式は卵巣嚢腫摘

出、子宮外妊娠と子宮筋腫摘出です。現在における当科での術式をご紹介します。全身麻酔下、基本的に臍底に10mmの縦切開、両側下腹部に5mmの切開 場合によって中央に追加の計3(～4)つの切開で手術を行っています(図)。

1) 卵巣嚢腫: 術前検査にて悪性が疑われる場合は、原則として腹腔鏡手術の適応外です。

若年者で未妊の方は原則として嚢腫核出を行っています。以前は穿刺縮小させた腫瘍を3cm程度の切開創から体外へ引き出して核出する術式(LAC)を行っていましたが、最近では体内で腫瘍を核出し、残存卵巣を体内で縫合、腫瘍は回収袋で臍の創から体外へ引き出す方法(LC)を行っています。付属器ごと摘出する場合(LSO)の手技はより容易で、卵巣堤索から卵巣固有靱帯までバイポーラや超音波メスで切断します。子宮内膜症では、癒着剥離を要することが多く、原則として嚢腫を核出し縫合しています。

2) 子宮外妊娠: 子宮外妊娠の治療法は旧来は専ら開腹 卵管切除でしたが、近年は超音波所見とhCG値を参考にして、経過観察のみ/MTXによる内科的治療/腹腔鏡下卵管切開(卵管温存)/腹腔鏡下卵管切除を使い分けています。卵管切開(卵管温存)は学会の基準に則り、拳児希望/病巣の大きさ5cm未満/hCG値1万IU/L以下/初回卵管妊娠/胎児心拍無し、という適応がそろえば行っています。切開部位に薄めたピトレスシンを局注し、モノポーラで切開するとほとんどの場合あまり出血せずに妊娠部分が出てきますが、術後の存続絨毛症に注意が必要です。術後の再外妊率は卵管を残しても残さなくても同様の10～15%程度と報告されています。

3) 子宮筋腫:(ALAVH: 子宮のサイズや癒着の関係で腔式全摘手術が困難と思われる症例が適応で、サイズとしてはせいぜい新生児頭大までと考えています。腹腔内では、両側の卵巣固有靱帯もしくは卵巣堤索および円靱帯をバイポーラや超音波メスで焼灼・切断し、

子宮動脈の上行枝が見えるあたりまで子宮傍組織を切断します。膀胱子宮窩腹膜を横切開し、ダグラス窩は癒着がないことを確認します。ついで腔式に仙骨子宮靭帯～膀胱子宮靭帯、子宮動脈を含む基靭帯を切断・結紮すると、比較的容易に子宮が切除できます。子宮を腔から引き出した後、腹膜、基靭帯、腔壁の閉鎖は腔式に行い、再度気腹して腹腔内から断端の止血を確認しています。(B)筋腫核出術：従来は下腹部に小切開を加えた腹腔鏡併用の術式(LAM)を行っていましたが、筋腫核を裁断して体外へ引き出す装置(モルセラータ)を用い、核出部位の体内縫合を確実にを行うことにより腹腔鏡のみですべて行う術式(LM)を少しずつ取り入れています。縫合後の筋層には組織接着剤(タココンプ)などを貼付し術後の癒着を予防しています。

#### 手術後経過

開腹手術に比べると術後CRP値が確実に低く、患者さんの疼痛が少ないことが多数の施設から

報告されています。卵巣のみの術式では一週間以内に退院される方も多く、子宮筋腫でも一週間の越えることはあまりありません。

#### 婦人科腹腔鏡手術の今後の課題

腹腔鏡下手術全体に言われていることですが、より侵襲が軽いとはいえ合併症率がいくらか高いのは事実です。特に、出血や消化管穿孔に関するものには最大限の注意が必要です。動物を用いた実習や講習会、日頃の鍛錬によるスキルアップ、「何か起こったとき」は迷わず開腹する...という姿勢、患者さんへの十分な説明と同意が必要不可欠です。手術時間も症例を重ねることにより開腹手術との格差が減ってくるようです。

婦人科手術のstrategyの一つとして、今後も腹腔鏡手術の必要性が増加するものと考えます。県内の婦人科内視鏡手術がよりよい形で発展していくのを楽しみにしています。

(宮崎善仁会病院 婦人科 和田 俊朗)

表1 保険収載された婦人科腹腔鏡手術

術 式	保険点数
腹腔鏡下腔式子宮全摘術(LAVH)	29,300
腹腔鏡下子宮筋腫核出術(LAM,LM)	25,300
腹腔鏡下子宮付属器癒着剥離術	18,300
腹腔鏡下子宮付属器腫瘍摘出術(LAC,LC,LSO)	16,300
腹腔鏡下卵巣部分切除術	11,300
腹腔鏡下子宮外妊娠手術(卵管切除,卵管切開)	18,600
腹腔鏡下子宮内膜症病巣除去術	17,100

表2 婦人科腹腔鏡手術の適応

子宮筋腫	子宮外妊娠
卵巣腫瘍(良性)	子宮内膜症
多嚢胞性卵巣	不妊症
卵管留水腫	腔欠損症
付属器癒着症	

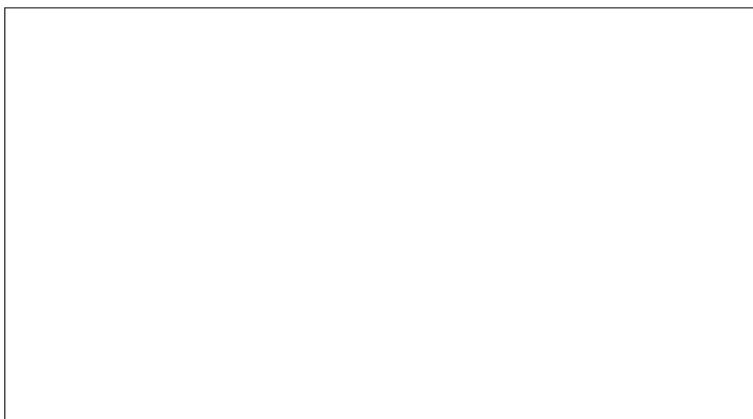
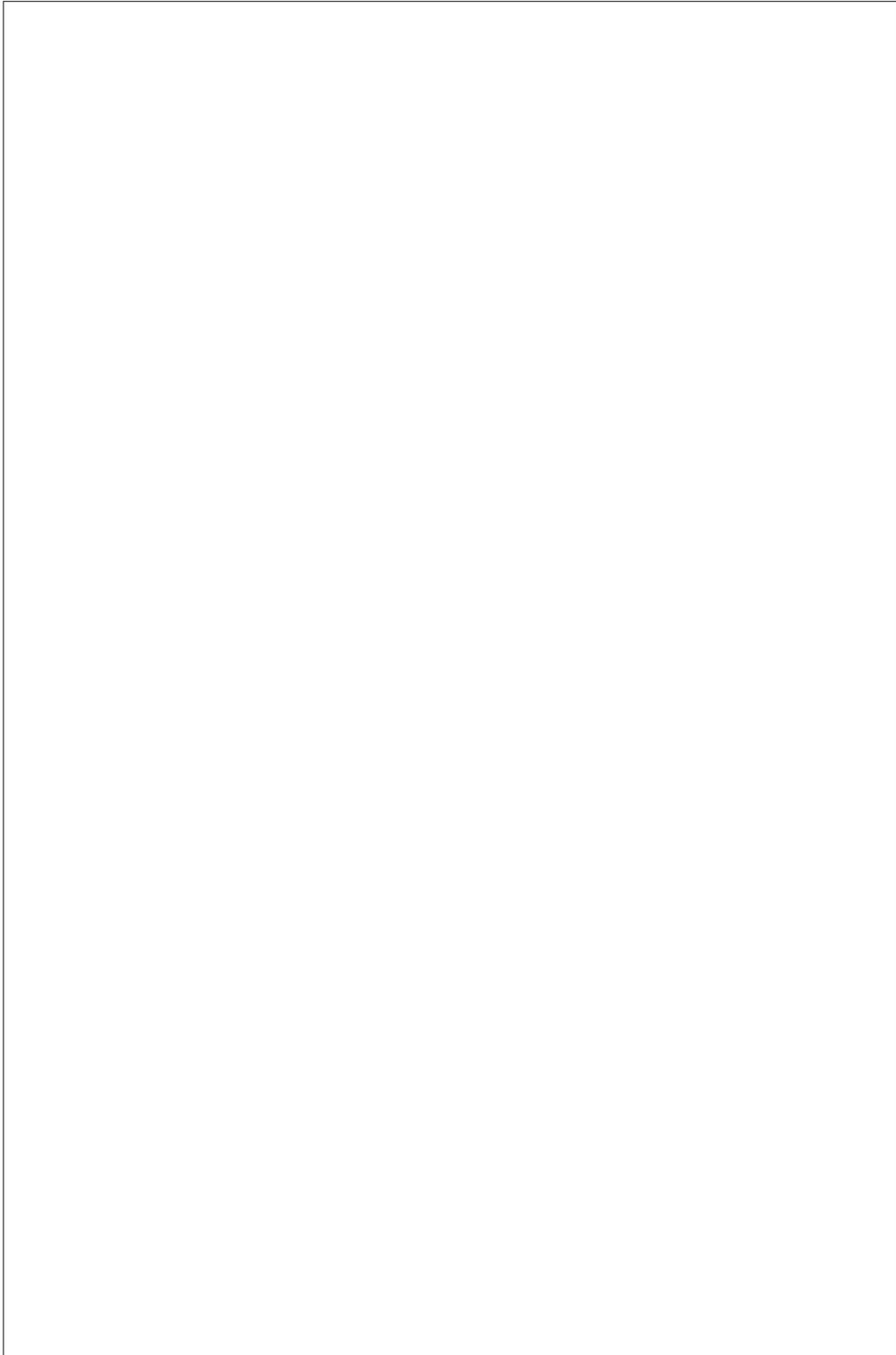


図 穿刺部位



## おしえて！ドクター 健康耳寄り相談室

MRT ラジオ

毎週土曜日 午前11時20分～11時30分 放送

## アルコール依存症について

(平成15年10月18日放送)

精神科医会 細見 潤

アルコールは安価で即効性のあるストレス対策として多くの人々が利用している。しかしながら、時にアルコール依存症という進行性で死に至る病気を発病することがある。この病気の症状の中核は飲酒に対するコントロールの喪失であり、危険な飲み方を続ければ誰でもアルコール依存症になる可能性がある。アルコール依存症は健康な価値観を失わせる。「飲んで死んだら本望」というのはその最たるもので、家族や友人の忠告に耳を傾けないのも同様である。また、アルコール依存症は「否認の病い」とも言われ、自発的に専門医を受診することは殆ど無い。このような時は、困っている家族や友人が先ずは専門医に相談することから治療は始まる。何故なら彼らはアルコール依存症者に振り回されていることが多く、そのことがアルコール依存症という病気に対する本人の自覚を阻害しているからである。治療目標は、単に酒を飲まなければ良いというものではなく、その人がアルコールを必要とする窮屈な生き方、不健康な生き方に気づき、自己改革していくことである。これには専門医への受診とともに自助グループへの参加が極めて有効である。

## 性 感 染 症

(平成15年10月25日放送)

泌尿器科医会 日高 正 昭

性感染症のなかで、現在若者の間に大きな流行を示している性器クラミジア症と淋疾の2疾患に就いて述べた。

男性が罹患すると尿道炎として尿道の違和感、痒感、排膿、排尿痛を自覚して受診し治療を受ける事になるが、問題は女性である。男性では強い痛みのある淋疾でも女性では殆ど症状がないこともあり、また羞恥心のためか受診せず、そうではないかと思いつつも性交には応じる例があり、さらに避妊にはコンドームでなくピルを使うことも流行の大きな要因と思われる。

尿道炎は初尿沈査の白血球で簡単に判明するが、膣炎には明確な指標がないため、尿検査時に、尿路感染症の検査の採尿とは反対に出来るだけ帯下で汚染されるように説明して採尿して貰いDNAをPCR法で検査する。女性の淋疾は薬剤耐性の淋菌が増加しているので治療後に同様の検査で治癒判定をする方が良いのかもしれない。近い将来この若者たちの性関係のサークルの一角にHIVが発生した時には大変な事になるであろう。

## 今後の放送予定

平成15年12月6日	見逃せない病気 - 脂肪肝	弘 野 修 一
12月13日	中高年の腰の痛み	谷 村 俊 次
12月20日	更年期障害について	山 口 昌 俊
12月27日	高齢者の聴こえの問題	柊 山 幹 子

## インフルエンザと予防注射

(平成15年11月1日放送)

内科医会 平塚正伸

インフルエンザの特徴は、空気感染をするので一般の風邪よりも広がりやすく、感染力も強い。1個のインフルエンザウイルスは6時間後にコピーされ、24時間後に100万個に増殖し、すぐに全身症状(40近い高熱、筋肉痛、倦怠感)が現れる。一般の風邪は罹患者の鼻水、せきなどによって手が汚染され、それによって机やドアのノブなどを汚染し、それに触れた人が自分の鼻や口、眼などに手をもっていき、そこからウイルスが侵入し、発症する接触感染であるため、手洗い、マスク、うがい有効であるが、一方、インフルエンザの予防にはワクチンを毎年接種し、ウイルスが咽喉頭や気管支粘膜に侵入することを防ぐことが基本である。12歳以下は4週間の間隔をおいて2回、65歳以上は1回接種する。13歳以上64歳以下も、近年確実にインフルエンザに罹患していたりインフルエンザの予防接種を受けている場合は、1回接種で十分と考えられる。接種2週間後には十分な抗体価の上昇が得られるので、流行のシーズンが始まる11月末までには、かかりつけ医に相談し、インフルエンザワクチン接種を終えておくことが望ましい。(参考 感染を防ぐにはインフルエンザA,B型の抗体価(HI法)で40倍以上あれば十分で、もし少しウイルスが変異した場合でも160倍あれば感染防止出来ます。40倍以下の場合追加ワクチンしても上昇は望めず、その場合は体力を落とさないように注意して、抗ウイルス剤を用意しておくことが大切です。感染確認には迅速診断を行って下さい)

平成16年1月3日 経皮的骨形成術について

1月10日 肺がんについて

1月17日 インフルエンザ SARS について

## 下肢静脈瘤の診断と治療

(平成15年11月8日放送)

外科医会 湯田敏行

下肢静脈瘤のほとんどは原発性の後天性静脈瘤で、静脈の弁がこわれ、逆流が起こることが原因。表在静脈の弁で初めに壊れやすいのは、深部静脈に合流する鼠径部と膝窩部で、その他交通枝の弁も壊れることがある。

### 【弁不全の原因、誘因】

最も多いのは妊娠と長時間の立ち仕事で、太り過ぎ、加齢も誘因の一つ。静脈瘤の発生には生まれ持った静脈の弱さも大きく関与。

### 【静脈瘤の症状】

1. 外観(美容的な問題)
2. 下肢のだるさ、痛み、けいれん、熱感、張り、むくみ

### 【静脈瘤の合併症】

皮膚炎、湿疹、色素沈着、下腿潰瘍、瘤内血栓、静脈炎、深部静脈血栓症(まれ)

### 【静脈瘤の診断】

弁不全の診断には超音波ドプラー法が有用

### 【静脈瘤の治療】

保存的治療 - 圧迫療法(弾性包帯や弾性ストッキング)

#### 手術療法

1. 静脈抜去、切除術(ストリッピング術)
2. 高位結紮術
3. 不全交通枝結紮術

#### 硬化療法

浸透性硬化剤(高張食塩水15~25%)、洗浄性硬化剤(ポリドカノール)

【当科症例】約600例(女性7割、男性3割)

手術：ストリッピング術約470例

高位結紮術約130例

硬化療法：約300例(多くは手術と併用)

榮 建 文

松 崎 泰 憲

高 村 一 志

## お知らせ

県医師会から各郡市医師会へ送付しました文書についてご案内いたします。  
詳細につきましては、所属郡市医師会へお問い合わせください。

送付日	文 書 名	備 考
10月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独立行政法人福祉医療機構の貸付利率について</li> <li>・特定医療法人制度の改正及び租税特別措置法施行令第39条の25第1項第1号に規定する厚生労働大臣が財務大臣と協議して定める基準を満たすものである旨の証明書等の様式の制定について(通知)</li> <li>・共済組合証の無効通知について(厚生労働省第二共催組合)</li> <li>・厚生労働省組合員証の無効について</li> </ul>	
10月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症・食中毒情報(1461)</li> </ul>	
10月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮医大医師会の名称変更並びに役員の異動報告書</li> <li>・感染症・食中毒情報(1462)</li> </ul>	
10月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症・食中毒情報(1463)</li> </ul>	
10月24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抗インフルエンザウイルス薬の供給等について</li> <li>・感染症・食中毒情報(1464)</li> </ul>	
10月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インフルエンザポスターについて</li> <li>・今冬のインフルエンザ総合対策の推進について</li> <li>・感染症・食中毒情報(1465)</li> </ul>	
10月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症・食中毒情報(1466)</li> </ul>	
10月29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所得税青色申告決算書付表の様式の全国統一に伴う会員への周知について(依頼)</li> </ul>	
10月30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・厚生功労に係る叙勲及び褒章潜在候補者の調査について(依頼)</li> <li>・「医療安全推進週間」の実施について(通知)</li> <li>・「使用薬剤の薬価(薬価基準)の一部改正に伴う留意事項」等の通知について</li> <li>・「宮崎県糖尿病シンポジウム2003, 糖尿病無料検診」のご案内</li> <li>・平成16年4月診療報酬改定要望事項等(中医協提出)の送付について</li> <li>・感染症・食中毒情報(1467)</li> </ul>	
10月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「文部科学省共済組合員証」の失効について</li> <li>・医療用具の保険適用について</li> </ul>	
11月4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成15年度乳幼児突然死症候群(SIDS)対策強化月間について</li> <li>・「病原微生物検出情報」, 「病原微生物検出情報(普及版)」の送付について</li> </ul>	

送付日	文 書 名	備 考
11月5日	・感染症・食中毒情報( 1468 )	
11月6日	・感染症・食中毒情報( 1469 )	
11月7日	・「宮崎県医師会県民健康セミナー」開催延期について( 通知 ) ・感染症・食中毒情報( 1470 )	
11月11日	・感染症・食中毒情報( 1471 )	
11月13日	・感染症・食中毒情報( 1472 )	
11月14日	・感染症発生動向調査事業実施要綱の一部改正等について ・今冬のSARS対策について ・感染症法に基づく医師から都道府県等への届出のための基準の改正について ・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律及び検疫法の一部を改正する法律等の施行について( 送付 ) ・申請・届出等手続の電子化の実施について ・「使用薬剤の薬価( 薬価基準 )の一部改正にともなう留意事項」等の通知について	

~~~~~

お知らせ

宮崎県医師会館の閉館について

県医師会館(医師会 , 医師国保 , 医師協同組合・エムエムエスシー , 病院厚生年金基金)は年末・年始休業のため , 下記のとおり閉館いたしますのでお知らせします。

記

期 間 平成15年12月29日(月)～平成16年1月3日(土)

緊急連絡先 090-3015-0585
090-1877-8312



今年は冬というのに暖かい日が続きますが、いかがお過ごしでしょうか。SARSとの関連でインフルエンザの予防接種を受ける人が予想以上に多く、嘔吐下痢の流行と合わせてなかなかハードな毎日ではないでしょうか。SARSの予防に直接インフルエンザのワクチンが効果があると思っている患者さんも少なからずいらっしゃるのですが、説明をすると納得して受けてくださるようです。どうかこのまま平穏に年がくれますように、インフルエンザが流行しませんようにと祈る毎日です。

さて今年最後の日州医事が出来上がりましたのでお届けします。今月号もとても興味深い内容です。谷口二郎先生の随想にある永六輔さんによる「いい医者を見つける10か条」はなかなか味わい深い話でした。自分を振り返ってみると全然当てはまらないのがわかりました。こういう話を学生の頃にしっかり聞いていれば、もう少しまともな医者になれていたのかもしれない。グリーンページは平成16年4月診療報酬改定要望についてです。ぜひご一読ください。要望が少しでも通って改定がなされる事を願います。新聞などでは診療報酬5%削減という事ですが本当なのでしょう。診療メモは婦人科における腹腔鏡手術についてです。腹腔鏡手術も適応が広がってきているようですね。私の本は小児科の貴島テル子先生の「燦爛の軌跡」です。いつも素敵なお先生にぴったりの題名ですね。1度は是非読ませて下さい。また宮崎大学附属病院長の江藤胤尚先生からは就任挨拶とヒヤリ・ハットの拡大版としてのインシデントの概略について解説していただきました。巻末には15年の総目次をお付けしております。どうぞお役立て下さい。

今から何かと慌しい季節を迎えますが体に気をつけて臨みましょう。私もクリスマスとお正月を楽しみに頑張ります。
(市来)

\* \* \* \* \*

今年ももうすぐ年末になるうとしているが、日中は暖かい日が多く、「地球温暖化」という言葉を実感させられる。

最近、医療事故の報道を頻繁に目にするが、今月は宮崎大学医学部の安全管理が書かれており、各医療機関においても様々な対応がなされていると思うが、参考になると思う。今後、このような事故やミス無くし、医療の信頼を取り戻したいと思う。(池井)

先日、アメリカの学会に出席した際、予定を一日早くきりあげて、帰り道ハワイで一泊してきました。ワイキキの海岸通には世界の有名ブランドショップが軒を並べ、そこに群がる日本人(私もその一人)を見てみると、あたかも東京の銀座にいるような気がして、情緒もなにもあったものではありませんでした。ホテルの周囲は明け方まで騒がしく、疲れて帰ってきました。(佐々木)

\* \* \* \* \*

東京国際女子マラソンでの高橋選手のまさかの失速。我々市民ランナーが必ずぶつかる、30キロあるいは35キロの壁。どうしようもない疲労感と全く動かない足。大抵の人は、ここから歩いてしまうかリタイアします。精神力で何とかなるものではありません。ガス欠状態になっても走りきってしまう高橋選手に、一流選手の凄さを感じました。

もうすぐ青島太平洋マラソンです。楽しみましょう。祈、完走！
(井上)

\* \* \* \* \*

先日、Sonny Rollinsのジャズライブに行きました。Rollinsは、1956年録音の名盤「Saxophone Colossus」で知られるテナーサックス奏者で、「日本ツアーでは是非、宮崎を入れてほしい」と言うくらい当地をひいきにしています。今年73歳ですが圧倒的なパワーとテクニックは健在で、ソロでも10分以上に渡ってエネルギーに吹きまくり聴衆を魅了しました。最後の曲「St. Thomas」で盛り上がりは最高潮に達し、スタンディングオベーションで幕を閉じました。今だに興奮は冷めやらず、その余韻に浸っています。

(川名)

\* \* \* \* \*

診療メモを読むと婦人科腹腔鏡手術が完全に定着しているのがわかります。宮崎県最初の腹腔鏡下胆嚢摘出術が行われたのは平成3年2月で、保険適用ではありませんでした。その時の手術に関与した思い出がよみがえりました。

話は飛びますが、10月中旬、講演目的で10年ぶりに長崎へ行ってきました。長崎湾を取り囲む市街地を稲佐山から見下ろすと、平地の少ないことが良くわかります。それに比べて帰りの上空から見ると宮崎平野の広さには改めて感激しました。恵まれた環境で生活できることを有り難く思いました。(三原)

\* \* \* \* \*

国連人口基金は、今年の白書で思春期(全世界で12億人)にエイズを含めた性感染症が蔓延し、又、性的搾取の対象になっていると報告しています。日本でもエイズやクラミジアなどの性感染症が若者の間で急増し、10代の女性の妊娠中絶率も10年前の2倍に増加しました。性教育の貧困は若者の健康と人権をむしばみ、ひいては社会的経済的に大きな損失をもたらします。性教育の必要性がここにあります。

(加藤)

平成15年 総目次 (641 ~ 652)

【表 紙】

| | | | | |
|------------------------|------|-----|-----|------|
| 朝の海 | 高千穂町 | 田 崎 | 力 | 1月号 |
| 長浜満月 | 延岡市 | 長 沼 | 弘三郎 | 2月号 |
| 山笑ふ | 高千穂町 | 田 崎 | 力 | 3月号 |
| 人物 | 日南市 | 外 山 | 節 子 | 4月号 |
| はずむ心 | 宮崎市 | 竹 尾 | 康 男 | 5月号 |
| 一隅 | えびの市 | 志戸本 | 宗 徳 | 6月号 |
| 睡蓮 | えびの市 | 志戸本 | 久美子 | 7月号 |
| ふたりの世界 | 延岡市 | 林 田 | 小枝子 | 8月号 |
| my garden | 延岡市 | 長 沼 | 恭 子 | 9月号 |
| 柿・りんご(おしくらまんじゆ みんな仲良し) | 宮崎市 | 中 島 | 知 徳 | 10月号 |
| 白樺 | 小林市 | 岩 橋 | 幸 | 11月号 |
| えびの雪景 | 新富町 | 丸 田 | 英 夫 | 12月号 |
| 【会長のページ】 | 会 長 | 秦 | 喜八郎 | |

| | | | | |
|-----------------------|--|--|--|------|
| 新年を迎えるにあたって | | | | 1月号 |
| 過ちては則ち改むるに憚ること勿れ | | | | 2月号 |
| 昔陸軍? | | | | 3月号 |
| 2003.3.20 | | | | 4月号 |
| 危機感 | | | | 5月号 |
| SARS と AIDS | | | | 6月号 |
| 政局を恐れてはいけない | | | | 7月号 |
| 今でなければ いつ | | | | 8月号 |
| 信頼の回復を 出来ることから | | | | 9月号 |
| 平成16年度診療報酬改定に向けて(その1) | | | | 10月号 |
| 武見太郎会長の再来 | | | | 11月号 |
| 平成16年度診療報酬改定に向けて(その2) | | | | 12月号 |

【日州医談】

| | | | | |
|----------------------------|-------|-----|-----|------|
| 地域リハビリテーション - その後の展開 - | 常任理事 | 夏 田 | 康 則 | 2月号 |
| 医療関係者対策委員会について | 常任理事 | 早稲田 | 芳 男 | 2月号 |
| みやざき はしかゼロ作戦 | 理 事 | 浜 田 | 恵 亮 | 2月号 |
| 倫理観を活性化できるか | 理 事 | 高 崎 | 眞 弓 | 3月号 |
| 在宅緩和ケアへの医師の義務 | 理 事 | 小 玉 | 徳 信 | 4月号 |
| 病院沈没? | 理 事 | 小 牧 | 一 磨 | 5月号 |
| 宮崎県保健医療計画の改訂 | 常任理事 | 夏 田 | 康 則 | 5月号 |
| ORCA プロジェクト | 常任理事 | 富 田 | 雄 二 | 5月号 |
| 感染症危機管理対策について | 理 事 | 吉 田 | 建 世 | 6月号 |
| 平成15年度宮崎県福祉保健部一般会計予算 | 常任理事 | 夏 田 | 康 則 | 6月号 |
| VDT 作業における労働衛生管理 | 理 事 | 池 井 | 義 彦 | 7月号 |
| 地域福祉権利擁護事業 | 副 会 長 | 大 坪 | 睦 郎 | 8月号 |
| 最近の医師福祉対策事業 | 理 事 | 和 田 | 徹 也 | 9月号 |
| 医療安全対策 - ファイナンシャル・コントロール - | 常任理事 | 西 村 | 篤 乃 | 10月号 |
| 医療における消費税課税について | 常任理事 | 稲 倉 | 正 孝 | 11月号 |
| 保険者の再編・統合問題, 7割給付問題について | 理 事 | 高 橋 | 政 見 | 12月号 |

【県医代議員から】

| | | | |
|------------------|------------|---------|-----|
| 医療は平等 | 宮崎市郡医師会 | 王 丸 鴻 一 | 2月号 |
| ひとつこと | 宮崎市郡医師会 | 中 山 健 | 2月号 |
| 小児の福祉・医療に思う | 宮崎市郡医師会 | 佐 藤 雄 一 | 2月号 |
| DRG, DPC | 宮崎市郡医師会 | 市 来 齊 | 2月号 |
| 意見のための意見 | 宮崎市郡医師会 | 増 田 好 治 | 3月号 |
| 正確な医療情報の発信を求む | 宮崎市郡医師会 | 金 丸 禮 三 | 3月号 |
| 診療報酬審査考 | 宮崎市郡医師会 | 楠 原 敏 幸 | 3月号 |
| 会員の医療訴訟は医師会の危機管理 | 宮崎市郡医師会 | 八 尋 克 三 | 4月号 |
| 労災医療費と自賠責医療費 | 宮崎市郡医師会 | 永 吉 洋 次 | 4月号 |
| 謙虚ということ | 宮崎市郡医師会 | 川 島 謙一郎 | 4月号 |
| 地域医療崩壊の危機 | 都城市北諸県郡医師会 | 瀬ノ口 頼 久 | 4月号 |
| 一般市民の言葉で話す企画 | 都城市北諸県郡医師会 | 井 上 博 水 | 5月号 |
| 県立延岡病院麻酔医問題 | 延岡市医師会 | 平 田 実 | 5月号 |
| 医療費の改定に当って感じた事 | 延岡市医師会 | 赤 須 正 道 | 5月号 |
| 地域医療 | 延岡市医師会 | 佐 藤 靖 美 | 6月号 |
| 今日の医療情勢について | 南那珂医師会 | 山 元 敏 嗣 | 6月号 |
| 大学医局も冬の時代 | 宮崎医科大学医師会 | 脇 坂 信一郎 | 6月号 |

【挨拶】

| | | | |
|-------------------|---------|-----------|-----|
| 年頭所感 | 日本医師会長 | 坪 井 栄 孝 | 1月号 |
| 年頭所感 | 顧問 | 竹 内 三 郎 | 1月号 |
| 年頭所感 | 各都市医師会長 | | 1月号 |
| 年頭のご挨拶 衆議院議員(1区) | | 中 山 成 彬 | 1月号 |
| 年頭のご挨拶 衆議院議員(2区) | | 江 藤 隆 美 | 1月号 |
| 年頭のご挨拶 衆議院議員(3区) | | 持 永 和 見 | 1月号 |
| 年頭のご挨拶 衆議院議員(比例区) | | 大 原 一 三 | 1月号 |
| 年頭のご挨拶 衆議院議員(比例区) | | 堀之内 久 男 | 1月号 |
| 年頭のご挨拶 参議院議員 | | 上 杉 光 弘 | 1月号 |
| 年頭のご挨拶 参議院議員 | | 小 齊 平 敏 文 | 1月号 |

【就任挨拶】

| | | | |
|--------------|--|---------|------|
| 宮崎大学長 | | 住 吉 昭 信 | 11月号 |
| 宮崎大学医学部附属病院長 | | 江 藤 胤 尚 | 12月号 |

【宮崎医科大学教授退任挨拶】

| | | | |
|-----------|--|---------|-----|
| 整形外科講座教授 | | 田 島 直 也 | 5月号 |
| 解剖学第一講座教授 | | 年 森 清 隆 | 6月号 |

【宮崎医科大学教授新任挨拶】

| | | | |
|----------|--|-------|-----|
| 精神医学講座教授 | | 石 田 康 | 4月号 |
|----------|--|-------|-----|

【論壇・論説】

| | | | |
|------------------|-----|---------|-----|
| 世間に訴えた, 同業にも訴えたい | 宮崎市 | 末 次 信 政 | 5月号 |
| 後遺障害診断のポイント | 宮崎市 | 尾 田 博 | 6月号 |

【随想・随筆・寄稿】

| | | | |
|------------------|------|---------|-----|
| 温泉とは出湯(イデユ)なり | 宮崎市 | 佐 藤 衛 | 3月号 |
| 表情 | 宮崎市 | 谷 口 二 郎 | 3月号 |
| オランダで考えたこと | 宮崎市 | 渡 邊 克 司 | 4月号 |
| 差別なき医療 | 都城市 | 柳 田 琢 也 | 4月号 |
| 珍名奇名 あれこれ | 高千穂町 | 田 上 恒 雄 | 5月号 |
| 「養生訓」と老年の生き方について | 宮崎市 | 友 成 久 雄 | 5月号 |

| | | | | |
|--------------------|-----|-------|-----|------|
| 冬山登山でのこと | 宮崎市 | 弓 削 | 達 雄 | 6月号 |
| 笑ってはいけません | 宮崎市 | 早稲田 芳 | 男 | 6月号 |
| 「日州医事小史」と「日州」について | 宮崎市 | 田 代 | 学 | 7月号 |
| 「嘉南大圳の父」と「蓬莱米の父と母」 | 宮崎市 | 森 山 | 正 武 | 10月号 |
| もうあと5cm患者へ近づく近代医療 | 延岡市 | 無 敵 | 剛 介 | 10月号 |
| 派閥について考える | 宮崎市 | 渡 邊 | 克 司 | 10月号 |
| 花作りとその効用 | 宮崎市 | 友 成 | 久 雄 | 11月号 |
| 枇杷とピンタ | 宮崎市 | 貴 島 | テル子 | 11月号 |
| 患者が好きで好きでたまらない医者 | 宮崎市 | 谷 口 | 二 郎 | 12月号 |
| 人権の無い、日本の神 | 日向市 | 富 山 | 明 宜 | 12月号 |

【旅行記】

太平洋上アメリカ原子力空母「アブラハム リンカーン号」泊招待体験報告

| | | | | |
|--------|-------|-----|-----|-----|
| | 都 城 市 | 松 浦 | 俊 介 | 3月号 |
| 老老介護旅行 | 宮崎市 | 貴 島 | テル子 | 6月号 |

【新春随想・俳壇・歌壇】

| | | | | |
|------------------|-------|-----|-----|-----|
| ちょっといいはなし | 宮崎市 | 川 越 | 修 | 1月号 |
| 今や2年で一昔? | 宮崎市 | 石 川 | 正 | 1月号 |
| インフォームドコンセント | 小林市 | 上 田 | 集 久 | 1月号 |
| 宮崎の四季に親しむ | 宮崎市 | 神 戸 | 十四郎 | 1月号 |
| タイミング | 都 城 市 | 瀬ノ口 | 洋 史 | 1月号 |
| どこに居ても電話連絡 | 宮崎市 | 谷 口 | 二 郎 | 1月号 |
| 方言の乱 | えびの市 | 森 藤 | 秀 美 | 1月号 |
| それ相当の歳になりました | 延岡市 | 江 崎 | 隆 | 1月号 |
| 男声合唱とともに | 宮崎市 | 立 山 | 浩 道 | 1月号 |
| 釣りからゴルフへ復帰・再挑戦 | 日向市 | 大久保 | 史 明 | 1月号 |
| 結核にみる昭和一桁生れの人々 | 宮崎市 | 壹 岐 | 尚 生 | 1月号 |
| 存在の意義 | 宮崎市 | 岩 切 | 清 文 | 1月号 |
| 完走後のビールは最高!! | 宮崎市 | 木佐貫 | 博 人 | 1月号 |
| 名も無く、目立たず、ひっそりと | 南郷町 | 猿 渡 | 義 彰 | 1月号 |
| 気ままなウォーキング | 宮崎市 | 永 山 | 武 章 | 1月号 |
| 新年を迎えて | 宮崎市 | 渡 邊 | 克 司 | 1月号 |
| バスケットと医学教育 | 清武町 | 蓮 井 | 良 浩 | 2月号 |
| 牛に引かれて善光寺詣り | 延岡市 | 岸 田 | 克 明 | 2月号 |
| どっちが強い | 小林市 | 柊 山 | 緑 | 2月号 |
| 夢の植林 | 都 城 市 | 瀬ノ口 | 敬 介 | 2月号 |
| 聖路加清里診療所の思い出 | 宮崎市 | 森 山 | 正 武 | 2月号 |
| 喜寿とはたまげた | 宮崎市 | 福 富 | ア ツ | 2月号 |
| 次の12年後には... | 宮崎市 | 大 藤 | 雪 路 | 2月号 |
| 暦りて生きる | 延岡市 | 長 沼 | 弘三郎 | 2月号 |
| 日日新たに | 門川町 | 篠 原 | 綾 美 | 2月号 |
| 宮崎の旭日と月光 | 清武町 | 松 崎 | 泰 憲 | 2月号 |
| 老いてこそ人生? | 延岡市 | 平 野 | 雅 弘 | 2月号 |
| “世界に番を張る外科医”に会って | 宮崎市 | 上 田 | 祐 滋 | 2月号 |
| おこのみやき | 高鍋町 | 米 澤 | 勤 | 2月号 |
| 夢の話 | 宮崎市 | 近 藤 | 方 彰 | 2月号 |
| シカゴの戦慄と安堵 | 清武町 | 今 村 | 卓 郎 | 2月号 |
| 日中医学大会2002 | 都 城 市 | 田 中 | 彰 人 | 2月号 |

| | | | |
|--------------------|------|-------|-----|
| 家づくり | 西都市 | 富田雄二 | 2月号 |
| 新年に当って想うこと | 山之口町 | 志々目 亨 | 2月号 |
| 【はまゆう随筆・俳句・短歌】 | | | |
| 爪切り | 宮崎市 | 谷口二郎 | 7月号 |
| 二つの置き土産 | 宮崎市 | 貴島テル子 | 7月号 |
| 叙勲を受けて | 日向市 | 鮫島哲也 | 7月号 |
| 電子カルテ導入 | 宮崎市 | 河野寛一 | 7月号 |
| 2枚の古い委嘱状 | 延岡市 | 萩原武雄 | 7月号 |
| 木炭自動車 | 延岡市 | 岸田克明 | 7月号 |
| 遊行 | 宮崎市 | 新宮世三 | 7月号 |
| 「我，短歌を詠み始めぬ」の記 | 宮崎市 | 長嶺元久 | 7月号 |
| 亜鉛 | 宮崎市 | 中山健 | 7月号 |
| 喜寿雑感 | 新富町 | 高岡日吉 | 7月号 |
| 医療と宗教 | 宮崎市 | 渡邊克司 | 7月号 |
| 駐車場ガーデニング | 宮崎市 | 小川次男 | 7月号 |
| 死線を越えて | 都城市 | 柳田琢也 | 8月号 |
| 黙禱(短歌) | 延岡市 | 藤本孝一 | 8月号 |
| イラク戦争と大学改革 | 清武町 | 田村正三 | 8月号 |
| 原田，日高両先生と宮崎市郡医師会病院 | 宮崎市 | 河野通 | 8月号 |
| 帯患帰郷 | 高千穂町 | 土持隆彦 | 8月号 |
| 急性心筋炎 | 宮崎市 | 森満保 | 8月号 |
| 戦時下の民衆 | 宮崎市 | 村田比 | 8月号 |
| 煙草の無い生活 | 宮崎市 | 近藤方彰 | 8月号 |
| 八千代座 | 宮崎市 | 日高正昭 | 8月号 |
| 私の季節感 | 宮崎市 | 影山均 | 8月号 |
| 晴天乱流(エアータービランス) | 都城市 | 飛松憲夫 | 8月号 |
| 旅とネット通信 | 清武町 | 江藤胤尚 | 8月号 |
| 義弟の旅だち | 宮崎市 | 新城歌子 | 8月号 |
| 再び花を | 木城町 | 吉田隆 | 8月号 |
| ゴルフの思い出 | 三股町 | 山下博 | 8月号 |
| デフレは2度目の経験 | 南郷町 | 東茂光 | 9月号 |
| くすり | 宮崎市 | 大野政一 | 9月号 |
| 植物の発芽と生命力 | 宮崎市 | 友成久雄 | 9月号 |
| 今際のきわ | 宮崎市 | 早稲田芳男 | 9月号 |
| 眩き | 宮崎市 | 永山武章 | 9月号 |
| 日本にくらべるとアメリカでは | 日南市 | 柴田紘一郎 | 9月号 |
| 初体験 | 都城市 | 横山陽二 | 9月号 |
| インフルエンザと喜寿 | 宮崎市 | 木佐貫靖夫 | 9月号 |
| 吾が心の中の少年 | 日南市 | 山見文雄 | 9月号 |
| P o e m | 延岡市 | 長沼弘三郎 | 9月号 |
| ヴァージニアビーチで第九を | 宮崎市 | 立山浩道 | 9月号 |
| 【エコー・リレー】 | | | |
| プライマリ・ケアニュース | 宮崎市 | 早稲田芳男 | 1月号 |
| 李伽 | 都城市 | 貴島俊英 | 1月号 |
| 山魚女 | 延岡市 | 赤須巖 | 2月号 |
| 肉天(にくてん)なるもの | 宮崎市 | 作良彦 | 2月号 |
| 不易流行考 | 宮崎市 | 増田好治 | 3月号 |

| | | | |
|---------------------------|-----|-----------|------|
| 医者いらず | 日南市 | 谷口 浩 | 3月号 |
| お倉ヶ浜 | 日向市 | 甲斐 文 明 | 4月号 |
| 大師祭 | 延岡市 | 吉田 建 世 | 4月号 |
| 自転車 | 都城市 | 平田 宗 勝 | 5月号 |
| エコー | 清武町 | 鮫 島 浩 | 5月号 |
| 私とワープロ | 宮崎市 | 小島 青 志 | 6月号 |
| 三種の神器 | 延岡市 | 寺尾 公 成 | 6月号 |
| うさぎと暮らす! | 高原町 | 莫 根 隆 一 | 7月号 |
| 不安の力 | 日南市 | 春 山 康 久 | 7月号 |
| いつのまにか50歳 | 宮崎市 | 原 口 靖 昭 | 8月号 |
| マイク | 延岡市 | 井 上 博 | 8月号 |
| 二人の友人と私 | 串間市 | 中 島 昌 文 | 9月号 |
| 有田へ | 国富町 | 日 高 令 一 郎 | 9月号 |
| 大学生の頃 | 宮崎市 | 神 戸 光 | 10月号 |
| 光とレーザーにまみれて | 宮崎市 | 中 野 俊 二 | 10月号 |
| M君の復帰 | 宮崎市 | 河 野 謙 治 | 11月号 |
| 搔く効用 | 日向市 | 堀之内 和 代 | 11月号 |
| テニスと私...暑さとの戦い | 宮崎市 | 宮 永 省 三 | 12月号 |
| 開業3年目, 43歳 | 都城市 | 北 村 豪 | 12月号 |
| 【叙位・叙勲】 | | | |
| 勲四等瑞宝章(保健衛生功労) | 延岡市 | 吉 田 精 孝 | 6月号 |
| 勲四等瑞宝章(保健衛生功労) | 日向市 | 鮫 島 徹 也 | 6月号 |
| 勲五等瑞宝章(学校保健功労) | 新富町 | 高 岡 日 吉 | 6月号 |
| 旭日双光章(保健衛生功労) | 都城市 | 姉 川 朔 実 | 12月号 |
| 瑞宝小綬章(保健衛生功労) | 西都市 | 谷 口 裕 | 12月号 |
| 従六位・勲五等瑞宝生章(保健衛生功労) | 都城市 | 野 邊 堅 太 郎 | 12月号 |
| 【表彰・祝賀】 | | | |
| 公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰 | 国富町 | 森 下 博 夫 | 1月号 |
| 学校保健及び学校安全功労者県教育長表彰 | 宮崎市 | 菊 池 清 文 | 9月号 |
| 学校保健及び学校安全功労者県教育長表彰 | 都城市 | 柳 田 琢 也 | 9月号 |
| 学校保健及び学校安全功労者県教育長表彰 | 都城市 | 吉 山 政 敏 | 9月号 |
| 学校保健及び学校安全功労者県教育長表彰 | 都城市 | 濱 田 義 次 | 9月号 |
| 学校保健及び学校安全功労者県教育長表彰 | 延岡市 | 平 野 宏 隆 | 9月号 |
| 学校保健及び学校安全功労者県教育長表彰 | 延岡市 | 江 崎 隆 | 9月号 |
| 学校保健及び学校安全功労者県教育長表彰 | 延岡市 | 甲 斐 允 雄 | 9月号 |
| 学校保健及び学校安全功労者県教育長表彰 | 日向市 | 浦 上 裕 | 9月号 |
| 学校保健及び学校安全功労者県教育長表彰 | 日南市 | 藤 浦 芳 郎 | 9月号 |
| 救急医療功労者厚生労働大臣表彰 | 延岡市 | 又 木 平 八 郎 | 10月号 |
| 救急医療事業功労者県知事表彰 | 延岡市 | 松 崎 武 壽 | 10月号 |
| 救急医療事業功労者県知事表彰 | 日向市 | 和 田 徹 也 | 10月号 |
| 救急医療事業功労者県知事表彰 | 西都市 | 大 塚 直 純 | 10月号 |
| 百歳祝賀 | 都城市 | 相 良 勝 造 | 10月号 |
| 労災診療指導委員の功労者厚生労働大臣表彰 | 延岡市 | 佐 井 勇 二 郎 | 12月号 |
| 学校保健及び学校安全功労者文部科学大臣表彰 | 延岡市 | 佐 井 勇 二 郎 | 12月号 |
| 社会保険診療報酬支払基金関係功績者厚生労働大臣表彰 | 宮崎市 | 千 阪 治 夫 | 12月号 |
| 精神保健福祉事業功労者厚生労働大臣表彰 | 延岡市 | 夏 吉 新 平 | 12月号 |
| 母子保健家族計画功労者厚生労働大臣表彰 | 都城市 | 塚 田 嘉 也 | 12月号 |

| | | | |
|--|-------|-----------|------|
| 社会福祉功労者厚生労働大臣表彰 | 小 林 市 | 落 合 紀 夫 | 12月号 |
| 公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰 | 宮 崎 市 | 倉 岡 誠 三 | 12月号 |
| 公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰 | 西 都 市 | 佐 藤 重 國 | 12月号 |
| 公衆衛生事業功労者財団法人日本公衆衛生協会会長表彰 | 都 城 市 | 濱 田 義 次 | 12月号 |
| 公衆衛生事業功労者財団法人日本公衆衛生協会会長表彰 | 門 川 町 | 田 中 浩 夫 | 12月号 |
| 公衆衛生事業功労者財団法人日本公衆衛生協会会長表彰 | 西 都 市 | 中 林 永 一 | 12月号 |
| 精神保健福祉事業功労者県知事表彰 | 都 城 市 | 永 田 利 安 | 12月号 |
| 宮崎県公衆衛生功労者県知事表彰 | 宮 崎 市 | 青 木 宏 | 12月号 |
| 宮崎県公衆衛生功労者県知事表彰 | 都 城 市 | 児 玉 實 志 | 12月号 |
| 宮崎県老人保健推進事業功労者県知事表彰 | 宮 崎 市 | 丸 田 喜 太 | 12月号 |
| 青少年の健全育成に関する功労者県知事表彰 | 延 岡 市 | 杉 本 潜 | 12月号 |
| 宮崎日日新聞賞(科学賞) | 清 武 町 | 三 山 吉 夫 | 12月号 |
| 宮崎日日新聞賞(文化賞) | 宮 崎 市 | 立 山 浩 道 | 12月号 |
| 宮崎県医療功労者県知事表彰 | 宮 崎 市 | 比江嶋 睦 典 | |
| 宮崎県医療功労者県知事表彰 | 都 城 市 | 池之上 邦 彦 | |
| 宮崎県医療功労者県知事表彰 | 日 向 市 | 三ヶ尻 榮 一 | |
| 宮崎県医療功労者県知事表彰 | 宮 崎 市 | 黒 木 和 裕 | |
| 宮崎県医療功労者県知事表彰 | 西 都 市 | 上 山 征 史 郎 | |
| 宮崎県医療功労者県知事表彰 | 日 南 市 | 松 田 弘 彦 | |
| 【グリーンページ】 | 副 会 長 | 志 多 武 彦 | |
| 公正取引委員会研究会報告書 | | | 1月号 |
| 医療保険制度の体系の在り方・診療報酬体系の見直しについて | | | 2月号 |
| 総合規制改革会議第2次答申案 | | | 3月号 |
| 被用者保険 3割自己負担 | | | 4月号 |
| 構造改革特区(医療特区)と医療への株式会社参入 | | | 5月号 |
| 医療保険制度体系及び診療報酬体系に関する基本方針 | | | 6月号 |
| 診療報酬に関する保険医療機関と保険者との直接契約(割引契約)について | | | 7月号 |
| 経済財政運営と構造改革に関する基本方針2003 | | | 8月号 |
| 04年度予算概算要求基準(シーリング)と診療報酬改定 | | | 9月号 |
| 総合規制改革会議「規制改革推進のためのアクションプラン・12の重点検討事項」
答申とこれに対する厚労省の考え方 | | | 10月号 |
| 小泉再改造内閣発足と厚労省人事 | | | 11月号 |
| 平成16年4月診療報酬改定要望(診療側)について | | | 12月号 |
| 【各郡市医師会だより(メイン)】 | | | |
| 宮崎市郡医師会 | | 菊 池 郁 夫 | 2月号 |
| 都城市北諸県郡医師会 | | 石 井 芳 満 | 3月号 |
| 延岡市医師会 | | 井 上 博 | 4月号 |
| 日向市東臼杵郡医師会 | | 甲 斐 文 明 | 5月号 |
| 児湯医師会 | | 北 村 洋 | 6月号 |
| 西都市・西児湯医師会 | | 相 澤 潔 | 7月号 |
| 南那珂医師会 | | 山 元 敏 嗣 | 8月号 |
| 西諸医師会 | | 丹 光 明 | 9月号 |
| 宮崎市郡医師会 | | 福 元 廣 次 | 11月号 |
| 都城市北諸県郡医師会 | | 石 井 芳 満 | 12月号 |
| 【国公立病院だより】 | | | |
| 国民健康保険村立西米良病院 | 院 長 | 松 田 俊 太 郎 | 5月号 |
| 東郷町国民健康保険病院 | 院 長 | 崎 濱 正 人 | 7月号 |

| | | | |
|-----------------|-------|---------|------|
| 三股町国民健康保険病院 | 院 長 | 中 村 茂 | 9 月号 |
| 国立療養所宮崎東病院 | 副 院 長 | 比 嘉 利 信 | 11月号 |
| 【宮崎医科大学だより】 | | | |
| 歯科口腔外科学講座 | 講 師 | 鹿 嶋 光 司 | 2 月号 |
| 内科学第一講座 | 医 局 長 | 松 尾 剛 志 | 3 月号 |
| 生理学第一講座 | 助 教 授 | 花 森 隆 充 | 4 月号 |
| 外科学第一講座 | 医 局 長 | 甲 斐 真 弘 | 5 月号 |
| 内科学第二講座 | 医 局 長 | 村 井 幸 一 | 6 月号 |
| 病理学第二講座 | 助 手 | 瀬 口 智 子 | 7 月号 |
| 救急医学講座/救急部 | 助 教 授 | 岡 本 健 | 8 月号 |
| 麻酔学講座 | 教 授 | 高 崎 眞 弓 | 9 月号 |
| 外科学第二講座 | 医 局 長 | 枝 川 正 雄 | 10月号 |
| 【宮崎大学医学部だより】 | | | |
| 眼科学講座 | 医 局 長 | 森 山 重 人 | 11月号 |
| 附属図書館医学分館 | 医学分館長 | 系 永 一 憲 | 12月号 |
| 【専門分科医会だより】 | | | |
| 整形外科医会 | 医 会 長 | 松 田 弘 彦 | 2 月号 |
| 眼科医会 | 理 事 | 柊 山 剩 夫 | 4 月号 |
| 小児科医会 | 医 会 長 | 千 阪 治 夫 | 8 月号 |
| 精神科医会 | 医 会 長 | 後 藤 勇 | 10月号 |
| 【報告(各種委員会)】 | | | |
| 公衆衛生エイズ等対策委員会 | | | 1 月号 |
| 医師確保対策委員会 | | | 1 月号 |
| 健康教育委員会 | | | 1 月号 |
| 医療保険委員会 | | | 1 月号 |
| 会員の倫理向上委員会 | | | 2 月号 |
| 医療安全対策委員会 | | | 2 月号 |
| 公衆衛生エイズ等対策委員会 | | | 5 月号 |
| 医学会誌編集委員会 | | | 5 月号 |
| 健康スポーツ医学委員会 | | | 5 月号 |
| 会館建設検討委員会 | | | 5 月号 |
| 介護保険委員会 | | | 5 月号 |
| 救急医療委員会 | | | 6 月号 |
| 会員の倫理向上委員会 | | | 7 月号 |
| 健康教育委員会 | | | 7 月号 |
| 医学賞選考委員会 | | | 7 月号 |
| 健康スポーツ医学委員会 | | | 7 月号 |
| 公衆衛生エイズ等対策委員会 | | | 8 月号 |
| 会員の倫理向上委員会 | | | 9 月号 |
| 救急医療委員会 | | | 9 月号 |
| 介護保険委員会 | | | 10月号 |
| 医療保険委員会 | | | 11月号 |
| 情報システム委員会 | | | 11月号 |
| 医学会誌編集委員会 | | | 12月号 |
| 【駒込だより】 | | | |
| 医療情報ネットワーク推進委員会 | 常任理事 | 富 田 雄 二 | 1 月号 |
| 医師年金委員会 | 常任理事 | 河 野 雅 行 | 3 月号 |

| | | | |
|----------------------------------|------|-------|------|
| 医療情報ネットワーク推進委員会 | 常任理事 | 富田雄二 | 4月号 |
| 医療情報ネットワーク推進委員会 | 常任理事 | 富田雄二 | 7月号 |
| 医師年金委員会 | 常任理事 | 河野雅行 | 7月号 |
| 医療情報ネットワーク推進委員会 | 常任理事 | 富田雄二 | 8月号 |
| 医師年金委員会 | 常任理事 | 河野雅行 | 10月号 |
| 社会保険・老人保健診療報酬改定要望事項 | 会長 | 秦喜八郎 | 12月号 |
| 【報告(諸会議)】 | | | |
| 県福祉保健部と県医師会との懇談会 | | | 1月号 |
| 九医連第251回常任委員会 | | | 1月号 |
| 九医連第84回臨時委員総会 | | | 1月号 |
| 九医連委員・九州各県医師会役員合同協議会 | | | 1月号 |
| 第102回九州医師会総会・医学会 | | | 1月号 |
| 都道府県医師会診療情報担当理事連絡協議会 | | | 1月号 |
| 各都市医師会長協議会 | | | 3月号 |
| 九医連第252回常任委員会 | | | 3月号 |
| 九医連平成14年度第2回各種協議会 | | | 3月号 |
| 日医役員と九医連との意見交換会 | | | 3月号 |
| 都道府県医師会情報システム担当理事連絡協議会 | 常任理事 | 富田雄二 | 3月号 |
| 九医連第253回常任委員会 | | | 4月号 |
| 都道府県医師会生涯教育担当理事連絡協議会 | | | 4月号 |
| 都道府県医師会介護保険担当理事連絡協議会 | | | 4月号 |
| 日医感染症危機管理対策協議会 | 理事 | 吉田建世 | 4月号 |
| 全国医療情報システム連絡協議会 第19回定例会議 | 理事 | 吉田建世 | 4月号 |
| 新医師臨床研修制度協議会 | | | 5月号 |
| 各都市医師会役員連絡協議会 | | | 5月号 |
| 県国保医療問題懇話会 | 常任理事 | 富田雄二 | 5月号 |
| 予防接種体制に関する意見交換会 | | | 5月号 |
| 宮崎県保健医療計画改訂に係る基準病床についての情報交換会 | | | 5月号 |
| 第132回宮崎県医師会定例代議員会 | | | 5月号 |
| 九州ブロック日医代議員連絡会議 | | | 5月号 |
| 都道府県医師会医療特区対策担当理事連絡協議会 | | | 5月号 |
| 県福祉保健部と県医師会との懇談会 | | | 7月号 |
| 各都市医師会長協議会 | | | 7月号 |
| 成人病検診各部会長連絡協議会 | | | 7月号 |
| 宮崎県医師会互助会定時評議員会 | | | 7月号 |
| 平成15年度九医連重症急性呼吸器症候群(SARS)緊急対策協議会 | 理事 | 吉田建世 | 7月号 |
| 九医連第255回常任委員会 | | | 7月号 |
| 九医連第85回定例委員総会 | | | 7月号 |
| 都道府県医師会救急災害医療担当理事連絡協議会 | 常任理事 | 早稲田芳男 | 7月号 |
| 日医感染症(SARS)危機管理対策協議会 | 理事 | 吉田建世 | 7月号 |
| 第133回宮崎県医師会定例代議員会 | | | 8月号 |
| 県医定例総会, 特別講演, 互助会総会, 医連大会 | | | 8月号 |
| 平成16年度第104回九州医師会医学会第1回準備委員会 | | | 8月号 |
| 医師年金制度普及推進懇談会 | | | 9月号 |
| 平成15年度宮崎県毒物劇物事故対策連絡協議会について | 常任理事 | 早稲田芳男 | 9月号 |

| | | | |
|--------------------------------------|-------------|--------|------|
| 第19回九州ブロック医療情報システム推進協議会 | | | 9月号 |
| 九医連第256回常任委員会 | | | 9月号 |
| 各都市医師会長協議会 | | | 10月号 |
| 第47回九州ブロック学校保健・学校医大会，平成15年度九州学校検診協議会 | | | 10月号 |
| 九州ブロック医師会広報担当理事連絡協議会 | 常任理事 | 富田 雄二 | 10月号 |
| 九医連第257回常任委員会 | | | 11月号 |
| 九医連平成15年度第1回各種協議会 | | | 11月号 |
| 日医役員と九医連との意見交換会 | | | 11月号 |
| 都道府県医師会卒後臨床研修に関する担当理事連絡協議会 | | | 11月号 |
| 第25回産業保健活動推進全国会議 | | | 11月号 |
| 九医連第258回常任委員会 | | | 12月号 |
| 全国医療情報システム連絡協議会第20回定例会議 | 理事 | 吉田 建世 | 12月号 |
| 全国医師会勤務医部会連絡協議会 | 勤務医部会理事 | 上田 章 | 12月号 |
| 【報告(講演会・研修会・その他)】 | | | |
| 第33回全国学校保健・学校医大会 | 常任理事 | 早稲田 芳男 | 1月号 |
| 自賠責保険研修会 | 宮医大脳神経外科教授 | 脇坂 信一郎 | 3月号 |
| 自賠責保険研修会 | 労災部会自賠委員会委員 | 尾田 博 | 3月号 |
| 平成14年度会計検査院実地検査報告 | 常任理事 | 稲倉 正孝 | 3月号 |
| 「ふれあい健康ネットワーク」テレビ放送 | | | 5月号 |
| 平成14年度新規個別指導及び個別指導の結果について | | | 5月号 |
| みやざきナース Today2003 | | | 7月号 |
| 第14回新研修医保険診療説明会並びに祝賀会 | | | 8月号 |
| 県ドクターズテニス春の大会 | | 近間 悟 | 8月号 |
| 平成14年度地域診療情報連携推進事業発表会 | 常任理事 | 富田 雄二 | 8月号 |
| 平成15年度宮崎県医師会定例総会中央情勢報告 | 日医常任理事 | 柳田 喜美子 | 9月号 |
| 第4回宮崎県医師会医家芸術展 | 代表世話人 | 大坪 睦郎 | 9月号 |
| 平成15年度宮崎県医学会 | | | 10月号 |
| 宮崎県医師会親善ゴルフ大会 | | | 10月号 |
| 県ドクターズテニス秋の大会 | | 近間 悟 | 12月号 |
| 【ヒヤリ・ハット!】 | | | |
| 医療安全対策委員会 | | 高崎 眞弓 | 4月号 |
| | | 元村 祐三 | 5月号 |
| | | 金丸 禮三 | 6月号 |
| | | 石井 芳満 | 7月号 |
| | | 牧野 剛緒 | 8月号 |
| | | 蟻塚 高生 | 9月号 |
| | | 中島 昌文 | 10月号 |
| | | 岩見 晶臣 | 11月号 |
| | | 江藤 胤尚 | 12月号 |
| 【薬事情報センターだより】 | | | |
| (189)DEM とプレアボイド | | | 1月号 |
| (190)今年の課題 | | | 2月号 |
| (191)医薬品に関する情報 | | | 3月号 |
| (192)医薬品販売規制緩和の動向 | | | 4月号 |
| (193)アミノ酸 | | | 5月号 |
| (194)糖の話題あれこれ | | | 6月号 |
| (195)薬局機能評価検討事業について | | | 7月号 |

| | | | |
|--------------------------------------|--------------|------|------|
| (196)薬剤性光線過敏症 | | | 8月号 |
| (197)薬物と蛋白結合 | | | 9月号 |
| (198)医薬品規制緩和とドン・キホーテ問題 | | | 10月号 |
| (199)薬事法上の定義 | | | 11月号 |
| (200)あらためて調剤とは | | | 12月号 |
| 【医師国保組合だより】 | | | |
| 被保険者証の更新について | | | 3月号 |
| 給付割合変更について(8割) | | | 4月号 |
| 第88回通常組合会議事録 | | | 5月号 |
| 組合員及び配偶者の健康診断について | | | 6月号 |
| 第89回通常組合会議事録 | | | 9月号 |
| 歩こう会のご案内 | | | 11月号 |
| 健康保険被保険者証について | | | 11月号 |
| 【医師協同組合だより】 | | | |
| 医療法人(一人)設立相談,譲渡並びに賃貸希望 | | | 1月号 |
| 医療金融セミナー開催のご案内 | | | 3月号 |
| 開業医承継相談窓口について,医療法人(一人)設立相談,譲渡並びに賃貸希望 | | | 4月号 |
| 医療法人設立認可等に係る医療審議会の開催時期等について | | | 5月号 |
| 売却・賃貸希望 | | | 5月号 |
| 団体傷害保険のご案内 | | | 10月号 |
| 売却・賃貸希望 | | | 11月号 |
| 【追悼のことば】 | | | |
| 江藤英延先生(児湯医師会) | | | 1月号 |
| 海老原為明先生(宮崎市郡医師会) | | | 1月号 |
| 日高律郎先生(宮崎市郡医師会) | | | 1月号 |
| 田中則光先生(日向市東臼杵郡医師会) | | | 6月号 |
| 吉村武文先生(延岡市医師会) | | | 6月号 |
| 竹下文夫先生(都城市北諸県郡医師会) | | | 7月号 |
| 土井彰先生(都城市北諸県郡医師会) | | | 9月号 |
| 野邊堅太郎先生(都城市北諸県郡医師会) | | | 9月号 |
| 永嶺陽一先生(宮崎市郡医師会) | | | 11月号 |
| 倉岡誠三先生(宮崎市郡医師会) | | | 12月号 |
| 【ニューメンバー】 | | | |
| 日高博之(ひだかひろゆき) | | | 3月号 |
| 池田典文(いけだのりぶみ) | | | 7月号 |
| 佐藤新五(さとうしんご) | | | 8月号 |
| 中谷圭吾(なかたにけいご) | | | 8月号 |
| 佐藤さくら(さとうさくら) | | | 9月号 |
| 清水正嗣(しみずまさつぐ) | | | 10月号 |
| 野村耕一(のむらこういち) | | | 11月号 |
| 【診療メモ】 | | | |
| 心肺蘇生講習のすすめ | 市民の森病院 | 廣兼民徳 | 1月号 |
| 新しい痔核治療 P.P.H法,半導体レーザー治療 | | | |
| | 宮崎高野会診療所 | 河野通孝 | 2月号 |
| 「あざ」への対応 | 宮医大皮膚科学講座助教授 | 緒方克己 | 3月号 |
| 回復期リハビリテーション病棟 | 宮崎善仁会病院 | 井上和宏 | 4月号 |
| 宮医大附属病院外来診療日,附属図書館の一般利用について | | | 5月号 |

| | | | |
|------------------------------|------------------|------------------|------|
| 緩和ケア | 宮崎市郡医師会病院 | 黒 岩 ゆかり | 6月号 |
| 重症急性呼吸器症候群(SARS)について | 富 田 雄 二, 吉 田 建 世 | | 6月号 |
| 睡眠時無呼吸症候群(SAS)について | 古賀総合病院 | 鶴 田 和 仁 | 7月号 |
| 性器クラミジア感染症 | 宮医大公衆衛生学講座 | 今 井 博 久 | 8月号 |
| 血尿・蛋白尿 | 海老原クリニック | 海老原 和 正 | 9月号 |
| 気管支喘息と吸入ステロイド | 堀川町山下内科呼吸器科医院 | 山 下 優 子, 山 下 秀 一 | 10月号 |
| 薬剤治療抵抗性関節リウマチ患者に対する白血球除去療法 | 市民の森病院 | 日 高 利 彦 | 11月号 |
| 婦人科における腹腔鏡手術 | 宮崎善仁会病院 | 和 田 俊 朗 | 12月号 |
| 【私の本】 | | | |
| オペラ開拓の道を行く 藤原義江 | 延 岡 市 | 佐 井 勇 二 郎 | 1月号 |
| 神はあるか 靈魂は不死か | 宮 崎 市 | 三 井 田 正 道 | 2月号 |
| Gastric Anisakiasis in Japan | 宮 崎 市 | 楠 原 敏 幸 | 3月号 |
| 投稿マニア - 愛と癒しのメッセージ - | 宮 崎 市 | 谷 口 二 郎 | 4月号 |
| 眼科臨床メモ, 眼科検査メモ | 延 岡 市 | 澤 田 惇 | 5月号 |
| 花のコーラス | 小 林 市 | 桑 原 淑 子 | 6月号 |
| 風が魂を運んでくるとき | 木 城 町 | 吉 田 隆 | 7月号 |
| 竹尾康男写真集 視点・心点 | 宮 崎 市 | 竹 尾 康 男 | 8月号 |
| 道 | 宮 崎 市 | 竹 内 三 郎 | 10月号 |
| 燦燦(33年)の軌跡 | 宮 崎 市 | 貴 島 テル子 | 12月号 |
| 【私が推薦する本】 | | | |
| 風に立つライオン | 清 武 町 | 森 下 和 広 | 1月号 |
| 田崎賜恵句集「身ぎれいに」 | 宮 崎 市 | 田 崎 高 伸 | 9月号 |
| 【おしえて! ドクター健康耳寄り相談室】 | | | |
| 県民と医療機関との架け橋 - 宮崎県医師会 | 副 会 長 | 大 坪 睦 郎 | 2月号 |
| C型肝炎の診断と治療 | 副 会 長 | 志 多 武 彦 | 2月号 |
| がん検診 | 常 任 理 事 | 稲 倉 正 孝 | 2月号 |
| 医療に関する苦情について | 常 任 理 事 | 西 村 篤 乃 | 3月号 |
| 花粉と花粉情報 | 常 任 理 事 | 富 田 雄 二 | 3月号 |
| プライマリ・ケアと共感 | 常 任 理 事 | 早 稲 田 芳 男 | 3月号 |
| スポーツとメディカルチェック | 常 任 理 事 | 河 野 雅 行 | 3月号 |
| 医療制度改革 | 常 任 理 事 | 濱 砂 重 仁 | 4月号 |
| 新医師臨床研修制度について | 常 任 理 事 | 夏 田 康 則 | 4月号 |
| レジオネラ感染症の教訓 | 理 事 | 和 田 徹 也 | 4月号 |
| はしかと予防接種 | 理 事 | 浜 田 恵 亮 | 4月号 |
| 緩和ケアについて | 理 事 | 小 玉 徳 信 | 5月号 |
| 痴呆症について | 理 事 | 吉 田 建 世 | 5月号 |
| 骨粗鬆症について | 理 事 | 小 牧 一 磨 | 5月号 |
| 今や手術は痛くない | 理 事 | 高 崎 眞 弓 | 5月号 |
| 病(やまい)は鼻から | 理 事 | 高 橋 政 見 | 6月号 |
| 前立腺癌検診について | 理 事 | 池 井 義 彦 | 6月号 |
| 健診結果の上手な利用の仕方 | 内科医会 | 小 牧 斎 | 6月号 |
| パニック障害とは | 精神科医会 | 小 川 泰 洋 | 6月号 |
| 東洋医学の食養生(薬膳) | 東洋医会 | 井 上 博 水 | 7月号 |
| 紫外線と皮膚 | 皮膚科医会 | 成 田 博 実 | 7月号 |
| 3割負担について | 常任理事 | 稲 倉 正 孝 | 7月号 |

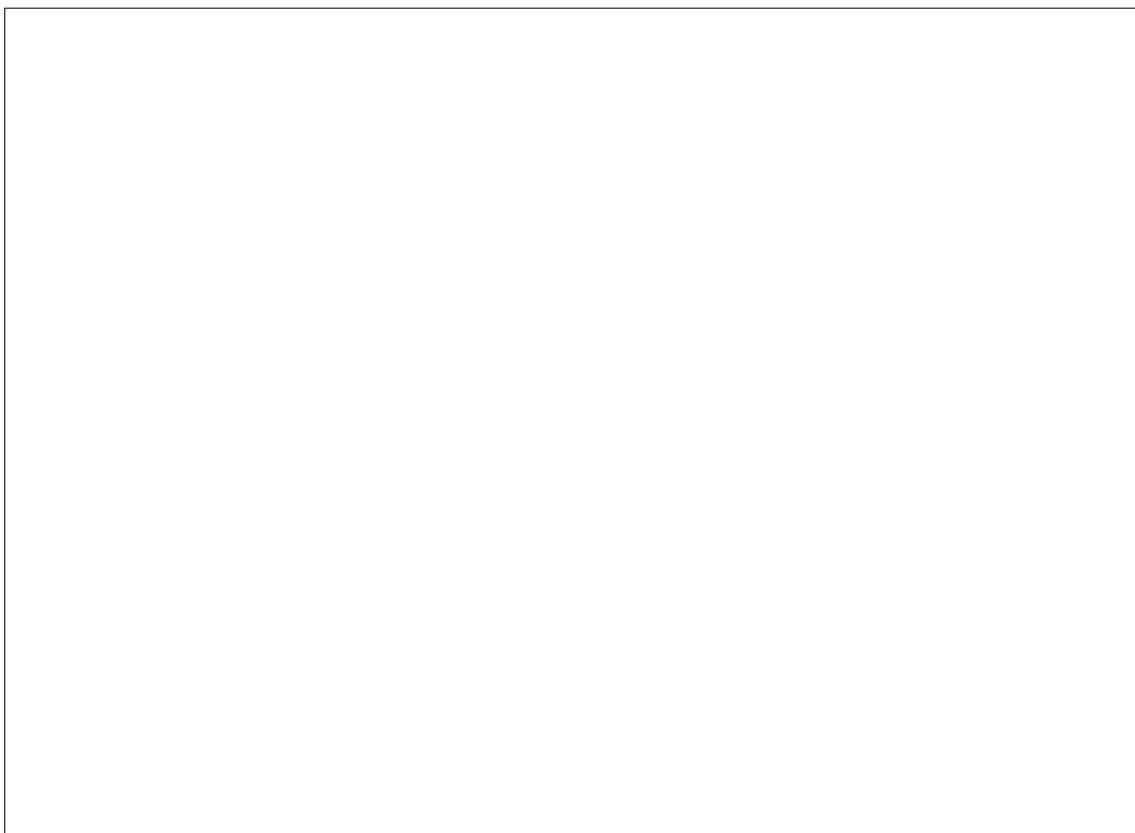
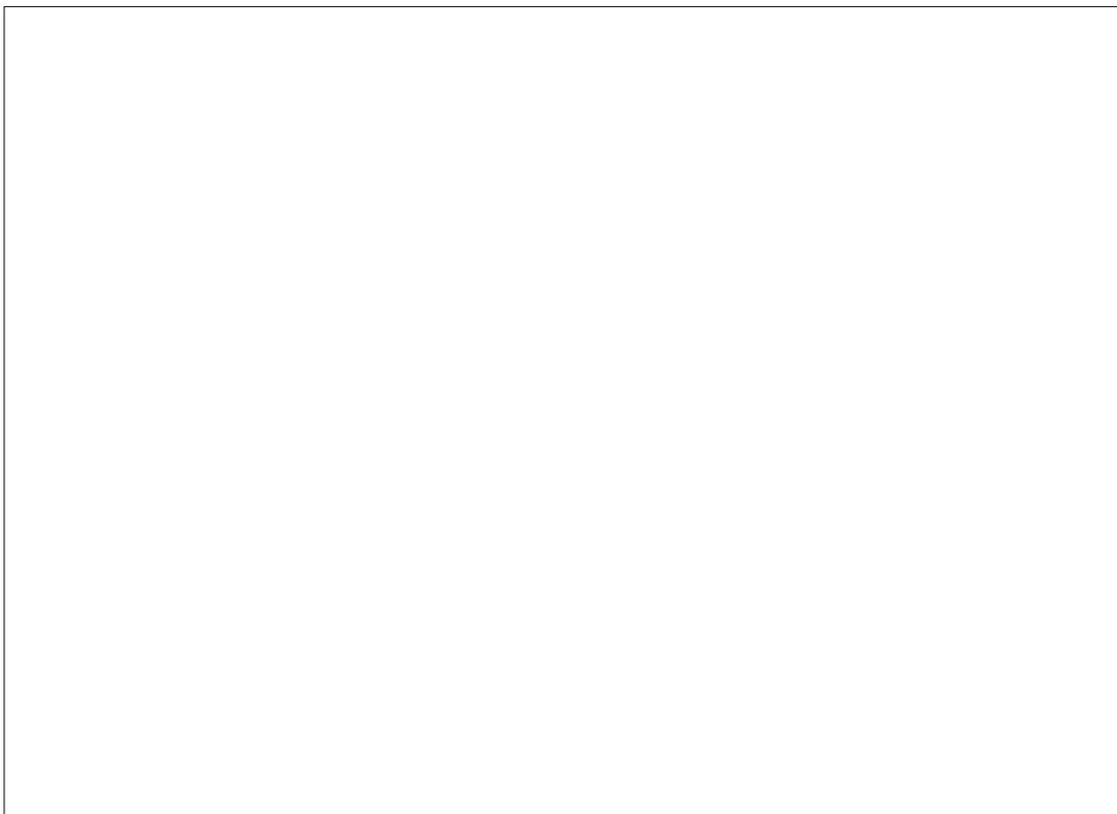
| | | | |
|---------------------------------|---------|------|------|
| 子宮筋腫に対する子宮動脈塞栓術 | 放射線科医会 | 田村正三 | 7月号 |
| 頸(くび)の痛み | 整形外科医会 | 平川俊一 | 8月号 |
| 不妊治療と相談窓口について | 産婦人科医会 | 戸枝通保 | 8月号 |
| 中高年女性の尿もれ | 泌尿器科医会 | 野瀬清孝 | 8月号 |
| うつ病とうつ状態について | 精神科医会 | 岩本直安 | 8月号 |
| 夏かぜについて | 小児科医会 | 三宅和昭 | 9月号 |
| 緑内障について | 眼科医会 | 中馬秀樹 | 9月号 |
| 甲状腺の病気 | 内科医会 | 長倉穂積 | 9月号 |
| 手のしびれと痛み | 整形外科医会 | 戸田勝 | 9月号 |
| 宮崎県の死産率と性感染症 | 産婦人科医会 | 西村篤乃 | 9月号 |
| 寝耳に水 | 耳鼻咽喉科医会 | 宮永敏 | 10月号 |
| 質問コーナー(前立腺について) | 理事 | 池井義彦 | 10月号 |
| 胃の病気とピロリ菌 | 内科医会 | 原口靖昭 | 10月号 |
| 胃癌・大腸癌に対する腹腔鏡を用いた低侵襲手術 | 外科医会 | 岩村威志 | 10月号 |
| 子供の事故防止について | 小児科医会 | 先成英一 | 11月号 |
| とびひについて | 皮膚科医会 | 田尻明彦 | 11月号 |
| 切らずに治す食道がんの治療 - 放射線化学療法 | 放射線科医会 | 宮崎貴浩 | 11月号 |
| 中高年の膝の痛み | 整形外科医会 | 岡田光司 | 11月号 |
| アルコール依存症について | 精神科医会 | 細見潤 | 12月号 |
| 性感染症 | 泌尿器科医会 | 日高正昭 | 12月号 |
| インフルエンザと予防注射 | 内科医会 | 平塚正伸 | 12月号 |
| 下肢静脈瘤の診断と治療 | 外科医会 | 湯田敏行 | 12月号 |
| 【読者のひろば】 | | | |
| | | M 生 | 2月号 |
| | | T 生 | 4月号 |
| | | T 生 | 7月号 |
| | | T 生 | 11月号 |
| | | M 生 | 11月号 |
| 【その他】 | | | |
| 原稿募集：4月号特集「新医師臨床研修制度について」 | | | 2月号 |
| 国保診療報酬審査委員名簿 | | | 3月号 |
| 医師に対する行政処分の方考え方について | | | 3月号 |
| 原稿募集：4月号特集「新医師臨床研修制度について」 | | | 3月号 |
| 特集 新医師臨床研修制度について | | | 4月号 |
| 宮崎日日新聞「この人」より 大坪睦郎先生 | | | 5月号 |
| 苦情相談窓口から | | | 5月号 |
| 原稿募集：はまゆう随筆 | | | 5月号 |
| 原稿募集：はまゆう随筆 | | | 6月号 |
| 電子カルテシステム IZANAMI の紹介 | 荒木賢二 | | 8月号 |
| 審査委員名簿 | | | 8月号 |
| 原稿募集：新春随想 | | | 10月号 |
| 原稿募集：新春随想 | | | 11月号 |
| 原稿募集：新春随想 | | | 12月号 |
| 平成15年総目次 | | | 12月号 |
| 【告知】 | | | |
| 第132回県医定例代議員会開催，県医連執行委員会開催 | | | 3月号 |
| 医協通常総代会開催，県医定例代議員会開催，県医連執行委員会開催 | | | 6月号 |

【ご案内】

| | |
|------------------------|-----|
| 県医定例総会，特別講演，互助会総会，医連大会 | 6月号 |
| 第4回医家芸術展 | 7月号 |
| 宮崎県医学会の開催について | 8月号 |
| 親善ゴルフ大会について | 8月号 |

【お知らせ】

| | |
|---|----------------|
| 各都市医師会への送付文書 | 各号 |
| 「おしえて！ドクター 健康耳寄り相談室」ラジオ放送について | 1月号 |
| 日本医学会総会について | 1月号 |
| 日本医師会年金ご加入のおすすめ | 1月号 |
| 県医メールアドレス取得について | 1月号 |
| 県医師会館内の禁煙について | 1月号 |
| 日本医学会総会について | 3月号 |
| グループ保険加入・増額のおすすめ | 3月号 |
| 日本医師会年金ご加入のおすすめ | 3月号 |
| JPN メール会員登録のご案内 | 3月号 |
| 「ふれあい健康ネットワーク」テレビ放送 | 3月号 |
| 融資契約の一部変更について | 4月号 |
| 今，宮崎県では麻疹の大流行の兆しがみられます！ | 5月号 |
| 医家芸術展作品募集 | 5月号 |
| 諸会費決定について | 5月号 |
| 日本医師会年金ご加入のおすすめ | 6月号 |
| 薬事法及び採血及び供血あつせん業取締法の一部を改正する法律の施行について | 宮崎県保健薬務課 7月号 |
| 予防接種の機会拡大について | 7月号 |
| ボーナス資金等融資のご案内 | 7月号 |
| 宮崎県医師会館閉館について | 8月号 |
| 平成15年度の医療法第25条第1項の規定に基づく立入検査の実施について | 9月号 |
| 健康診断時及び予防接種の費用について | 9月号 |
| 臓器移植にご協力をお願いします | 宮崎県保健薬務課 9月号 |
| 労働条件自主点検にご協力をお願いいたします | 宮崎労働局 9月号 |
| 輸血用血液製剤の感染リスクと情報提供 | 9月号 |
| 「生命を見つめる」フォトコンテスト | 9月号 |
| グループ保険加入・増額のおすすめ | 9月号 |
| 労災診療費算定基準の一部改正に伴う自賠責保険診療費算定基準の
逡減制等の取り扱いについて | 常任理事 河野雅行 10月号 |
| 融資契約の一部変更について | 10月号 |
| 県医師会職員等の配置について | 11月号 |
| お願い：施設入所者のインフルエンザ予防接種について | 11月号 |
| 少額減価償却資産の取得価格の損金算入の特例について | 11月号 |
| ボーナス資金等融資のご案内 | 11月号 |
| オルカ導入について | 11月号 |
| オルカ導入で何ができるのか？ | 宮崎幸重 11月号 |
| 宮崎県医師会館閉館について | 12月号 |



「新春随想」原稿募集

平成16年1,2月号に恒例になりました「新春随想」欄を企画いたしております。この欄は大変好評ですので、奮ってご投稿をお願い致します。

題 材 医事評論, 診療閑話, 身辺雑記, 詩歌, 俳句等なんでも結構です。
本文に関連した写真・イラスト等(1枚のみ, カラー印刷はできません)も掲載できます。

字 数 800字以内(字数が多い場合は「新春随想」として掲載できないことがありますのでご承知ください)

締 切 平成15年12月25日

宛 先 宮崎県医師会広報委員会

原稿には「新春随想」と明記してください。

掲載については、広報委員会にご一任下さいますようお願い致します。

原則として、原稿はお返しいたしません。返戻を希望される方はその旨ご指示下さい。

原稿は、FAX, 電子媒体にても受け付けております。テキスト形式で保存し、ディスクまたはメールにて下記へお届けください。(タイトル, ご氏名を先頭に付記してください)

宛先: 〒880-0023 宮崎市和知川原1丁目101

FAX 0985-27-6550

E-mail: genko@miyazakimed.or.jp

日 州 医 事 第652号(平成15年12月号)

(毎月1回10日発行)

発行人 社団法人 宮 崎 県 医 師 会

〒880-0023 宮崎市和知川原1丁目101番地

TEL 0985-22-5118(代) FAX 27-6550

<http://www.miyazakimed.or.jp/>

E-mail: office@miyazakimed.or.jp

代表者 秦 喜 八 郎

編 集 宮崎県医師会広報委員会

委 員 長 井上 久

副 委 員 長 川名 隆司

委 員 市来 緑, 大藤 雪路, 加藤 民哉

小村 幹夫, 佐々木 究, 田尻 明彦

三原 謙郎, 森 継則

担当副会長 大坪 睦郎

担当理事 富田 雄二, 池井 義彦

事務局学術課 崎野 文子, 竹崎栄一郎, 千原佐知子

カット 武 藤 布美子

印刷所 有限会社 ケイ・プロデュース

定 価 350円(但し 県医師会員の講読料は会費に含めて徴収してあります)

●落丁・乱丁の際はお取り替えいたします。